

1998（平成10）年度

# 講義内容

仙教学部

駒澤大學

# 講 義 内 容

## 目 次

1	専 門 教 育 科 目 .....	5
2	他 学 部 履 修 科 目 .....	他 1
3	短 大 仏 教 科 開 設 科 目 .....	他 81
4	随 意 科 目 .....	随 1
5	日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目 .....	日 1
6	教 職 ・ 資 格 講 座 .....	教 1

専門教育科目

他学部履修科目

他学部履修科目	短大仏教科開設科目
---------	-----------

随意科目

日本事情科目	日本語
--------	-----

教職・資格講座



# 1 專門教育科目

## 仏 教 学 部





# 専 門 教 育 科 目

禅学序	説(大谷哲夫)	5
仏教学序	説(田上太秀)	5
仏教学序	説(伊藤隆壽)	6
坐禅	I (小坂機融・岩永正晴・河村孝道・飯塚大展)	6
宗典	(黒丸寛之)	7
宗典	(河村孝道)	7
宗典	(石井清純)	8
禅学研究	I (小坂機融)	8
禅学研究	II (青龍宗二)	9
禅学研究	III (岩永正晴)	9
禅学研究	IV (石井修道)	10
仏教研究	I (伊藤隆壽)	10
仏教研究	II (池田魯参)	11
仏教研究	III (古津宜英)	11
仏教研究	IV (池田練太郎)	12
インド仏教史	(田上太秀)	12
パターリ仏教史	(休講)	
ベット仏教史	(木村誠司)	13
中国仏教史	(岡部和雄)	13
朝鮮仏教史	(石井公成)	14
日本仏教史	(高橋秀栄)	14
中国禅宗史	(田中良昭)	15
日本禅宗史	(原田弘道)	15
禅籍講読	I (佐藤秀孝)	16
禅籍講読	II (永井政之)	16
禅籍講読	III (峰岸孝哉)	17
禅籍講読	IV (石井清純)	17
仏典講読	I (金沢篤)	18
仏典講読	II (池田練太郎)	18
仏典講読	III (池田魯参)	19
仏典講読	IV (飯塚大展)	19
宗教史	(長谷部八朗)	20
インド仏教文化史	(奈良康明)	21
中国仏教文化史	(永井政之)	22
日本仏教文化史	(袴谷憲昭)	22
日用經典	(皆川広義)	23
禅学概論	(佐藤秀孝)	24
仏教概論	(平井俊榮)	24
中国古典語初級	(石井公成)	25
インド哲学史	(金沢篤)	25
中国哲学史	(前川亨)	26
西洋哲学史	(中村友太郎)	26
インド仏教思想史	(松本史朗)	27
中国仏教思想史	(伊藤隆壽)	27
原始仏教	(片山一良)	28

真淨真日新神外外禪禪禪禪	宗土言蓮宗道	学学学教教	概概概概	論論論說說	(休講)(廣川堯敏)(向井隆健)(休講)(休講)(中西正幸)	29				
外禪禪禪禪	國語國語	學學學	概概	說說	(池田練太郎)(大西龍峯)	30				
禪禪禪	學學學	特特特	講講講	I II III	(原田弘道)(黒丸寛之)(大谷哲夫)	31				
禪禪	學學	特特	講講	IV	(青龍宗二)	32				
仏教	教教	特特	講講	I II	(高橋秀栄)(休講)	33				
仏教	教教	特特	講講	III IV	(四津谷孝道)(奥野光賢)	34				
仏教	教教	伝道	概說	(皆川広義)		35				
仏教	教教	伝道	研究	(皆川広義)		36				
青少	少年	問題	研究	(讚岐真佐子)		37				
青少	少年	指導	演習	(平野学)		38				
宗	教	法	概	說	(洗建)	39				
詩				偈	(山口晴通)	40				
書				道	(野村宙弘)	41				
現	代	と	仏	教	(峰岸孝哉)	42				
宗	教	学	概	論	(長谷部八朗)	43				
キ	リ	ス	ト	教	論	(野沢協英)	44			
哲	学	概	說	(杖下隆徳)		45				
宗	教	哲	学	(田丸保陽)		45				
現	代	哲	学	概	說	(久保陽一)	46			
仏	教	民	俗	学	(谷口貞)	46				
宗	教	教	育	(小山一乘)		47				
心	理	学	概	論	(茅原正)	48				
パ	ー	リ	語	初	級	(片山一良)	49			
パ	ー	リ	語	上	級	(福田孝雄)	49			
サ	ン	ス	ク	リ	ット	語	初	級	(金沢篤)	50
サ	ン	ス	ク	リ	ット	語	上	級	(金沢篤)	50
チ	ベ	ッ	ト	語	初	級	(松本史朗)	51		
チ	ベ	ッ	ト	語	上	級	(木村誠司)	51		
中	国	古	典	語	上	級	(小川隆)	52		
ラ	テ	ン	語	(佐藤玖美子)		52				
仏	教	文	献	学	(椎名宏雄)	53				
中	国	文	学	講	読	(末木恭彦)	54			
禪		美	術	(海老根聰郎)		54				
仏	教	美	術	(中島亮一)		55				
坐		禪		II	(永井政之・石井清純)	55				
演		習	I	II	(飯塚大展)	56				
演		習	I	II	(岩永正晴)	56				

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅 学 序 説	おお なた てつ を 大 谷 哲 夫	禅 1 必	4

講義のねらい

釈尊の成正覚をその起源として、インド・中国・日本に展開した禅仏教の歴史と思想と意義を、①仏教における禅の地位、②禅の歴史、③公案の禅と只管打坐の禅、④禅と現代思想に分けて概説し、特に現代人の新しい精神的よすがとしての禅仏教の思想を、禅者の生き方、またその言葉なりを通して、その捉えようを概説する。

教 科 書

講義ノートによる。

参 考 書 等

適宜に指示する。

そ の 他

本講義にのぞみ、予め読むべき参考書などは特に指定はしないが、概説するにともない適宜に参考図書をあげる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 学 序 説	た がみ たい しゅう 田 上 太 秀	仏 教 1 必	4

講義のねらい

仏教とは何かを多方面に亘って、浅く広く講義する。今日、仏教に対する誤解が社会に広がっている現状を踏まえ、それらの誤解を解くための基礎知識を伝えるように努力する。

講義の内容・  
授業スケジュール

一年間の講義内容を目次にしたものをつぎに挙げておく。

- 第一章 光陰は矢よりを速し。～諸行無常。
- 第二章 因果の道理に私なし。～縁起説。
- 第三章 無明の酒に酔う。～十二因縁説。
- 第四章 浮き世は夢のごとし。～空思想。
- 第五章 解脱は一味なり。～涅槃寂静。
- 第六章 世間は心の産物。～三界唯一心説。
- 第七章 身体は汚物の皮袋。～五蘊不浄説。
- 第八章 佛も昔は凡夫なり。～仏性思想。
- 第九章 垢も身のうち。～煩惱即菩提説。
- 第十章 業も過ぎれば毒となる。～中道説。
- 第十一章 情は人のためならず。～四摂法。
- 第十二章 仏にまかせる。～念仏と禅。
- 第十三章 女身では悟れぬ。～變成男子説。

教 科 書

『仏典のこたば』（上・下）田上太秀著 NHK出版 各850円

参 考 書 等

『四十二の教訓～四十二章経を語る』田上太秀著 日新出版 1,600円  
『仏教と性差別』田上太秀著 東京書籍 1,200円



科目名	担当者名	配当学年	単位
仏教学序説	伊藤隆壽	仏教1必	4

- 講義のねらい** この講座は、仏教をはじめて学ぶ学生諸君に「仏教とは何か」という問題意識をもってもらい、仏教にかかわる基礎知識を身につけることを目的としている。
- 講義の内容・授業スケジュール** およそ次のような内容を考えている。  
1. 仏教とは何か(序) 2. 仏教の信仰対象と仏典 3. 釈尊の生涯 4. 縁起説  
5. インド古代思想 6. 原始仏教の思想 7. 仏教の展開
- 履修上の留意点** 仏教に関心を持ち、仏教を学ぶ目標・目的を早く見出してほしい。
- 成績評価の方法** 年度末の試験による。
- 教科書** 松本史朗『仏教への道』東京書籍 1,400円
- 参考書等** 参考書・資料等適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
坐禅 I	小坂機融 岩永正晴 河村孝道 飯塚ひろぶ	禅・仏教2必	4

- 講義のねらい** 仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾汚染の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正偏知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのでなければ、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所期の仏法を行持することに勤めて行く。
- 講義の内容・授業スケジュール** 全時間、坐禅実習・経行・講義を行い、前期は『正法眼蔵』『坐禅儀』と『経行軌』について、後期は『普勸坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。
- 履修上の留意点** 仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。  
①新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。  
②時間厳守：始鈴10分前に全員入室し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。  
③私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。  
④威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装に心掛け(暑季は白のYシャツ可)、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳肅に勤めること。  
⑤直堂の当番：直堂を、毎時間2名(前策と後策)ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、預め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。
- 成績評価の方法** ①全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。  
②追試・再試等による救済措置は、全く無い。
- 教科書** 『坐禅講本』(更生社) 2,266円
- 参考書等** 『坐禅用心記』『普勸坐禅儀不能語』
- その他** 授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 典	くろ まる かん じ 黒 丸 寛 之	禅 2 必	4

講義のねらい

この講座は、本学の建学の理念に基づいて講義されている道元禅師と瑩山禅師の著述の中から、その主著として知られる『正法眼蔵』と『伝光録』について概説する必修の講座である。したがって、それぞれの宗典について、主としてその成立と思想を中心に述べることになるが、授業スケジュールや教科書については、新年度の開講のときに示すこととする。また、成績評価は、必修科目でもあるので、出席状況による平常点と期末試験による理解度によって評価される。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 典	かわ むら こう どう 河 村 孝 道	仏 教 2 必	4

講義の内容・授業スケジュール

道元禅師の主著『正法眼蔵』（75巻、12巻他）を講読し、『正法眼蔵』の説示を通して日本曹洞禅の宗旨の要諦を学ぶ。

教 科 書

「道元禅師全集」第1巻・第2巻（『正法眼蔵』校注）

科目名	担当者名	配当学年	単位
宗 典	いし 井 せい 純 石 井 清 純	仏教2必	4

- 講義のねらい** 曹洞宗の両祖である道元・瑩山両禅師の著作を通じて、禅籍の読解力を養いつつ、日本曹洞宗の宗風の基礎を学ぶ。
- 講義の内容・授業スケジュール** はじめに、両禅師の著作全体を概観し、その思想的特徴を考える。のちに『伝光録』・『正法眼蔵』の順にテキストを読み進める。なお、『正法眼蔵』については、「行持上」の巻を予定している。
- 成績評価の方法** 前期終了時の小テストと、学年末試験によって評価する。
- 教科書** プリント配布。
- 参考書等** <<正法眼蔵>>  
 ※河村孝道校註『道元禅師全集』巻1・2（春秋社）  
 ※水野弥穂子校註『正法眼蔵』4冊（岩波文庫）  
 <<伝光録>>  
 ※孤峰智庵校註『冠註伝光録』（鴻盟社）  
 ※東 隆眞訳註『現代語訳伝光録』（大蔵出版）  
 この他各種出版されているが、各一揃いずつ揃えておくことが望ましい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
禅学研究Ⅰ	こ さか き めう 小 坂 機 融	禅2・3選必 仏教2・3選	4

- 講義のねらい** 「坐禅観の種々相」。  
中国・日本で展開された坐禅観の変遷を辿り、道元禅師の正伝の仏法としての坐禅について講ずる。
- 講義の内容・授業スケジュール** 一、仏教における坐禅の位置。  
二、中国仏教における坐禅受容の実相と変遷（諸「坐禅論・銘・箴」等の吟味）。  
三、日本仏教における坐禅受容の実相。  
四、道元禅師の坐禅観（『正法眼蔵』中の坐禅に直接する諸巻の講読）。
- 履修上の留意点** 坐禅観に関連する原典を指示し、これを読みながら進めて行くので、配布されたものについて予習しておくこと。
- 成績評価の方法** 学期末の筆記試験、出席状況および時折要求するレポート等を加味して評価する。その他、救済措置は一切とらない。
- 教科書** 関連する文献は、コピーして配布する。
- 参考書等** 衛藤即応『正法眼蔵序説－弁道話義解－』、鏡島元隆『道元禅師とその周辺』。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅 学 研 究 Ⅱ	せい りゅう むね つぐ 青 龍 宗 一	禅 2・3 選 必 仏 教 2・3 選	4

講義のねらい

禅の実践的教義である修証の意義を清規（坐禅・戒律）を通して把握してゆく。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 講義は以下の内容で順次行う。
- (1) 禅における修証観。
  - (2) 禅における清規の成立とその展開。
  - (3) 道元禅師の修証観。
    - (イ) 仏行（本証妙修・不染汚行）の意義。
    - (ロ) 仏行と禅戒・清規。
    - (ハ) 坐禅と戒律との歴史的課題。

そ の 他

- (1) 履修上とくに原典をよく読んでおくことが講義内容を理解してゆく上で非常に重要である。
- (2) 成績評価は年度末の定期試験で行う。(3)教科書は特に使用しないが、(4)参考書は開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅 学 研 究 Ⅲ	いわ なが しょう せい 岩 永 正 晴	禅 2・3 選 必 仏 教 2・3 選	4

講義のねらい

この講義に課せられている大きなテーマは「教団」です。曹洞宗の範囲に限るにしても、教団のあるべき姿つまり理念や、教団がたどってきた歴史、社会と教団との交渉など、さまざまな視点からの考察ができそうなテーマです。そのうちこの講義では、江戸期における教団のあり方と宗乗研究の関係という視点を据えてみようと思います。具体的には、教団運営に関わる制度を改めることで、その後の宗乗研究の発展を促した、宗統復古運動を取り上げます。

講義の内容・  
授業スケジュール

宗統復古運動の記録として代表的な『宗統復古志』の講読を中心に講義をすすめます。

教 科 書

『続曹洞宗全書』所収本を用いますので、コピーを配布します。



科目名	担当者名	配当学年	単位
禅学研究Ⅳ	石井修道	禅2・3選必 仏教2・3選	4

講義のねらい

禅学研究Ⅳは、科目内容としては歴史に関するものである。今年度は、『中国禅宗史話』（禅文化研究所）を教科書として使用し、中国禅に登場する著名な禅者を歴史を追って紹介する。

禅宗史上著名な禅者を20名程紹介するが、紹介するにあたって2つの点に留意して講義を進めたい。

1つは、話の題材がどこから来ているのか。その話に変遷がある場合には、どのように変化していったか。公案として用いられた場合に、なぜ公案化されたのか。その資料として『宗門統要集』との関係があるかどうか、等の問題である。

他の1つは、道元禅師とそれらの禅者とどのようにかわるか。道元禅師の取り上げ方を見て、道元禅師の教えとの相違が明確な場合は、それを指摘したい。

講義の内容・授業スケジュール

①禅学とは。②禅とは何か。③禅宗史の研究法(一)(二)(三)。④陳垣と私。⑤達摩(一)(二)。⑥慧能(一)(二)。⑦唐代禅者(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)。⑧日中交流による禅(一)(二)。⑨宋代禅の特色(一)(二)(三)。

履修上の留意点

授業で取り上げる研究書や資料を、図書館に行って実際に触れてみる事。

成績評価の方法

レポート（夏休み後提出）20点、年度末試験80点満点で評価する。

教科書

『中国禅宗史話』（禅文化研究所） 3,605円

参考書等

『景德伝燈録』（中文出版社） 2,880円

科目名	担当者名	配当学年	単位
仏教研究Ⅰ	伊藤隆壽	仏教2・3選必 禅2・3選	4

講義のねらい

本講座は、仏教の教義について扱うのであるが、今年は中国仏教の教義について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

およそ次のような内容を予定している。

1. 初期の仏教 2. 羅什及び南北朝の仏教 3. 随唐の諸宗 4. 宋代以後の仏教

履修上の留意点

授業中に適宜参考資料の紹介やコピー資料の配布などをするので、自主的に受講してほしい。

成績評価の方法

年度末の試験による。

教科書

特に教科書は使用しない。

参考書等

参考書等は授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
仏教研究Ⅱ	いけ だ る さん 池 田 魯 参	仏教2・3選必 禅 2・3選	4

講義のねらい

後世、日本の仏教に大きな影響を与えることになった、中国で成立する諸種の仏教儀礼が、どのような意図の下で編まれるにいたったのか、その意義を究明する。

隋代に天台山に住した智顛は、あるべき仏教教団の日常の修行法として、「四時の坐禅」と「六時の礼仏」を定めた。一日の決まった時間帯に僧衆が全員揃って坐禅をし、礼拝することを義務づけたのである。坐禅と礼拝を柱にして、その他の作務労働を含む日常の言動がすべて仏道修行であると明記している。このような日常行儀と並行して別個の修行法を定め、それらを「四種三昧」として体系化している。

礼の伝統思想の中で育まれた中国の仏教者たちは、インドの聖人である釈尊の教え（経典）にもとづいてどのように振舞ったらいいのかということに強い関心を示した。こういう意識の下でそれぞれの経典にもとづく修行法が考察されることになるのである。

本年は、智顛が作った『金光明懺儀』が経典の教説にもとづいてどのように儀礼化されるにいたったのか、その秘密を読み解きたい。

教科書

コピーを配布。

参考書等

池田魯参『国清百録の研究』大蔵出版 20,000円  
池田魯参『摩訶止観研究序説』大東出版 8,500円  
池田魯参『詳解摩訶止観』全三巻 大蔵出版

科目名	担当者名	配当学年	単位
仏教研究Ⅲ	よし ず よし ひで 吉 津 宜 英	仏教2・3選必 禅 2・3選	4

講義のねらい

近時、新宗教といわれる宗教運動が盛んであり、社会的に事件を起こすことも多い。信教の自由が保障され、宗教への政治的な介入が制限されていることは大切なことである。しかし、宗教団体の方から政治的な活動に志向する場合もある。そこで、「宗教法人法」の改訂の是非が問題とされている昨今である。

一体、宗教は個人の営みとして限定されうるのであろうか。また、社会的な側面、ひいては集団、教団といわれるものとしての必然性があるのであろうか。

この講義では世界の諸宗教、特に仏教における個人と社会、個人と集団、あるいは教団の問題を多角的に考察してみたい。

その考察の中心に戒と律との相互関係を措く。戒は原則的に個人の良き生活習慣と言えよう。その習慣が集団の、あるいは教団の共通の認識や、共通の生活規程となると律となる。

この戒の機能と律の機能が、歴史的に見て、どのような関係となっているのであろうか。また、現代の日本の宗教の社会的役割の問題との関連ではどのような相互関係としてあるべきであろうか。戒と律の機能と両者の相互関係の様相を、社会の諸規範たとえば倫理道德や法律体系との関連の中で考究したい。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では伝統的な仏教の戒と律の文献全体を視野に措きたいと思うが、直接的には鎌倉時代の東大寺戒壇院の僧、凝然（1240-1321）の『律宗綱要』を中心に据えて、研究考察を進めたい。

したがって、鎌倉時代の歴史的文脈の中で考えることが多いが、仏教的には広く釈尊から現代までを視野に入れ、宗教的には世界の諸宗教の教団のあり方や、戒や律の問題などにも目配りをしたい。

履修上の留意点

この講義専用のノートを用意し、講義内容を書き留め、また皆さん自身の意見や疑問も書き込んでもらいたい。質問は大歓迎で、私の方から皆さんに質問し、応答を求める。

成績評価の方法

前期はレポート、後期は小論文を提出してもらおう。それと出席点とを勘案して評価する。

教科書

教科書や参考書類は講義の中で適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
仏教研究Ⅳ	いけ だ れん たろう 池 田 練 太郎	仏教2・3選必 禅2・3選	4

- 講義のねらい** 「仏教研究Ⅳ」は歴史を中心に扱うことになっている。本講義は、富永仲基（1715～1746）の著した『出定後語』を題材にして、仏教の歴史について考察する。仲基は誰もが大乘仏教の経典は全て伝説であると信じて疑わなかった時代に、諸仏典の中に存在する種々の矛盾点や異説を指摘して、それらが釈尊の直説ではなく以後の歴史的展開の所産であることを主張した。その内容は現代の仏教研究の成果に一致する点も多い。授業では仲基の仏教理解を今日の研究成果と比較検討し、さらに彼の学問に対する姿勢から仏教研究の在り方についても考えていきたい。
- 講義の内容・授業スケジュール** 『出定後語』は25の章で構成されているが、その中からいくつかを選び、特に思想史的な立場から考察していく。
- 成績評価の方法** 基本的には、年度末の定期試験によって評価する予定。
- 教科書** 最初の授業の折に説明する。
- その他** 受講者が何らかの形で授業に参加できるよう配慮したい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
インド仏教史	た がみ たい しゅう 田 上 太 秀	禅・仏教2・3選必	4

- 講義のねらい** インド仏教史はたんに仏教の歴史の講義に止まらず、インド哲学思想やインド文化史の中に位置づけられた仏教の様相を時代を追って講義しようと考えている。  
たんに歴史の叙述だけでなく、それぞれの事象を残された彫刻や絵画などで紹介したり、植物や動物の関わりにも触れて説明をしたい。
- 講義の内容・授業スケジュール** 昨年の講義に準じて本年の講義は進めるが、多くはプリントを配布し、それを資料にして講義する。  
講義内容・目次  
第1章 ゴータマ・ブッダ以前のインド  
第2章 ゴータマ・ブッダの生きた時代の社会環境  
第3章 ゴータマ・ブッダの生涯  
ブッダの系譜、ブッダの誕生、ブッダの少年時代、出家の動機、修行生活、菩提樹下の開悟、45年間の伝道活動、死への旅  
第4章 ブッダの根本思想 四諦八正道  
第5章 仏教の分類  
地域的区分、教理展開の時代的区分、修行の価値的区分  
第6章 アショーカ王と仏教  
第7章 教団分裂と部派の仏教  
第8章 経典の成立  
第9章 大乘仏教の起源  
第10条 大乘仏教の思想の流れと特色  
第11条 主な仏教文献の種類と思想
- 教科書** テキストはコピーを配布する。
- 参考書等** 参考書・仏教史概説（インド篇）佐々木教悟ほか著、平楽寺書店 750円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
チベット仏教史	木 村 誠 司 <small>きむら せいし</small>	禅・仏教2・3 選必	4

講義のねらい

チベット仏教は、近年、多くの人々から注目を浴びている。一般的には、『チベット死者の書』に代表される密教的な面に関心が集まっているが、このような傾向は、チベット仏教の本質を見失う要因ともなっている。本講義では、チベット仏教史における重要な教理論争を取上げ、チベット仏教の本質を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験あるいは、レポートによって行う。

参 考 書 等

山口瑞鳳『チベット』上下 東京大学出版会  
松本史朗『チベット仏教哲学』大蔵出版

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中国仏教史	岡 部 和 雄 <small>おかべ かずお</small>	禅・仏教2・3 選必	4

講義のねらい

中国における仏教の歴史的発展を時代に分けて概説的にたどり、その道すじや特色を明らかにする。いうまでもなく中国仏教という語はBuddhism in Chinaの意味で一般に用いられているが、Chinese Buddhism（「中国人の仏教」または「中国の仏教」）をも意味するのであろう。そして後者の意味するところは、インド仏教や日本仏教とは異なる“中国独自の仏教”ということになる。この観点に立てば中国仏教史とは、中国独自の仏教の形成史にほかならない。

中国仏教史を正しく理解するには、2つの前提が必要と思われる。1つはいうまでもなく仏教についての知識である。仏教はインドの起源であるから、インドのオリジナルな仏教についての予備知識が不可欠である。他の1つは中国史とくに中国思想史についての大きな知識である。中国では紀元前にすでにインドに劣らない多彩な古典哲学（諸子百家の思想、とくに儒家と道家の思想）が開花した。インドから伝来した仏教は、それらの中国固有の伝統思想と出会い、抗争し、融合した。中国は新しい外来の宗教である仏教を受容して仏教化した。他方、受容された仏教は、それまでの仏教（インドや西域の仏教）とは相貌を異にするほど著しく中国化されてしまった。このように考えれば、中国仏教史とは「中国の仏教化」と「仏教の中国化」を同時に1つの歴史過程のなかにふくむものであり、この2つの契機を思想のダイナミズムとしてたえず注目していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

年度はじめに全体を12章に分けた講義内容を提示する。

履修上の留意点

特に教科書を指定しない。しかし中国仏教史の通史、概説書、研究書は、内外にわたって豊富なので、必要に応じて、それを紹介し、学説が対立している場合は、その問題点を集約し論評を試みる。中国史については『中国史研究入門』上下（山根幸夫編、山川出版社 1983）がすぐれている。



科目名	担当者名	配当学年	単 位
朝鮮仏教史	いし 井 公 成	禅・仏教2・3選必	4

講義のねらい

仏教伝来から現代に至るまでの朝鮮仏教について概説する。

講義の内容・授業スケジュール

仏教伝来の状況と、朝鮮仏教精華である新羅仏教に重点を置き、資料を読みながら通説を批判的に検討してゆく。その際、中国・日本・チベット・ベトナムなどの仏教受容との共通点と違いに注意したい。

履修上の留意点

漢文文献が中心となる。仏教漢文の訓練という点も考慮し、漢文の基礎力がつくような授業形態とするが、自分から積極的に漢文に取り組もうとする姿勢が必要となる。

成績評価の方法

年度末試験によって判定するが、授業中に熱心に取り組んでいた者については、平常点を加算する。

教科書

参考書は数が少ないため、授業内容に応じて関連論文の一覧を配布する。

参考書等

鎌田茂雄『朝鮮仏教史』（東京大学出版会 2,400円）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
日本仏教史	たか ぼし しゅう えい	禅・仏教2・3選必	4

講義のねらい

仏教伝来から鎌倉時代までの歩みを概観する。

講義の内容・授業スケジュール

日本仏教の歩みは、欽明天皇からはじまるが、中国仏教の影響をつよく受けながら発展しただけに、複雑多彩な内容を呈している。講師にとっては初めての講座であり、欲張ったことはできないが、飛鳥・奈良・平安・鎌倉時代までの仏教の歩みを、信仰が育んだ文化や美術とも関連させながら講義したいと思っている。

履修上の留意点

常日頃から仏教辞典や概説書に親しみ、人名、寺名、書名の正しい読みや基礎的な仏教知識を身につけておくことが望ましい。

成績評価の方法

十枚以上のレポート提出。評価は厳しい。

教科書

随時プリントを配布。

参考書等

豊富にあるので、随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
中国禅宗史	たなか りょう しょう 田 中 良 昭	禅・仏教2・3 選必	4

講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達摩を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・授業スケジュール

菩提達摩の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達摩の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪洲宗、石頭の石頭宗によって禅宗が一宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐末・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

成績評価の方法としては、学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教科書

教科書としては、現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参考書等

参考書としては、比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史 — 中国 —』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真人『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
日本禅宗史	はら だ ひろ みち 原 田 弘 道	禅・仏教2・3 選必	4

講義のねらい

我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。

- I. 栄西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅 —— 教禅禅の性格をもったもの。
- II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
- III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雑に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の二代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
- IV. これらの臨済禅とは別に道元によって伝来され、盤山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
- V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅 —— 念仏禅 —— である。

講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想史的意義も明らかにしておく。

講義の内容・授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代）、2. 兼修禅の勃興とその系譜、3. 曹洞禅の伝来と原始僧団、4. 臨済禅の伝来と形成、5. 五山の成立と五山文学、6. 臨済禅（応・燈・関）の展開、7. 曹洞禅の地方展開、8. 近世の禅宗、9. 近代の禅宗

履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

参考書等

『禅の歴史 — 日本 —』（講座禅第四巻）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』  
荻須純道『中世日本禅宗史』

科目名	担当者名	配当学年	単位
禅籍講読Ⅰ	佐藤秀孝 <small>さとう しゅうこう</small>	禅3・4選必 仏教3・4選	4

講義のねらい

この講義は中国禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものである。中国禅宗は南北朝期（梁・北魏）の渡来僧菩提達磨（達摩とも）に始まり、唐・宋代に開花・隆盛しているが、ここで初期の禅籍というのはとくに唐末五代以前に成立したものをその対象としている。はじめに初期禅宗から南北二宗の対峙、洪州宗から五家（漚仰・臨濟・曹洞・雲門・法眼の五宗）の成立頃までの中国禅の思想的展開を主要な禅籍を通して概観する。とりわけ、20世紀初頭に中国西部の敦煌から出土した敦煌写本の禅籍や、同じく朝鮮半島の海印寺から発見された『祖堂集』などは、初期の禅宗の歴史と思想の実態を知る上で絶大な影響を及ぼしていることから、そうした近年の研究成果を踏まえて禅籍の成立・流伝の歴史的な背景を考察したい。その後に当該の禅籍のいくつかを講読し、祖師たちの示した教えが如何なるものであったのかを明らかにしていく。対象となる禅籍としては、『二入四行論』『無心論』『絶観論』『六祖壇経』『証道歌』『参同契』『宝鏡三昧』などであり、さらに『祖堂集』などから特徴的な祖師の事跡を学んでみたい。初期の禅籍は禅の思想のもっとも基本となるものの考え方が確立されていく時期に著されたものであり、その後展開した禅思想もすべてこれを踏まえているといつてよい。その面では初期の禅籍を読解することこそ、禅を理解する上での鍵となるものであろう。

教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、資料をコピーにて配布するものとする。

参考書等

参考書としては、『禅の語録』（筑摩書房）のシリーズ、『禅語録』（中央公論社・世界の名著）や『禅家語録』Ⅰ・Ⅱ（筑摩書房）などがある。

その他

授業の方法としては、前半の初期禅籍の紹介・研究は講義形式で行うのを原則とするが、後半の禅籍の講読では学生諸氏にも具体的に初期禅宗の禅籍を逐一読んで頂くので、そのつもりで臨んでもらいたい。禅籍に対する読解力が深まるよう指導したい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
禅籍講読Ⅱ	永井政之 <small>なが い まさし</small>	禅3・4選必 仏教3・4選	4

講義のねらい

前年度に引き続き覚範慧洪(1071～1128)の『林間録』を読む。このテキストの中で、慧洪は当時の禅宗界の動向に対して、さまざまな角度から論評をなしている。それらを通して、北宋禅林の動向を考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

原文は漢文であるが、日本で刊行され返り点等の付されたものを受講生に読んでもらう。漢文に馴れてもらうためである。

教科書

教科書はない。当該個所のコピーを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅 籍 講 読 III	みね かし こう さい 峰 岸 孝 哉	禅 3・4 選 必 仏 教 3・4 選	4

講義のねらい

『道元禅師語録』を読む  
 本書は宗門では『永平元禅師語録』、または単に『永平略録』と呼ばれてきたものである。これを上記のように『道元禅師語録』と改称して刊行したのは、大久保道舟博士が最初とされる。本書は『永平元禅師語録』として延文3年(1358年)、永平寺六世曇希によって開版されたが、江戸時代にいたるまで幾度か版を重ねていることが確認されるから、宗門でも広く読まれてきたとみることができよう。  
 本書の原典となったのは、永平道元(1200年～53年)が開堂した興聖寺・大仏寺・永平寺における上堂語が中心をなす『永平広録』十巻が考えられるが、本書の成立についてはまだ不明な点も多いとしなければならない。なぜならば曇希が刊行したのは、天童如浄の会下において、永平道元と同門であった無外義遠の手によって抄録された『永平広録』と考えられるからである。  
 このように本書の成立、その歴史的 성격、および宗門教学に対する影響等々、今後吟味されるべき課題は多く残されているが、こうした課題に対して、本文の精読を通じて考えたいというのが本講の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいの記述にみられるように本書の成立は、無外義遠の独自の編成と考えられるから、その背景となった当時の南宋禅の歴史的 성격と、道元禅についての説明を数回にわたって試みる。次に上堂語を順次読み進める。

履修上の留意点

テキストの本文は漢文で独自の禅語録、つまり上堂語であるので予習・復習はぜひ必要である。

成績評価の方法

後期の定期試験で成績は評価する。

教 科 書

『道元禅師語録』岩波文庫 岩波書店 520円 大久保道舟訳註

参 考 書 等

『道元禅師語録』鏡島元隆著 講談社学術文庫 700円  
 『道元禅師全集』第5巻、『永平元禅師語録』酒井得元 春秋社 4,120円

そ の 他

講義の内容・授業スケジュールについては担当者が行い、他は輪読形式としたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅 籍 講 読 IV	いし い せい じゅん 石 井 清 純	禅 3・4 選 必 仏 教 3・4 選	4

講義のねらい

『禅林口実混名集』を講読する。本書は、正徳5年(1715)に刊行された、禅僧の渾名(あだ名)集である。あだ名とはいっても、それは禅僧ひとりひとりの行動や足跡に基づいたものであり、その由来を知ることは、あだ名の主の人となりを理解することに直結する。  
 本講義は、達摩に始まる諸禅僧のあだ名と、その基となった有名な逸話を手がかりに、その人の性格や思想を理解してゆくとともに、漢文の読解力を養うことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

前年度に引き続き、巻上趙州より読み進める。

成績評価の方法

前期2回、後期1回の小テストと、年度末試験の計4回の筆記試験によって成績を評価する。

教 科 書

プリントにて配布。



科目名	担当者名	配当学年	単位
仏典講読Ⅰ	かな ざわ あつし 金 沢 篤	仏教3・4選必 禅3・4選	4

講義のねらい

仏教成立期の仏教の姿を映していると言われる、いわゆる初期仏教典籍を中心に、講読する。仏教の独自性を探ると共に、既成の文化体制に仏教がもたらした影響のようなものも、出来ることなら、子細に検討してみたい。

教科書

教場にて指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
仏典講読Ⅱ	いけ だ れん たろう 池 田 練 太郎	仏教3・4選必 禅3・4選	4

講義のねらい

『維摩経』(Vimalakīrti-nirdeśa-sūtra)を講読する。本講義では、長尾雅人博士によるチベット訳からの和訳を用いることにする。また必要に応じて鳩摩羅什訳の『維摩詰所説経』(大正蔵No.475)と比較をしながら進めて行くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

初めに『維摩経』の成立、及び大乘経典としての性格について概観し、その後、経典を実際に講読していく過程でその思想的特質などを検討していく。

履修上の留意点

授業では、できるだけ多くの受講者に読んでもらうようにする予定なので、欠席はしないようにしてほしい。

成績評価の方法

基本的には、年度末の定期試験によって評価する予定だが、平常点を考慮することも考えている。

教科書

長尾雅人訳注『維摩経』(中公文庫、D6)、中央公論社刊。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏典講読Ⅲ	いけ だ る さん 池 田 魯 参	仏教3・4選必 禅 3・4選	4

講義のねらい

著名な『大乘起信論』を解説し、派生する諸問題を逐次検討していく。『起信論』は、インドにおける流伝は不明であり、そのため『起信論』の中国撰述説が根強くあるが、古来、真諦訳・実叉難陀訳論として、中国、日本では広く読まれ、大きな影響を与えて来た。なんといっても、大乘仏教の精髓を実に簡明に説明しているので、仏教の入門書として流行したのである。

しかし、その反面で、あまりに簡明にすぎて充分理解されないということもあり、種々の誤読や誤解が生じ易いことも確かである。なかでも、論証不可能な絶対の境地を自明のごとく「心の真如」として大前提に立てている点をどう理解したらいいかが、問題になる。また、こういう真如が無明のはたらきかけを受けて「心の生滅」（迷いの生存）に変わるのであると示すから、それなら仮に無明を滅して解脱したとしても解脱した真如はそういうふうにして再び迷いの生存に転ずることもありうるということであれば、こういう『起信論』の説は唯識教学から厳しく批判されることになるであろう。

このような論理的矛盾をおかしてまで、『起信論』を著わしたということは、『起信論』の作者が、こういう説き方で敢えて訴えたかった課題があったということであろう。それは何か。悟りと迷いの両極で揺れ動いている現実の人間性を直視し、そういう矛盾に満ちた現実の人間がどうして大乘の教えに目覚め、大乘の教えによってどうやって人生をととのえていくことができるのか、そのための簡略な見取り図を示そうとしたためである。

教科書

池田魯参著『現代語で読む大乘起信論』（大蔵出版社 近刊）

参考書等

平川彰編『大乘起信論』（大蔵出版 2,500円）  
 柏木弘雄著『大乘起信論の研究』（春秋社）  
 柏木弘雄著『大乘とは起信論を読む』（春秋社）  
 竹村牧男著『大乘起信論読釈』（山喜房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏典講読Ⅳ	い い づ か ひろ のぶ 飯 塚 大 展	仏教3・4選必 禅 3・4選	4

講義のねらい

無住道暁（1226～1312）の著作である『沙石集』を講読する。『沙石集』は、鎌倉時代成立の説話集であり、古今東西の説話をとりあげて、仏教の要旨や処生訓を説く啓蒙書である。本書を通して、無住における仏教観を明らかにしてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず無住の伝記を通して、仏教者としての思想的経歴を明らかにし、その思想の特徴を概説する。その上で講読に進みたい。

履修上の留意点

講読に際しては、受講者の解釈を求めていきたいと考えている。

成績評価の方法

前・後期一回ずつのレポートと年度末試験によって評価する。

教科書

教科書・参考書等は講義の折々に紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
宗 教 史	は せ べ はち ろう 長 谷 部 八 朗	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、仏教を中心に日本宗教史の概説を行う予定である。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期は古代、中世を、後期には近世、近代を扱う計画である。古代では、とくに天台宗、真言宗の展開に焦点を当てる。中世は、鎌倉仏教、神道流派の形成に着目する。また、修験道から本山派、当山派が興り、組織化を進めたことにも触れたい。近世では、徳川幕府の宗教政策との関連で、諸宗教が歩んだ道を、とりわけ一向宗や日蓮宗不受不施派、隠れキリシタンなどの禁圧された宗教に注目しつつたどる。また、修験系や法華系の講社が多数出現した社会的背景を探る。そして、近代においては、神仏分離、廃仏毀釈の打撃から仏教がどのように復興していったかを見る。また、新宗教の歴史にも言及したい。

成績評価の方法

未定である。なお、授業時に1、2回小論文を書いてもらい、評価に加算することも考えている。

教 科 書

教科書は用いない。板書を中心に進めるので、ノートの充実を望む。

参 考 書 等

参考書は、授業時に必要に応じて紹介する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
インド仏教文化史	な ら やす あき 奈 良 康 明	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教義が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに平成10年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。  
「仏教」をどうとらえるか  
「文化」とは何か；  
仏教（宗教）の二つのレベル；「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）  
仏教文化の「表層」と「基層」  
仏教文化研究の方法論；M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。  
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）  
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ  
カースト・ヴァルナ制度と仏教  
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐって）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。  
古代インドにおける業・輪廻思想の成立  
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）  
一般的業論の「自覚的業論」への昇華  
懺悔の思想と実践  
業と果報の関係  
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。  
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）  
「作功德→生天」の図式の倫理的・宗教的意味  
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華  
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）  
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念  
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。  
ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭  
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼  
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼  
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味  
テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼  
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中国仏教文化史	<sup>なが</sup> 永 <sup>い</sup> 井 <sup>まさ</sup> 政 <sup>し</sup> 之	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

今年度は中国人であるなら誰でも知っている年中行事の「一」を中心に、中国の仏教者、特に禅僧が、それらの風俗をどのように捉えていったかを考える。

言うまでもなく、「風俗」の大半は仏教が創出したものではない。むしろ「出家者」は、民間の行事とは無縁な存在であるべきであった。しかし叢林運営・教育という現実、必ずしも理念通りにあるわけではない。教育者たる禅僧・住持は、理想と現実のハザ間で、彼我をいかに弁別するかに苦心のあとを見せる。中国の歳時記を見つつ、行事の内容を具体的に考え、またそれに対する禅僧の発言を『如浄録』『虚堂録』を中心に紹介していく。

講義の内容・授業スケジュール

年初から年末まで、中国の主たる年中行事を追いながら、仏教者がどのように対応したかを考える。

参 考 書 等

中村喬『中国の年中行事』平凡社選書  
同氏『続中国の年中行事』同上  
同氏『中国歳時史の研究』朋友書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日本仏教文化史	<sup>は</sup> 袴 <sup>か</sup> 谷 <sup>の</sup> り <sup>あ</sup> き憲 昭	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

この授業は、「日本仏教文化史 (Cultural History of Buddhism in Japan)」であるが、私は、「仏教思想」を知らずしては、「仏教文化」を正確に理解することはできないとの立場を取っている。原則的なことをいえば、「仏教思想」に関心をもっている方にむしろ参加して頂きたい。しかも、できれば、講義形式を取りたくないと考えているので、少人数の方がよい。

講義の内容・授業スケジュール

この授業の中心は、昭和12年に文部省より刊行された『国体の本義』を読むことに置く。「思想」的にいえば、本書ほど非仏教的なものはそれほど多くはないと思うが、本書を慎重に読むことによって、我々現在の日本人も、本書に説かれているような考えを、知らず識らずのうちにいかに我が国の「仏教文化」の中核のごとく考えているかを思い知るであろう。しかも、このような考え方が、例えば、吉本隆明・梅原猛・中沢新一『日本人は思想したか』（新潮社1995年）のごとく、一人前に日本人の「思想」を語ろうとしている出版物にすら歴然とした痕跡を残しているのである。『国体の本義』は、「我が国の文化は、肇国以来の大精神の顕現である。これを豊富にし発展せしめるために外來文化を摂取醇化して来た。」(114頁)という「文化史」観に立つが、土俗信仰温存の立場からいえばかかる史観も成り立ちうるかもしれないが、仏教の「思想」から見ればそうはならないことを丁寧に指摘していきたいと思っている。この授業は、一昨年度よりの続講であるが、本年度は、『国体の本義』第二「国史に於ける国体の顕現」より講読する。なお、本年度は、下記の家永三郎博士の著作も教科書として採用するので用意されたい。

履修上の留意点

演習形式を取るの、自分で調べて発表する意欲のないものは決して参加してはならない。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教 科 書

『国体の本義』は図書館に多数所蔵されているので借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。  
家永三郎『日本文化史』第二版（岩波新書）660円

参 考 書 等

参考書は適宜指示する。

そ の 他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 用 経 典	みな がわ ひろ よし 皆 川 広 義	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

般若心経・法華経・修証義  
 現在、礼拝の場などでよく読まれている代表的仏教経典を、教理を正しくふまえてわかりやすく講義したい。  
 はじめに、仏教の開祖・釈尊の悟りの世界を述べている『般若心経』を学び、仏教の教えの根本を明らかにする。  
 次に、釈尊の人々への思いやりより生まれた伝道の心を述べている『法華経』を学び、仏教の説く慈と安心を学び得たい。  
 最後には、明治時代、我国で新しく編纂された経典である『修証義』を学ぶことによって、自己の生死の苦悩を超越して、悟りと安心をつくりだしたい。  
 以上の般若心経・法華経・修証義の三経典は、多くの日本人に影響を与え、安心と生きがいをつくりだした、日本仏教の根本聖典である。

講義の内容・  
授業スケジュール

- I 仏教の経典
  1. インドの経典（パーリー語経典、サンスクリット語経典）
  2. 中国の経典
  3. 日本の経典
- II 般若心経
  1. 般若経について
  2. 般若心経について
  3. 本文解釈
  4. 般若心経に説示された悟りの世界
- III 法華経
  1. 法華経について
  2. 本文解釈 ①寿命品偈 ②普門品偈
  3. 法華経に説示された慈の世界
- IV 修証義
  1. 正法眼蔵と修証義
  2. 修証義について
  3. 本文解釈
  4. 修証義に説示された安心と生きがい

履修上の留意点

積極的に聴講し、学習することを希望する。経典を主体的に学んで、自己の思想を確立し、人格を完成していただきたい。

成績評価の方法

聴講の態度（出席率など）、レポート・年度末の定期試験などによって、総合的に評価する。

教科書

『日用経典テキスト』 プリント代 500円 教室で配布する。

参考書等

紀野一義著『般若心経を読む』講談社現代新書 420円  
 紀野一義著『法華経を読む』講談社現代新書 420円  
 桜井秀雄著『修証義を読む』名著普及会 1,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅 学 概 論	佐 藤 秀 孝	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禅那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。はじめにインド仏教における禅（禪定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及ぶたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

教 科 書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参 考 書 等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

そ の 他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 概 論	平 井 俊 榮	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・  
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。  
 序 章 仏教とは何か  
 第1章 仏陀の生涯  
 第2章 仏の本質  
 第3章 法——仏教の真理観——  
 第4章 一切法——法の分類——  
 第5章 輪廻と業の煩惱  
 第6章 悟りへの道  
 第7章 心——実践の主体  
 第8章 修行者の理想像  
 第9章 戒律と教団の組織  
 第10章 仏教の歴史

履修上の留意点

出欠は毎時限採る。

成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価。

教 科 書

高崎直道著『仏教入門』東京大学出版会 1,600円（変更あるやも知れず）

参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』春秋社 2,575円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中国古典語初級	いし い こう せい 石 井 公 成	禅・仏教1・2・3・4選	4

講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

教 科 書

教科書は使用せず、コピーを配布する。

参 考 書 等

辞書・参考書などについては教場で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
インド哲学史	かな ぎわ あつし 金 沢 篤	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

仏教を産んだインドのヴェーダ体制の内実を探り、宗教・哲学の変遷を概観する。

講義の内容・  
授業スケジュール

定評ある以下の教材に沿って、ヴェーダ時代より中世に到るまでの主だったトピックを通史的に概説する。併せて、インド哲学研究の方法論・問題点なども検討する。

履修上の留意点

日頃よりインドに関心の目を向け、主体的に常になにがしかの問題意識をもって授業に参加することが望ましい。

成績評価の方法

数回のレポートと年度末の筆記試験など。

教 科 書

早島鏡正他著『インド思想史』東京大学出版

参 考 書 等

参考書などは、講義の中で適宜紹介する。



科目名	担当者名	配当学年	単位
中国哲学史	まえ かわ とおる 前 川 亨	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

中国の思想史の特色を明らかにし、その展開の過程を跡付けることを目的とする。中国思想の全体像を概観した後、古代から現代に至るまでの思想を具体的にとりあげていく。中心になるのは儒教・仏教・道教のいわゆる三教であり、これに近代以降の西洋思想などもかかわることになる。この講義では狭義の「哲学」史ではなく、より広く中国人の思考様式を探る「思想」史を目指したいと思う。その際、東アジア世界における中国思想という視野を失わないように心掛けたい。思想史を学ぶ場合には、対象に対する「評価」は一応括弧に入れて、対象を「理解」しようとする謙虚な姿勢が必要である。この講義は、個人が中国の思想・宗教・文化などについて考えるための手掛かりを提供するものである。現実生活と縁遠いものに思われがちな「思想」の世界がいかに現実の人間と強く連関しているかを、ともに学んでいきたい。

履修上の留意点

講義では漢文資料を多く用いるので、古典中国語や現代中国語に初歩的な知識をもっていること（もしくは、持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、内容じたいはそうした知識なしでも理解可能であろう。むしろ、中国の思想・宗教・文化・社会など様々な分野に関心をもっている諸君の積極的な参加を期待したい。

成績評価の方法

前期・後期それぞれのレポートを予定している。

教科書

特に必要としない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

できるだけ多方面の情報を提供するため、授業は講義の形式をとるが、その欠陥を補う何らかの方法も考慮したい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
西洋哲学史	なか むら とも たろう 中 村 友 太 郎	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

古典的なテキストになるべく豊かに触れる機会を設けつつ、それらの思想の背後にある精神史を探訪する。特にここでは、ユダヤ・キリスト教文化の中での哲学思索のあり方を歴史的形成の面から追求することを主眼としたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 授業は毎回二つの部分から成る。
- (a) テキストおよびプリント資料を参考に古代から中世にかけての哲学史の展望。
  - (b) 講義内容への各自のリアクション、また教材への各自の取り組みを前提とするディスカッションしたがって、聴講者の積極的な取り組みが特に期待される。

成績評価の方法

上記の授業の特性に対応して、レポート及び試験の他、毎回の簡単なリアクション・カードなどによる出席状況をも考慮して総合的に評価する。

教科書

開講時および授業の進捗状況に応じて指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
インド仏教思想史	まつもと しろう 松 本 史 朗	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

インド仏教の思想的展開を概説することによって、仏教思想の特質を明らかにするのが、本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容・スケジュールは、ほぼ次の通りである。(a)仏教成立以前のインド思想(ヴェーダ・ウパニシャッド・ジャイナ教)、(b)原始仏教の思想(縁起説・四諦説・無我説等)、(c)部派仏教のアビダルマ哲学、(d)大乘経典の思想(『般若経』『華嚴経』『法華経』『涅槃経』等の思想)、(e)中観派の空思想、(f)瑜伽行派の唯識思想、(g)仏教論理学の思想。

履修上の留意点

厳正な試験を行なうので、安易な気持ちで履修することは、避けられたい。

成績評価の方法

年度末の試験により、成績を評価する。

教科書

早島鏡正等著『インド思想史』東京大学出版会

科目名	担当者名	配当学年	単 位
中国仏教思想史	いとう たかとし 伊 藤 隆 壽	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

中国仏教思想の形成について、仏教と中国の伝統思想である儒家思想や道家思想との交流の視点から講義する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教伝来以前の中国思想 2. 仏教の基本思想 3. 仏教の中国への伝来 4. 中国での仏教理解のあり方 5. 中国仏教思想の諸相

履修上の留意点

仏教のみならず中国伝統思想についても関心をもち、自主的に参加し学習してほしい。

成績評価の方法

年度末の試験による。

教科書

教科書は使用せず、コピー資料を配布する。

参考書等

参考書・参考論文等は授業中に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 始 仏 教	かた やま いち ろう 片 山 一 良	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

仏教の源泉を原始仏教という。大乘であれ小乗であれ、そのすべては後代の呼び名に過ぎず、いずれの考えも原始仏教から出発している。釈尊が示されたものは、縁起、四諦の教え、あるいは無常・苦・無我という三相の見方であった。戒律を保ちまもることに始まり、少欲知足の生活をつねに教え導かれた。そこには智慧と慈悲の教えがあるのみで、何ら飾りは見られない。本講義では、このような原始仏教の教えを具体的に示し、またこの教えを通して「仏教」とは何かを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、仏伝を紹介し、縁起・四諦などの基本的思想について、後期は、中道ないし戒律の実践について見ることにする。

履修上の留意点

受講生は、まず、従来の「仏教」に対する先入見を排除し、原始仏典を直接読むことが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は、レポート（夏期）および年度末テストによる。

教科書

テキストはとくに使用しない。

参考書等

参考資料は適宜指示する。

その他

随時、資料プリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
浄土学概論	ひろ かわ たか とし 廣 川 堯 敏	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

従来の伝統的立場からではなく、新たな比較思想論の視点から、法然浄土教に光をあてて、その教学上の諸問題を解明したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

まず法然房源空の生涯とその著作解題、および浄土宗二祖聖光・三祖良忠の伝記について概論的な説明をした上で、法然における宗教心の開発と発展・人間観・神秘体験・阿弥陀仏観・自力他力論・選択思想・念仏の現代的意義・罪悪感・浄土教倫理等の諸問題について順次講述したい。

履修上の留意点

法然の伝記について基礎的な知識を持った上で受講すること。

成績評価の方法

レポート、出席点、受講態度等を総合して判定する。

教科書

毎回プリントを用意する。

参考書等

諸戸素純『法然上人の現代的理解』S. 39 知恩院浄土宗学研究所  
 高橋弘次『法然浄土教の諸問題』H. 6 再刊 山喜房  
 藤本浄彦『法然浄土教思想論攷』S. 63 平楽寺書店  
 田村円澄『法然』S. 34 吉川弘文館

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
真 言 学 概 論	むか い りゅう けん 向 井 隆 健	禪・仏教2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい	平安時代の仏教の巨匠・真言宗の祖師である弘法大師空海が展開した教義を学ぶ。
講義の内容・ 授業スケジュール	テキストにそって進むが要点は次の通りである。宗名、秘密、本宗の聖典、顕教と密教、十住心の大要、三大、本宗の教主、曼荼羅、五智、四種法身、発菩提心、持戒、灌頂、即身成仏、護摩、祈り等である。
履修上の留意点	授業時に指示する。その他もみよ。
成績評価の方法	授業に7割以上出席した者で、授業態度良好かつ試験等に合格したものに単位を認める。
教 科 書	新仏教綱要第一巻『真言宗綱要』 真言宗豊山派宗務所 1,900円
参 考 書 等	必要に応じて指示する。
そ の 他	授業の方法は講義形式であるが、朗読してもらうので予習してくることを望む。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
神 道 概 説	なかにし まさゆき 中 西 正 幸	禪・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

「神道」とは、衣食住をめぐる生活文化のなかに息づく〈神々と祖先の道〉、わが国の歴史と文化や固有の国民性を培ってきた〈祖型〉と理解する。温暖な風土と同質社会を見据え、四季の彩りをもつ祭祀や習俗の中で問い直してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 日本の風土と社会を視点とし、四季と文化のかかわりから、洗練された自然観を明らかにする。また社会的な同質性を、村から市・町・縁・境などの言葉を手掛かりに考えてゆく。
2. 民族固有の道を問う視点から、神道や神ながらの用語について、その出典と語義を明確にしたい。しかも民族宗教として、特色ある性格や側面を指摘しつつ、感性と心性のありかたを考える。
3. 神道の思想的特質を視点として、民族永遠の理想を神話に描く世界観、中今（なかいま）に生の充実をもとめる歴史観、罪穢と禊祓を均衡させつつ誠をめざす倫理観など、それらを概観したい。
4. 神観念を視点として、古典の神々と諸家の解釈、神名の表記と敬意のありかたを辿りつつ、神とは何かを考え直したい。
5. 神威・神徳を視点として、天譲無窮・宝鏡奉斎・斎庭稲穂の代表的な神勅、さらに神籬・磐境、三社託宣の精神を述べ、神々の恩恵と信頼につなげたい。できれば憑依や勧請などにも及びたい。
6. 神社の成立を視点として、社・社・宮の形態をめぐる、古典の神々が現代に生きる有り難さを知らしめたい。自然・歴史・社会・人間が、いかに神々と関わってきたか、それを神社を基盤として問い直すことでもある。
7. 神社の施設を視点として、自然対象から表象物にいたる神体の多様さ、社殿の形式と特徴、鳥居・注連縄・紙垂などの神聖標識、神詣での心得などにふれてみたい。
8. 生活文化を見直すため、機殿・御衣・幣帛などの衣、清火と神贄をめぐる古来の食、神の住まいに象徴される住にふれ、すべてが神社の営みに生きた姿で集約されていることを考える。
9. 神まつりの観点から、それが衣食住の文化総合として機能していることに視野を広め、原理と条件、歴史的な発展と変化、奉仕や崇敬のありかたについて考えたい。
10. 祖先の道を視点として、父祖の培ってきた道念のありようを省み、激動する世相を背景に、その将来を展望したい。

履修上の留意点

神道は多彩な文化要素を秘めつつ、祖先以来の深々とした祈念と信頼に育まれてきた。そうした民族共通の基盤にたって、神々と祖先を敬愛する態度を、ぜひとも忘れないで欲しい。

成績評価の方法

二回ほど小試験と学年末試験を実施する。出席も勘案して、総合的な評価を出したい。

教科書

授業の進捗に応じてプリントを適宜配布する。

参考書等

蘭田稔編『神道』昭和63年（弘文堂刊）  
桜井勝之進他『日本神道論』1990（学生社刊）

その他

授業は講義形式で進める。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
外国語仏書講読	いけ た れん た ろう 池 田 練 太 郎	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

現代の研究者の英語によって著された著書・論文を講読する。研究領域による特徴や研究者個人の問題意識・個性などによって論文にはさまざまなスタイルがあるので、できるだけ多くの種類を選んで講読し、その過程で研究論文の利用の仕方や仏教術語の英語表現、英語的な言い回しなどを考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

どのようなものを読むかは、最初の授業の折に説明する。

履修上の留意点

毎時間、受講者に和訳してもらうので、必ず予習をして来てほしい。

成績評価の方法

基本的には、授業における翻訳等の発表によって評価する。

教科書

プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
外国語禅書講読	おお にし りゅう ほう 大 西 龍 峯	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

禅独特の表現や考え方を、日本語のみで触れていると、つい曖昧な形で感覚的に受けとめていたり、論理的な意味などにかまわず漠然と理解してしまっていることが少なくない。その点、英語に翻訳された禅の文献を読むことで、それらが具体的にどんな意味をもつのか、また実践的にどうとらえるべきかについて、より明確に考えてみることができよう。

講義の内容・授業スケジュール

英訳されている禅の文献をいくつか取りあげて、原文と対照しながら、講読を行う。

成績評価の方法

平常点を重視します。

教科書

テキスト、資料等は、授業で配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅学特講 I	ほら だ ひろ みち 原 田 弘 道	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

禅宗と公案  
公案は禅宗における經典観と深いかわりを持つ。そこで、公案の成立とその歴史的展開を通して、その意義と機能について考察する。  
中でも中国禅学史上あるいはその思想史の上で、大きな課題は「看話禅」の成立の問題の究明である。看話禅は公案（趙州無学）の工夫によって見性を果たす特殊な禅である。  
これについては中国の文化的背景を通して、叢林の体質変化を見、それに伴う学道の形態の変化を考察し、それらを通して看話禅成立の問題の解明を行う。  
それと共に黙照禅の意義を明らかにし、更に、道元禅を通して、公案、現成公案の意義を明らかにしてゆく。

講義の内容・授業スケジュール

一. 公案の起源と歴史、二. 看話禅の成立、三. 曹洞禅と公案、四. 公案の諸相、五. 公案の意義と機能。以上の順序で講義をすすめる。

履修上の留意点

講義の始めに、禅宗全般に亘る基本思想である、不立文字、教外別傳、直指人心、見性成佛の意義を明らかにするが、この理解が講義全般に亘って重要になる。であるから先づ明確に理解するよう努めること。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験（又はレポート）による総合評価。

参考書等

柳田聖山『初期禅宗史書の研究』『禅の歴史——中国——』（講座禅第三卷）  
荒木見悟『大慧書』

その他

随時プリント資料配布。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅学特講 II	くろ まる かん し 黒 丸 寛 之	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

鎌倉時代の高僧で卓越した思想家としても知られる道元禅師の宗教思想について、その主著『正法眼蔵』を中心として、Ⅰ 仏教と禅、Ⅱ 大乘菩薩道、Ⅲ 生命の実相、Ⅳ 自然と人生、などについて考察する。

履修上の留意点

この講座は、他学部履修科目になっているが、仏教学部生はもとより、受講生は全てテキストとして『正法眼蔵』（岩波文庫本4冊、その他）を用意しなければならない。

成績評価の方法

成績評価は、1年間の受講状況による平常点と期末試験によって行う。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅学特講Ⅲ	おお たに てつ を 大 谷 哲 夫	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

『従容録』を中心にして“禅”の神髄を参究する。  
『従容録』は、詳しくは『万松老人評唱天童覚和尚従容庵録』という。  
これは、宏智正覚（1091～1157）が古徳の妙則100則を収集し、それに頌古したものが『宏智頌古』として存在し、後に万松行秀が嘉定16年（1223）到北京の報恩寺にて従容庵を築いて幽居中に、元の太祖の西域親征に従っていた湛然居士（耶律楚材）の懇請によって、先の『宏智頌古』に示衆・評唱・著語を付し、庵名をもって書名としたからである。  
本書は、『碧巖録』とともに禅林において並び行われ、その頌古は風格が高く、宏智の技倆古今越格と称されている。『碧巖録』が看話禅の臨済宗で用いられるのに対して、『従容録』は黙照禅の曹洞宗の宗風を挙揚したものであるとして広く用いられているので、本講座では、その成立から詳細に参究する。

履修上の留意点

『従容録』を演習の形式をとりながら、講義を進めるので、予習は必ず行なってもらいたい。

成績評価の方法

出欠・レポート・期末試験による。

教科書

教科書は『従容録』を用いるが、開講時にコピーを配布する。

参考書等

参考書については、適宜に指示し、参考文献などはその都度配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅学特講Ⅳ	せい りゅう むね つぐ 青 龍 宗 二	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

道元禅師の思想と行動  
鎌倉新仏教の祖師と仰がれる道元禅師が、政治的にも文化的にも移り変わる激動の中世社会において、公家の家庭に生まれ育ちながら、無常の意識から生涯を宗教者として生き貫いた、その思想と行動を文化史的に再検討し、宗教者としての道元禅師の人間像を発掘してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は次のような内容で進める。  
1. 鎌倉新仏教とは  
2. 宗教思想の形成について  
3. 京都時代の思想と行動  
4. 越前時代の思想と行動

履修上の留意点

講義は限られた時間で行うわけであるから、上記の項目の内、従来全く問題にされていない主要課題を中心にノートを進めるが、直接その思想を味得してゆくために原典講読をも併用する。

教科書

原典はその都度指示する。

参考書等

また参考書は教場で指示するが、次に掲げる参考書は比較的手に入り易いと思われる。  
川添昭二『鎌倉文化』教育社、今枝愛真『道元——行動と思想』評論社  
水野弥穂子『道元禅師の人間像』岩波書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏教特講 I	たか はし しゅう えい 高 橋 秀 栄	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい	梅尾高山寺の明恵上人の行状とその信仰を講義する。
講義の内容・ 授業スケジュール	前期では、明恵の弟子の喜海が著した『梅尾明恵上人伝記』を中心にその人間像を学び、後期では、『光明真言土沙劬信記』『三時三宝礼』などの真言密教に関する明恵の自著を読みながら、その信仰をさぐる。
履修上の留意点	鎌倉時代の写本や江戸時代の版本をテキストにして講義していく予定なので、履修を希望する学生は、基礎的な仏教知識のほかに、異体字やくずし字にも通読していることが望ましい。
成績評価の方法	十枚以上のレポート提出。評価は厳しい。
教 科 書	随時テキストコピーを配布。
参 考 書 等	書誌学に関する参考図書のほか、仏教辞典・密教辞典・人名辞典・異体字辞典などを座右に備え、活用してほしい。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
仏教特講Ⅲ	よつや こう どう 四津谷 孝 道	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

本講座では、中観思想を思想的観点から理解することを通して、大乘仏教の中に於ける中観思想の思想的意義を考究する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、インド、チベット、そして中国に互る中観派の歴史的・地域的發展を概説する。次に、思想史の観点から以下のようなテーマの下で中観思想を検討してゆきたい。i) ナーガールジュナの『中論』 ii) 『中論』の注釈史を中心としたインドに於ける中観思想の展開 iii) チベットに於ける中観思想の受容 iv) 中国に於ける中観思想の受容。以上を前期期間中に終えたい。後期はまず、仏教内の他派の思想と中観思想とを以下のテーマの下で比較する。i) 唯識思想と中観思想 ii) 如来藏思想と中観思想。次に、中観思想の研究史を、特に幾人かの著名な研究者に焦点をあてて、方法論的観点から扱ってみたい。最後に、Claus Oetko等による『中論』研究をもとにして、最近の『中論』の研究の状況について述べてみたい。

履修上の留意点

受講生には出来るだけ発言の機会を与えるので、自らの考えを積極的に述べてもらいたい。

成績評価の方法

前期・後期のレポートに基づいて、受講生の成績を評価する。

教科書

特定の教科書を用いず、毎回の講義の内容に応じて講師が作成したもの（諸研究所よりの抜粋のコピーも含める）を配布する。

参考書等

梶山雄一・上山春平著『仏教思想 3 空の論理〈中観〉』角川文庫10306 (800円)  
『講座・大乘仏教 7 中観思想』春秋社 (2,500円)  
David Seyfort Ruogg: "The Literature of the Madhyamaka School of Philosophy in India", A History of Indian Literature vol VII, 1981, Otto Harassowitz.  
中村 元著『ナーガールジュナ』人類の知的遺産13 講談社 (1,500円)  
中村 元著『空の論理大乘仏教Ⅲ』中村 元撰集 [決定版] 第22巻 (8,925円)  
『チベット仏教』岩波講座東洋思想第2巻 岩波書店 (2,880円)  
平川 彰訳『デュ・ヨング仏教研究の歴史』春秋社 (2,500円)  
平川 彰『仏教研究入門』大蔵出版 (3,800円)  
Claus Oetke: "Die metaphysische Lehre Nāgārjunas", *Conceptus*, Jahrgang VIII, Nr. 56 1988, pp. 47-64.  
Claus Oetke: "Rationalismus und Mystik in der Philosophie Nāgārjunas", *Studie zu Indologie und Iranistik*, VIII, 1989, 1-39.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏教特講Ⅳ	おくのみつよし 奥野光賢	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

中国・日本仏教における如来蔵・仏性思想の思想的展開の概説を目標とする。如来蔵・仏性思想とは、中国・日本の仏教諸宗派のほとんどが受け容れた代表的教理で、大乘仏教の根源的な教理でもあるといわれている。その教理を示す有名な言葉が、『涅槃経』の「一切衆生悉有仏性」であるが、本講義ではこの思想が果たした役割を主として中国・日本仏教上に見ることとしたい。

講義の内容・授業スケジュール

主として中国・日本仏教における如来蔵・仏性思想の展開過程を考察するとはいっても、絶えずインド仏教の流れを意識することは言うまでもない。講義は如来蔵・仏性思想の淵源から説き進め、それが中国・日本においてどのように受容・展開されていったかに及びたい。授業は当初は講義形式で進めるが、必要に応じて原文を示し、各自にテキストを読んでもらう場合もある。また、如来蔵・仏性思想に対しては、最近、その思想の評価をめぐって、批判的な研究も提示されているので、講義最後にその点についても触れることになるであろう。

履修上の留意点

一年を通してかなりの数のプリントを配布することになると思われる。欠席によるプリントの再配布は原則として行わないのであらかじめ注意されたい。

成績評価の方法

出席状況も考慮しながら、学年末の試験によって評価する。

教科書

特に指定せず、プリントを配布する。

参考書等

参考書はあまたある。それらについては授業中において適宜指示するが、さしあたって次の書のみをあげておきたい。

高崎直道『(増補新版) 仏性とは何か』(法蔵館 1997) ¥2,800 (税別)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏教伝道概説	みな かわ ひろ よし 皆 川 広 義	禪・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

仏教における伝道について、理論と実践の二面より、概説したい。仏教伝道は、教主釈尊の生涯や教えを宣布する布教活動と、その教えにより人々を育成する教化活動よりなっている。

理論面では、まず、釈尊の教えをふまえて、仏教における伝道の原理を明らかにして、なんのために伝道をするのかを把握したい。次に、①教法、②人間（対機）、③伝道法の三点より、生死の苦悩からの解脱道としての仏教伝道を説明する。

実践面では、教えの広宣流布を中心とする布教活動と、教えにより人々を教化育成し、悟りと安心をあたえる教化活動に分け、現場における具体的実践を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- I 宗教における伝道 有所得の伝道と無所得の伝道
- II 仏教における伝道の原理
  1. 教主釈尊の伝道 悲智慈の展開としての伝道
  2. 仏教伝道の歩み インド・中国・日本・その他の国々へ
  3. 仏教伝道における①教法②人間（対機）③伝道法（布教と教化）
    - ①教法（仏法 教理 教え）
      - 1 菩提樹下の悟り 2 根本教理 縁起説 四諦説 3 教え 対機相応の説法
    - ②人間（対機）
      - 1 仏教における人間、生命論（縁起、無自性、空、仮説有）
      - 2 未信者と信者 3 現代人の意識と行動
    - ③伝道法
      - 1 伝道者の理念（自信教人信、自未得度先度他、四摂法、自利と利他の伝道）
      - 2 伝道者の資格 3 布教教化カリキュラム（信仰の誘引と形成）
      - 4 伝道組織としての教団と、伝道の場としての寺院
- III 仏教伝道における布教活動と教化活動
  1. 布教活動（未信者を対象とした伝道活動）
    - 1 文書布教 2 唱導布教 3 視聴覚布教 4 総合布教
    - 5 無意図的布教（仏教文化、寺院の社会活動など）
  2. 教化活動（信者を対象とした伝道活動）
    - 1 自己教化 2 1対1の教化
    - 3 禪的合宿研修による集団教化 4 法座（講、仏青、仏婦）
    - 5 儀礼（口曜礼拝、恒例法要、葬祭法要） 6 聖典講読会
    - 7 聖地巡礼（インド釈尊聖地巡礼、中国日本祖師聖地巡礼、観音霊地巡礼）
    - 8 写経 写仏など
- IV その他の伝道
  1. 世代別伝道
    - ①児童布教 ②青少年伝道 ③婦人伝道 ④壮年伝道 ⑤老人伝道
  2. 地域別伝道
    - ①地方伝道 ②都市伝道 ③国外伝道

履修上の留意点

積極的に聴講し、学習することを希望する。仏教伝道の活動は、人々への思いやりと自己の安心形成のためになされるものであることを、この授業を通して学びとっていただきたい。

成績評価の方法

聴講の態度（出席率など）、レポート、年度末の定期試験などによって、総合的に評価する。

教科書

増谷文雄編『仏教の根本聖典』大蔵出版 定価2,500円

参考書等

大西憲明著『現代仏教教化法』百華苑 定価2,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏教伝道研究	みな かわ ひろ よし 皆 川 広 義	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

— 対機研究と死の教育 —

この仏教伝道研究では、伝道上とくに重要な課題をとりあげて、詳細にかつ深く考察する。このたびは、「対機研究」「葬祭儀礼」「死の教育」の三点をとりあげる。「対機研究」では、仏教論、生命論をふまえ、新しい生命、人間科学の研究成果なども参照して、現代における伝道対機としての人間を考察する。「葬祭儀礼」では、仏教の伝統的な葬祭儀則をふまえながら、現代人の葬祭に関する意識調査などを参照して、現在の仏教的葬祭より葬祭仏教を創造する道をさぐりたい。「死の教育」では、生死の苦悩からの解脱道としての仏教の立場より、現代の「死の教育」の歴史、その内容などを考察して、安らかな死の受容をつくりだしてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- I 対機研究と仏教伝道
  1. 釈尊における生命論と人間論
  2. 現代科学の生命論と人間論
    - ①生命の歴史（生命科学）
    - ②生命の構造（分子生物学）
    - ③人間の歴史（文化人類学）
    - ④人間の生涯（生理学 医学）
    - ⑤人間の心（大脳生理学、心理学、社会学）
    - ⑥人間の苦悩（臨床心理学）
  3. 現代の人間論と伝道
- II 葬祭と仏教伝道
  1. 人間と葬祭について
  2. 仏教における葬祭の歴史
  3. 葬祭仏教 儀則と儀礼
  4. 現代人の葬祭意識
  5. 葬祭仏教の創造と伝道
- III 死の教育と仏教伝道
  1. 生老病死の教育としての仏教
  2. 「死の教育」の歴史
  3. 死に関する文化
  4. 現代人の死生観 死の不在の時代
  5. 死に対する恐怖（意識調査）
  6. 死の受容のプロセス
  7. 病名告知とターミナル・ケア
  8. ホスピス緩和ケアの理念と役割
  9. 悲嘆のケアと葬祭
  10. 脳死と臓器移植
  11. 現代における安らかな死の受容と伝道

履修上の留意点

積極的に聴講し、学習することを希望する。今年テーマ「人間 生命論」「葬祭」「死の教育」の考察を通して、生きた仏教伝道を修得していただきたい。

成績評価の方法

聴講の態度（出席率など）、レポート、年度末の定期試験などによって、総合的に評価する。

教科書

なし

参考書等

- I 「人間 生命論」  
植原和郎著『人類進化学人間』中央公論社  
『生命40億年はるかな旅』全6巻 NHK出版
- II 「葬祭」  
圭室謙成著『葬式仏教』大法輪閣
- III 「死の教育」  
キューブラロス著『死の瞬間』読売新聞社  
近藤裕著『自分の死にそなえる』春秋社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青少年問題研究	讃 岐 真 佐 子	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面にも、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中の青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験の両方を考慮する。

教 科 書

氏原寛・東山紘久編『発達とカウンセリング』  
別冊『発達』第18巻、ミネルヴァ書房 2,500円

参 考 書 等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』  
（『日本人の深層分析』第9巻と10巻）有斐閣
- ・李刊『仏教——特集癒し』No.31、法蔵館 2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』檢出版『子どもの宇宙』岩波新書386
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』岩波書店 1,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青少年指導演習	ひらの 平野 学	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりである。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達観の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. 講師自身の援助例（不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング）の提示と討議。(2回)
5. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験（ボランティア活動他）の報告と討議。(5回)
6. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏等の文献のいくつかを輪読（分担発表）すると共に自由討議を行なう。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
7. その他（全体の振り返り他）。(3回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。  
出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行うので安易な受講は避けてほしい。)  
尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、少し記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート（年間授業を振り返る形でのもの）、夏休みレポート（体験報告または読書感想）、平常点（出席等）の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る（上下）』 創元社 各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える（上下）』 創元社 各1,300円  
同 『大人になることのむずかしさ』 岩波書店 1,240円  
同 『ユング心理学と仏教』 岩波書店 1,800円  
他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTRやテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。  
授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 法 概 説	あらい 洗 けん 建	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

現代日本の宗教法制について概説する。わが国における宗教法制の根幹は、憲法の保証する信教の自由と、政教分離の原則によって規定され、これに基づき宗教団体に法人格を賦与する目的で宗教法人法が定められている。憲法原理の意義をしっかりと理解した上で、今回の宗教法人法の一部改正問題を含めて、民法と宗教法人法の間にある諸問題などを理解し、法の精神を理解することを目指したい。

講義の内容・授業スケジュール

前半は、現憲法の原理が導入されるまでの近代日本宗教法制史を概観する。信教の自由の理念がいかなる背景から生まれ、どのように導入されたのか、わが国の宗教文化との間にどのような問題が存在するのかを理解して貰いたい。

後半は、宗教法人法の諸規定について概説し、民法との関係、税制との関係、法の精神とその諸問題についての理解を深める。

履修上の留意点

将来、寺院に携わる人のために実務の問題にも触れなければならないが、寺院と関係のない人も多いようであるから、法の精神やその意義に力点を置いて講義する。具体的実務問題などで質問のある人は、積極的に質問して貰いたい。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教科書

教科書は指定しないが、後半の授業では憲法第20条、第89条、および宗教法人法の条文を、六法全書などからコピーして、持っておくようにして貰いたい。

参考書等

随時、紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
詩 偈	やま ぐち はる みち 山 口 晴 通	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

中国および日本の漢詩は、我々の精神生活において、はかり知れないほどの、大きな影響を与えている。

ことに禅門にあっては、出家在家を問わず、参禅修行における心情吐露の表現方法として、また、禅門の教義宣揚の方法として、活用されているのである。

この意味において、古来より現代に至るまでの、漢詩と偈頌を概観することは、現在及び将来にわたって、大きな意義が存することと思う。

講義の内容・授業スケジュール

漢詩と偈頌を鑑賞しながら、除々に初歩的な作詩法の学習へと展開する。たとえ一詩でも自分が実際に作ってみると、他人の作った詩をみる眼が違ってくるものである。坐禅と同様に実践することが大切である。詩禅一如とも言われる所以がそこにある。

履修上の留意点

授業中、時には質疑応答を交わしながら進展させる。したがって学生諸君には、積極的に自らの意旨を標示し、学習効果を高めるよう努力して欲しい。

成績評価の方法

諸君の学習態度如何により、成績は自ずから評価されるものである。

教科書

『詩偈指南』山口晴通著 曹洞宗宗務庁 1,000円

参考書等

漢詩や偈頌を学習するには、漢和辞典は必須のものである。その種類については、授業当初に指示説明する。勿論、己に漢和辞典を所有している学生は、当日、持参してみるとよい。

その他

「詩は志なり」とは古来から言われていることである。志のある学生諸君と共に、研鑽していく所存である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
書 道	の 野 むら 村 おき 宙 ひろ 弘	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。  
書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。  
(正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う)

教 科 書

王 羲之『蘭亭序』（清雅堂） 360円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現 代 と 仏 教	みね 峰 まし 岸 こう 孝 さい 哉	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

仏教が現代からさらに未来社会において果たす責任・役割とは何であろうか。しかもこれらの課題をすすめる立場とはどのような視点が確立されなければならないのか。この課題を、人権・反差別という視座を中心にして、検討し確認することを、この講義の目標とする。仏教が有する普遍宗教としての性格やその有効性は、こうした検討を通して、より一層発揮されると考えられるからである。

講義の内容・  
授業スケジュール

人権思想の世界的なながれを学習し、差別事象をとりあげていく。とりわけ仏教と差別の関係について、中心課題としたい。

履修上の留意点

単に知識としての学習ではなく、自分のくらしの中で、反差別とは何かを考えて欲しい。

成績評価の方法

レポート・期末テスト。

教 科 書

『差別語を考えるガイドブック』曹洞宗宗務庁編・解放出版社

参 考 書 等

講義の進行に合わせてその都度紹介する。

そ の 他

必要に応じてコピーも参考にする。

科目名	担当者名	配当学年	単位
宗 教 学 概 論	はせべ 八郎 長谷部 八郎	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

本講義は、日本人の宗教行動の特質を、既成宗教、新宗教、民俗宗教の比較検討を通して探究する。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに宗教概念に関する内外の諸規定を紹介し、それを踏まえて日本宗教の性格を理解する。とくに、神仏習合と称される我が国の宗教の習合性・重層性に着目し、種々の儀礼を通して検証すると同時に、そのような形態を生んだ理由や背景について、歴史性を考慮しながら論ずる。

また、民衆の宗教的ニーズの在り様にも言及する。主に現代社会をめぐる、諸宗教の交錯する状況の下で、人びとは宗教に何を求め、かつ宗教はそれにどう対応しているのかを、具体例に沿って探ってみたい。

成績評価の方法

評価方法は未定である。なお、授業の中で小論文を課す予定である。

教科書

水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』 世界書院

参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
キリスト教概論	の ざわ きょう 野 沢 協	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

キリスト教についての一般的な理解を得ていただくことが、もちろん講義の目的となります。

講義の内容・授業スケジュール

平板な「キリスト教史」やキリスト教の「教理解説」では、学生諸君にとって面白くないでしょうし、私にとっても面白くありません。そこで、この講義では、「神が支配するこの世界に、なぜ悪が存在するのか」という非常に解きにくい特定の問題を軸として、古代から近世までのキリスト教の理論史を通覧したいと思います。前期と後期の凡のスケジュールは以下のとおりです。

前期—悪をめぐるキリスト教の古典的理論が、さまざまな対立思想（グノーシス諸派、マルキオン派、マニ教などの）との闘争の中で、古代の教父たち、とりわけアウグスティヌスによって確立された過程を見るつもりです。

後期—16世紀の宗教改革以後、この問題が「恩寵」や「救済予定」の問題との関係で再び論争の的として浮上した事情、それに関する各宗派、各神学潮流の見解などを見た上で、近世のさまざまな思想家たち、たとえばスピノザ、ベール、ライプニッツ、ヴォルテール、無神論思想家たち、ルソー、カントなどが、それぞれの宗教的立場に立脚しつつ、この問題にどう取り組んだかを見ることにします。

成績評価の方法

たぶん、学年末のレポートで点をつけることになるでしょう。

教科書

教科書は使いません。

参考書等

参考書になる本、特に、取り上げる思想家の著作などは、そのつどあげます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
哲 学 概 説	つえ した りゅう えい 杖 下 隆 英	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

古代から現代に至る西洋哲学の歴史的概観を与え、さらに古来反復して論じられてきた重要な課題をとりあげ、現代的視点から批判的に検討する。その際、論理的観点からの考察を重視する。

講義の内容・授業スケジュール

前半は歴史的概観を主とし、それを踏まえ、後半において主として問題的検討を行う。

履修上の留意点

テキストをよく読み、出席して講義を聴くこと、また、大学教育の一環としても、ノートをとることを練習し、それに上達することを希望する。

成績評価の方法

成績は出欠を加味して期末の筆記試験によるが、中間試験を七月か九月に行う。

教 科 書

杖下降英著『認識と価値』東京大学出版会刊 5,047円

参 考 書 等

参考書は必要に応じて授業で挙げる。

そ の 他

授業は講義であるが、質問を歓迎する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 哲 学	た まる のり よし 田 丸 徳 善	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

宗教哲学の仕事は「宗教とは何か」という、その原理を明らかにすることにある。本講では、仏教をふくめた世界の諸宗教の実態をふまえ、またさまざまな角度からこの問題にアプローチするはずである。

講義の内容・授業スケジュール

- 年間をつうじて、ほぼつぎのようなサブ・テーマを順次にとりあげる予定である。
- 宗教と宗教研究／宗教哲学の成立と展開／宗教の科学と哲学／解釈・弁護・批判・実証／分析と構成
  - 宗教定義の問題／定義の意味と類型／宗教の分析枠組／宗教性の次元・構成要素／信念・教義・思想／儀礼・修行・行動／集団と組織／宗教体験と神秘主義
  - 宗教の歴史的形態／宗教史の解釈／宗教進化論／世俗化論の問題
  - 現代の諸問題／宗教と言語／宗教とコミュニケーション／宗教と癒し／宗教多元性の問題

履修上の留意点

テーマの性質上、視聴覚素材などは用いず、主としてふつうの講義形式で行なうことになる。その場合、さまざまな術語（キーワード）を正確に理解することがとくに重要なので、この点に留意してほしい。適宜ノートを取り、また紹介された参考文献にもできるだけ目を通すことを要望したい。

成績評価の方法

通常の試験による。

参 考 書 等

藤田富雄『宗教哲学』大明堂 2,400円  
田丸他編『宗教の哲学』北樹出版 2,200円

科目名	担当者名	配当学年	単 位
現代哲学概説	くほ 久保 陽一	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

主に19～20世紀の哲学を概説し、現代における人間の生き方を考える手掛りとして。現代の哲学的状況の特徴の一つは、英米系の言語分析的な哲学と独仏系の観念論や弁証法の伝統に基づく哲学との対立にあると云われる。最近ではこの対立は確かに緩和されつつあるが、しかし依然として相互の不信や軽視は続いている。だからこの対立は根本的に近代の知の在り方に根ざしているように思われる。それは、科学的に捉えられるもの(「真」)が必ずしも同時に「善」や「美」を意味しなくなり、それ故科学と形而上学、事実認識と価値判断の峻別が前提されるようになったためと思われる。このような視点から現代の哲学の状況を捉え、同時に現代文明に直面させられた人間の諸問題を考察することしよう。

講義の内容・授業スケジュール

講義では次のような内容を扱う予定である。  
 (イ) 近代知の在り方  
 (ロ) ドイツ観念論、マルクス主義、実存主義、分析哲学等  
 (ハ) 現代文明の諸問題

履修上の留意点

講義への積極的な取りくみが要件。哲学史についての予備知識を持つようにしてもらいたい(その為に、例えば『ソフィーの世界』等を読むことを勧める)。

教科書

テキストについては開講時に指示する。

参考書等

シュテークミュラー『現代哲学の主流』(法政大学出版局)  
 渡辺二郎『構造と解釈』(日本放送出版協会)

科目名	担当者名	配当学年	単 位
仏教民俗学	たに 谷 口 眞	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

成立宗教としての仏教が日本社会に受容され、地域社会に定着するには、民間の習俗や信仰と接触し習合する過程があった。したがって仏教と民俗、とりわけ民間信仰とのかかわりを追究することは、日本仏教の諸特徴を明らかにすることになる。仏教民俗学といっても、仏教の視点から民俗を捉えるのか、あるいは民俗の視点から仏教を捉えるのかによって微妙に違ってくるものもたしかである。本講義は、主として民俗学の立場からの考察が中心となる。

講義の内容・授業スケジュール

講義では、各地の具体的な調査事例を紹介しながら、地域社会における寺院の機能に焦点をあて、仏教年中行事、法会(祈祷と供養)、仏教的講集団、仏教の俗信、葬送儀礼、先祖祭祀、墓制などについて考察を行うことにしたい。

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計で行うものとする。

参考書等

本講義では、教科書は使用しない。参考書は授業の中で必要に応じて紹介するが、この分野の全体を見渡せるものとして『仏教民俗学体系』全8巻(名著出版刊)があるので、図書館で閲覧しておくのが望ましい。

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等は、できるだけコピーで配布していきたい。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 教 育	こ やま かず のり 小 山 一 乗	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考(Legal mind)、そこに看取されるいわゆる宗教的思考(religious mind)、教育的思考(educational mind)の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しさは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell(告げる)とteach(教える)との差異、〈religious education〉と〈education about religion〉との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア等を狙上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもよる、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

年度末定期筆記試験、中間レポート、出席点、口頭発表等による。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』(宣協社) 2,940円  
 小中高各『学習指導要領』(各230円 250円 370円)  
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円  
 『教職教養ランナー』(一ツ橋書店) 1,020円  
 『教育小六法』(学陽書房) 2,200円

参考書等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版 1985年)  
 土持ゲーリー法一著『米国教育使節団の研究』玉川大学出版部 9,785円  
 井上順孝監修『宗教教育資料集』すずき出版 3,900円  
 杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』日本評論社  
 参考図書→Kyouko INOUE. 1991. MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION. THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。なお可能なら、受講生と調整の上で調査見学もしたい。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
心 理 学 概 論	茅 原 正 <sup>ただし</sup>	禅・仏教2・3・4選	4

専門教育科目

講義のねらい

心理学は心の学問であり、心のあらわれである行動に関心をもっている。したがって、世の中のあらゆることが、その対象になる。実証科学としての現代心理学は様々な分野にわたり、あらゆる学問領域と手を結びながら発展してきたため、専門化が進んで、その全貌を捉えることが難しい。「心理学概論」では、「心とは何か」という心理学の問題の本質を探りながら、現代心理学でどのようなことが問題となり、どのようなことが明らかにされてきたかを展望するとともに、心のはたらきについて、客観的に観察したり、論理的に考えることを学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

「心理学概論」は必修の専門科目であるので、心理学が関与している問題を全般的に取り上げたい。本年度の講義内容と授業スケジュールの概略は以下の通りである。

[前期]

- 4月 1. 心理学とは何か  
 I 心理学の課題  
 II 心理学の発展
- 5月 2. 環境の認知  
 I 感 覚  
 II 知 覚
- 6月 3. 情報処理と行動の変容  
 I 学 習  
 II 記 憶
- 7月 III 思 考

[後期]

- 9月 4. 行動のしくみ  
 I 要 求  
 II 感 情  
 III 動 機 づ け
- 10月 5. 個性・個人差  
 I パーソナリティ  
 II 知 能
- 11月 6. 環境と発達  
 I 身体・運動の発達  
 II 精神発達
- 12月 7. 人・社会・文化  
 I 社会と文化  
 II 個人と集団

1月 8. 応用・まとめ

以上のようなスケジュールで授業を進める予定であるが、学会出張、大学の行事等によって変更せざるをえない場合がある。

履修上の留意点

本講義は1年次の必修専門科目であるため、出席を重視する。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験のほか、課題レポート、講義への出席状況を考慮して総合的に評価する。

教科書

中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）1,800円

参考書等

参考文献等については、講義の際、詳しく紹介する。

その他

授業は、主として講義の形式で進めるが、OHPやプリント等の使用により、理解しやすいように努めるつもりである。また、教場で可能な限りの簡単な実験や調査、検査等についても、随時紹介する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
パ ー リ 語 初 級	かた やま いち ろう 片 山 一 良	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい	パーリ語は、原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。本講は、パーリ語文法の確実な習得につとめ、原始仏典の正しい読解をめざすものである。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、文法全体について講義し、後半は、『箭喩経』(Cula-Malunkya-sutta)を直接に読みたいと思う。
履修上の留意点	習得に丁寧であることが望まれる。
成績評価の方法	成績評価は、レポート(夏期)および年度末テストによる。
教科書	テキストはコピーにて配布する。
参考書等	『パーリ語辞典』(水野弘元) [春秋社]
その他	随時、テープ等を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
パ ー リ 語 上 級	ふく だ たか お 福 田 孝 雄	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい	仏教の発生の背景となる諸般の状況を検討しつつ、パーリ語文献のなかの最古層に属すると認められるものを中心に講読していく予定である。
講義の内容・授業スケジュール	講読中の当該文献に相当する他の資料も、適宜必要に応じて参照し、検討する。
成績評価の方法	履修者の平常の授業における状態を勘案して、最終的に成績の評価を行う。
教科書	適宜必要に応じて、当方で準備する。



科目名	担当者名	配当学年	単 位
サンスクリット語初級	かな ざわ あつし 金 沢 篤	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

仏教などインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の入門。

講義の内容・  
授業スケジュール

定評ある以下の初等文法書に沿って、サンスクリット語の特徴・概要を知ると共に、適宜練習問題などをふんだんに実習して、サンスクリット文解読のための実際的・基礎的な力を養う。

履修上の留意点

予習・復習を怠らず、常に主体的・積極的に授業に参加することが望ましい。

成績評価の方法

平常点と期末・年度末の筆記試験。

教 科 書

J・ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』 春秋社

参 考 書 等

辻直四郎著『サンスクリット文法』 岩波書店

科目名	担当者名	配当学年	単 位
サンスクリット語上級	かな ざわ あつし 金 沢 篤	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

仏教などのインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の上級篇。

講義の内容・  
授業スケジュール

定評ある以下の教本をテキストに、サンスクリット語に関係の深いデーヴェナーガリー文字に習熟し、サンスクリット文法を改めて確認すると共に、サンスクリット文解読のための実際的な力を養う。演習形式。

履修上の留意点

サンスクリット語初級程度の修了者であることが望ましい。

教 科 書

ランマン著『サンスクリット読本』 (Charles R. Lanman, A Sanskrit Reader) OUP

参 考 書 等

辻直四郎著『サンスクリット文法』 岩波書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
チベット語初級	まつ 松 もと 本 し 史 ろう 朗	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

チベット語は、仏教思想の研究には不可欠な言語である。何故ならば、チベット語に訳された仏典、及び、チベット人仏教者が著した仏典を学ぶことがなければ、インド仏教の思想的研究は不可能であると、今日では考えられているからである。本講義のねらいは、このような仏教研究の目的のために、チベット語の文法を習得してもらうことである。

講義の内容・授業スケジュール

講義のスケジュールは、教科書に従い、チベット文字の習得から、名詞・形容詞・副詞・動詞・助詞・助動詞への説明へと進み、最後に、簡単な読みもの（チベット人の著作）を読んで、文法的知識を確実なものとする。

履修上の留意点

チベット文字を習得するまで、困難ではあるが、頑張ってもらいたい。

成績評価の方法

年度末の試験により、成績を評価する。

教科書

開講日初日に指示するので、必ず出席すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
チベット語上級	き 木 むら 村 せい 誠 じ 司	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

ツォンカパの弟子タルマリンチェン著『量の大備忘録』を講読する。内容は、かなり専門的であるが、時間をかけ、ていねいに読む。なお、受講者に希望があれば、協議の上、テキストを変更する場合もある。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは、コピーで配布する。

成績評価の方法

成績評価は、講義内の平常点によって行う。

教科書

Tshad ma'i brjod byang chen mo.

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国古典語上級	小川 隆 <small>お かわ たかし</small>	禅・仏教2・3・4選	4

- 講義のねらい** 漢語で書かれた書物を読む為には、当然のことながら、正確な漢語の読解力が要求される。この科目では、その最低限の基礎となる標準的な古典中国語（古代漢語）の文法を学習する。
- 講義の内容・授業スケジュール** 授業では、古典中国語をその発音と文法に即して「語学」的に読むことを学んでゆく。具体的には、ふつうの外国語の授業と同様、まずテキストを現代中国音で音読し、その後その文章を語順・文法構造・虚詞（助字）の用法等に即しつつ分析的に読み解いてゆく。教科書にはいわゆる訓読書き下し文の訳がついており、それも適宜参照する。
- 履修上の留意点** 「中国古典語初級」とあわせて学ぶことが望ましいが、必ずしも初級→上級という順である必要はない。むしろこの科目を学ぶ為には、現代中国語の基礎を既に学んでいること（中国語ⅠA-ⅠB程度）が前提となる。現代中国語への理解が深ければ深いほど、古典中国語の学習も深まってゆく。この科目と平行して現代中国語の学習も続けていって欲しい。
- 成績評価の方法** テストは行わない。毎回、必ず一度はテキストの音読と翻訳が当たるので、そのレベルによって成績評価をする。当然、出席重視。
- 教科書** 藤堂明保『漢文入門』（学燈文庫、学燈社 450円）
- 参考書等** 『禅学研究入門』（大東出版社）の第5章「原典読解のための基礎知識」辞書については、教場で詳しく説明する。
- その他** 中国の書物を読む為には、狭義の語学力のほか、中国に関するはば広い知識も不可欠である。中国哲学・中国文学・東洋史等の中国関係の科目を、なるべく多く履修して欲しい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
ラテン語	佐藤 玖美子 <small>さとう くみこ</small>	禅・仏教2・3・4選	4

- 講義のねらい** この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパ言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。
- 講義の内容・授業スケジュール** ラテン語の文字及び推定される当時の発音の説明からはじめて、ラテン語の初級文法全般を出来る限りやさしく説明します。また皆さんの興味を少しでも高める目的で、おりに触れて現在私達の知る英語やその他フランス語、スペイン語、イタリア語などのラテン系の言語とのつながり、発展過程などについても話したいと思います。
- また、文法の進度に従って、簡単な物語りの講読を行い、ローマの歴史や伝説にも親しんでもらいたいと思います。
- 履修上の留意点** テキストは一応講義のガイドとして用いますが、内容的にはテキストから逸脱する部分が多いので、必ずノートをとって下さい。また、教室に必ず辞書を持参して下さい。
- 成績評価の方法** 前期の文法テスト及び後期の翻訳テストの結果に、平常の学習態度、出席状況を加味して成績評価を行います。
- 教科書** 『ラテン語入門』 松本悦法著 駿河台出版社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 文 献 学	い ち ぢい 椎 名 宏 雄	禪・仏教2・3・4選	4

## 講義のねらい

中国と日本の入蔵禅籍についての理解。

 講義の内容・  
授業スケジュール

入蔵禅籍とは、大蔵経（一切経）に収録されている禅の典籍類のことである。大蔵経とは最重要の仏典類を集めた全集のことで、南伝・チベット・中国の三大流伝があるが、中国の漢文大蔵経は何度も刊行され国際的にも最も大きな影響を与えてきた。これを承ける日本の大正大蔵経100巻は、現在は仏典類の世界的な権威とされている。

そこでこの講座では、まず数回にわたって漢文大蔵経の歴史と内容の理解につとめ、以後はそこに入蔵している口中の禅籍個々についてのくわしい説明を行う。と同時に、個々の大蔵経の中にどんな禅籍がなぜ入蔵し、それはどんな意味があるのか、といった点を広く中国仏教史や禅思想史の上から客観的な理解をはかるようにしたい。

また大蔵経や禅籍の解説というと、一見無味乾燥的な講義というイメージを打破し、関連する大切な事項である板木・彫師・料紙・経費・出版などの文化的な方面を、できるだけ実物と写真を豊富に用いて視覚的に書誌学的な理解をはかりたい。併せて和と日本についての基礎的な知識も得られるようにしたい。

だいたい仏教の研究者にとっては大蔵経の基礎知識は常識であり、とくに禅学専攻者にとっては無数の禅籍の中で最も重要な入蔵禅籍についての知識は必須の基礎教養である。また、博物館学を履修する者にとっては大蔵経や仏典の書誌的な理解は欠かせない分野である。したがって、この講座はそうした各領域に強くなる講座といえる。

## 履修上の留意点

旺盛な好奇心。

## 成績評価の方法

出席とレポート

## 教 科 書

プリント資料（無料）

## 参 考 書 等

椎名『宋元版禅籍の研究』大東出版社

## そ の 他

プリント資料を読みながら解説する。その他、補助資料としてプリント資料を豊富に配布する。（すべて無料）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
中国文学講読	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

本講義は中国古典學文獻講讀であると理解してもらいたい。中国古典語（即ち漢文）で書かれた文獻は、現代の文獻と論理・修辭・構成が異っている。この差異を理解しなくては、中国古典文獻を讀みこなすことはできない。本講義では、中国古典語で書かれた文獻を讀む為の基礎的教養の獲得を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、次の書を教科書として用いる。『補註孟子集註』（明治書院）  
孟子は、孔子の後継者として、中国唐代以降の東アジアに大きな影響を残している。東アジアの宗教・思想に関心ある者は避けて通れない。『集註』はその『孟子』の最も代表的な註釋であり、朱子學の權威下廣く讀まれた。但し、『孟子』は決して説教の書ではなく、説話なども多く含み、讀物の面白さもある。これも亦『孟子』を取上げた理由である。その後代の文學・思想への影響へも目を配りながら、『孟子』を『集註』に従って讀んでいくことを軸にして進める。

履修上の留意点

授業は、出来る限り演習形式を取り入れて行う豫定である。教室で必ず音讀してもらおう（原則は訓讀法に據る）。正確に讀めるように十分豫習して授業に臨んで欲しい。又、大學生にふさわしい漢和辭典を必ず携えて來ること。

成績評価の方法

- 以下のものを材料として成績をつける。
1. 平常點（出缺だけでなく、授業への参加の程度、豫習の有無なども重要な材料とする。）
  2. 試験又はレポート（學期中の抜き打試験も有得る。）
  3. その他（質問〈書面ですべて出してもらおう〉任意のレポートなど）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
禅 美 術	えびね とし お 海老根 聰 郎	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

日本の中世の絵画の流れを、それを作りだした禅宗画僧に焦点をしぼり、述べる。関連して、中国の画僧についてもふれる。  
主な画僧は以下のとおり。  
〈中国〉智融、牧谿、雪窓  
〈日本〉黙庵、鉄舟、周位、明兆、周文、雪舟など

そ の 他

授業は毎回、スライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 美 術	なかしまりょういち 中 島 亮 一	禅・仏教2・3・4選	4

講義のねらい

アジアにおける仏教美術の発生、伝播、現状までを、インド・中国（朝鮮も含む）・日本の三ブロックに分け、それぞれの民族・信仰の相関関係を分析し、様式史（図像・技法など）、精神史（信仰思想など）の両面から考察する。

講義の内容・授業スケジュール

先ずインドにおける釈尊なきあとの仏塔崇拜から仏像の起源をさぐり、石窟芸術の発生からシルクロードを経て中国での受容、変遷を辿り、中国から日本への直接、間接（朝鮮）の伝来の跡をスライド、資料などで観察する。それぞれの建築・彫刻・絵画・工芸の様式、信仰内容を多角的に考察するとともに、仏教美術衰退の原因も考える。

履修上の留意点

この講義は専門的に進めれば敬遠され、さりとて安易に流せば軽蔑されがちなので、各自自分のレベルに合わせて、予習、復習に努めてほしい。

成績評価の方法

スライド上映の度に感想文を求め、理解度を確認すると共に、平常点として加算する。

教 科 書

佐和隆研編『仏像案内』吉川弘文館 1900円

参 考 書 等

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
坐 禅 II	ながい まさし 永 井 政 之 石 井 清 純	禅・仏教3・4選	4

講義のねらい

只管打坐の実践・学習

講義の内容・授業スケジュール

実習時間の前半は只管打坐、経行を挿んで後半は『坐禅用心記』を講じる。授業の実施要領および基本的な心構え等については、「坐禅Ⅰ」に全く同じ。

履修上の留意点

科目の性格上、遅刻を認めず、追再試験やレポート提出等による救済措置は、一切講じられない。また、坐禅堂内およびその周辺における、服装・態度・言語・動作等の厳粛・整齊なるを、きびしく要求するから、これらのことを予めよく承知しておくこと。

なお、学年度最初の授業には、席次の決定や必要な諸注意をするから、受講する者は全員かならず出席すること。

成績評価の方法

授業実施時間に対する出席時間数をもって機械的に判定する。ただし、坐禅堂の内外における服装・態度・言語・動作等に、著しく適当を欠くと思われる者、および、講本の忘失者は厳しく減点の対象とする。

教 科 書

『坐禅講本』（更生社）2,266円

科目名	担当者名	配当学年	単位
演習 I	飯塚大展 <small>い いい づか ひろ のぶ</small>	禅・仏教 3 必	4
演習 II		禅・仏教 4 選	

講義のねらい

『狂雲集』を読む  
 林下大徳寺派の僧である一休宗純（1394～1481）の詩偈集である『狂雲集』の読解を通して、その生きた時代背景を明らかにするとともに、一休の「風狂」「風流」の意味を考察してゆきたい。

参考書等

平野宗浄『一休和尚全集』第一巻『狂雲集』（春秋社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
演習 I	岩永正晴 <small>いわ なが しょう せい</small>	禅・仏教 3 必	4
演習 II		禅・仏教 4 選	

講義のねらい

宗統復古後、江戸期の宗学者が著した『正法眼蔵』注釈書類の演習を行います。この演習の目的は、宗学者それぞれの立場や注釈意図の調査研究を通して、演習参加者自身の『正法眼蔵』研究において、先人の研究成果を活用する方途を習得してもらうことにあります。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、『正法眼蔵』の初学者がまずはじめに参照すべきものとして伝承されてきた斧山玄錦述『正法眼蔵聞解』を中心に演習を行ないます。

教科書

『永平正法眼蔵菟書大成』所収の影印本と『正法眼蔵注解全書』所収本を併用しますので、随時コピーして配布します。

## 2 他学部履修科目





# 他学部履修科目

禅学概论	(佐藤秀考)	.....	他 1
中国禅宗史	(田中良昭)	.....	他 1
日本禅宗史	(原田弘道)	.....	他 2
禅籍讲读 I	(佐藤秀孝)	.....	他 3
禅籍讲读 III	(峰岸孝哉)	.....	他 4
仏教概论	(平井俊榮)	.....	他 5
インド仏教文化史	(奈良康明)	.....	他 6
中国仏教文化史	(永井政之)	.....	他 7
日本仏教文化史	(袴谷憲昭)	.....	他 7
中国古典語初級	(石井公成)	.....	他 8
中国哲学史	(前川亨)	.....	他 8
上代文学研究 I	(小野寛)	.....	他 9
中古文学研究 I	(高桥文二)	.....	他 9
中世文学研究 I	(村上光徳)	.....	他 10
近世文学研究 I	(富士昭雄)	.....	他 10
近代文学研究 I	(畑實)	.....	他 11
演劇概论	(井上理恵)	.....	他 11
西洋思想史	(麻生建)	.....	他 12
児童文学	(山口節子)	.....	他 12
比較文学	(満谷マーガレット)	.....	他 13
編集実務	(長谷川孝)	.....	他 13
イギリス文学特講 I	(石原孝哉)	.....	他 14
イギリス文学特講 II	(高野正夫)	.....	他 14
イギリス文学特講 III	(岡崎寿一郎)	.....	他 15
イギリス文学特講 IV	(中岡洋)	.....	他 15
イギリス文学特講 V	(高松雄一)	.....	他 16
イギリス文学特講 VI	(丸小哲雄)	.....	他 17
演劇特講(イギリス・アメリカ)	(荒井良雄)	.....	他 18
アメリカ文学特講 I	(新倉俊一)	.....	他 19
アメリカ文学特講 III	(足田和人)	.....	他 19
時事英語	(サンダース, L. P.)	.....	他 20
現代地理学特論	(長谷川均)	.....	他 20
地形学	(小池一之)	.....	他 21
人口地理学	(中川聡史)	.....	他 21
応用地理学	(高木正博)	.....	他 22
文化地理学	(竹内啓一)	.....	他 23
地理思想史	(竹内啓一)	.....	他 24
日本仏教史 II	(休講)	.....	
日本史特講 VII	[近代](佐藤元英)	.....	他 25
東洋史特講 X	[近・現代](趙軍)	.....	他 26
西洋文化史 I	(休講)	.....	
考古学特講 III	(矢野和之)	.....	他 27
歴史哲学	(麻生建)	.....	他 28
哲学史	(山口祐弘)	.....	他 28
日本民俗学	(谷口貢)	.....	他 29

マス・コミュニケーション論	(川本勝)	.....	他 30
産業・職業社会学	(安藤喜久雄)	.....	他 30
社会福祉発達史	(林千代)	.....	他 31
ロシア・東欧経済論	(山縣弘志)	.....	他 32
社会政策	(光岡博美)	.....	他 33
国民所得論	(吉野紀)	.....	他 34
中国経済論	(小杉修二)	.....	他 35
アジア経済論	(郭修洋春)	.....	他 36
日本経済史	(占庄正)	.....	他 37
中小企業論	(和田耕治)	.....	他 38
教育経済論	(谷敷正光)	.....	他 39
アメリカ経済論	(瀬戸岡紘)	.....	他 40
日本経済論	(森武麿)	.....	他 42
財務會計論	(遠藤章吉)	.....	他 43
銀行監査論	(中藤正)	.....	他 44
商業政策論	(齊藤透)	.....	他 45
貿易論	(飯岡弘)	.....	他 46
マケティング論	(岩下沢紘造)	.....	他 47
原価計算論	(古沢我信利孝)	.....	他 49
労務管理論	(加藤井脩二)	.....	他 50
行営管理法論	(石百田脩義)	.....	他 51
親族統制法	(斉藤寿)	.....	他 52
比較憲法	(竹中智香)	.....	他 53
西洋法制史	(竹中智香)	.....	他 54
比較憲法	(岡田外司博)	.....	他 55
地方自治法	(休講)	.....	他 56
ヨーロッパ政治史	(石井三記)	.....	他 57
国際政治学	(金原恭子)	.....	他 57
議会比较政治学	(休講)	.....	他 57
国際経営論	(梅木崇)	.....	他 57
保險経営論	(浦田早苗)	.....	他 58
財務會計論	(小堀訓男)	.....	他 58
税務會計論	(前田英昭)	.....	他 59
商業情報論	(三竹直哉)	.....	他 60
経営統制論	(茂垣広志)	.....	他 61
保險経営論	(張国強)	.....	他 62
財務會計論	(石名坂邦昭)	.....	他 63
税務會計論	(渡邊惠一郎)	.....	他 64
商業情報論	(高木克己)	.....	他 65
経営情報論	(山田勝)	.....	他 66
経営分析論	(高井徹雄)	.....	他 67
経営学講読	(西村和夫)	.....	他 68
代文学講読	(休講)	.....	他 68
中古文講読	(片桐伸夫)	.....	他 69
	(佐原美)	.....	他 70
	(鈴木裕子)	.....	他 70

中世文学講読(藺部幹生)	.....	他71
近世文学講読(菅野一雄)	.....	他71
近代文学講読(井上優)	.....	他72
現代文学講読(小林治)	.....	他73
時事英語(岡本誠)	.....	他74
英語演習 I (岡本誠)	.....	他75
[ディクテーション]		
応用計測学(櫃尾英次)	.....	他76



科目名	担当者名	配当学科	単位
禅学概論	さ とう しゅう こう 佐 藤 秀 孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禪那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。はじめにインド仏教における禅（禪定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禪宗）の基本的な歴史（禪宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

## 教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

## 参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

## その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国禅宗史	た なか りょう しょう 田 中 良 昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達磨を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

## 講義の内容・授業スケジュール

菩提達磨の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達磨の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪州宗、石頭の石頭宗によって禅宗が一宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐末・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

## 履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

## 成績評価の方法

成績評価の方法としては、学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

## 教科書

教科書としては、現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

## 参考書等

参考書としては、比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史——中国——』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

## その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本禅宗史	はら だ ひろ みち 原 田 弘 道	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

#### 講義のねらい

- 我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。
- I. 栄西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅——教乘禅的性格をもったもの。
  - II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
  - III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雜に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の三代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
  - IV. これらの臨濟禅とは別に道元によって伝来され、瑩山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
  - V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅——念仏禅——である。
- 講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想的意義も明らかにしておく。

#### 講義の内容・授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代）
2. 兼修禅の勃興とその系譜
3. 曹洞禅の伝来と原始僧団
4. 臨濟禅の伝来と形成
5. 五山の成立と五山文学
6. 臨濟禅（応・燈・関）の展開
7. 曹洞禅の地方展開
8. 近世の禅宗
9. 近代の禅宗

#### 履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

#### 成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

#### 参考書等

『禅の歴史—日本—』（講座禅第四巻）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』  
荻須純道『中世日本禅宗史』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 I	さ とう しゅう こう 佐 藤 秀 孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

この講義は中国禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものである。中国禅宗は南北朝期（梁・北魏）の渡来僧菩提達磨（達摩とも）に始まり、唐・宋代に開花・隆盛しているが、ここで初期の禅籍というのはとくに唐末五代以前に成立したものをその対象としている。はじめに初期禅宗から南北二宗の対峙、洪州宗から五家（沩仰・臨済・曹洞・雲門・法眼の五宗）の成立頃までの中国禅の思想的展開を主要な禅籍を通して概観する。とりわけ、20世紀初頭に中国西部の敦煌から出土した敦煌写本の禅籍や、同じく朝鮮半島の海印寺から発見された『祖堂集』などは、初期の禅宗の歴史と思想の実態を知る上で絶大な影響を及ぼしていることから、そうした近年の研究成果を踏まえて禅籍の成立・流伝の歴史的な背景を考察したい。その後に当該の禅籍のいくつかを講読し、祖師たちの示した教えが如何なるものであったのかを明らかにしていく。対象となる禅籍としては、『二人四行論』『無心論』『絶観論』『六祖壇経』『証道歌』『参同契』『宝鏡三昧』などであり、さらに『祖堂集』などから特徴的な祖師の事跡を学んでみたい。初期の禅籍は禅の思想のもっとも基本となるものの考え方が確立されていく時期に著されたものであり、その後に展開した禅思想もすべてこれを踏まえているといつてよい。その面では初期の禅籍を読解することこそ、禅を理解する上での鍵となるものであろう。

## 教 科 書

教科書はとくに指定しないで、その都度、資料をコピーにて配布するものとする。

## 参 考 書 等

参考書としては、『禅の語録』（筑摩書房）のシリーズ、『禅語録』（中央公論社・世界の名著）や『禅家語録』I・II（筑摩書房）などがある。

## そ の 他

授業の方法としては、前半の初期禅籍の紹介・研究は講義形式で行うのを原則とするが、後半の禅籍の講読では学生諸氏にも具体的に初期禅宗の禅籍を逐一読んで頂くので、そのつもりで臨んでもらいたい。禅籍に対する読解力が深まるよう指導したい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 III	みね ぎし こう さい 峰 岸 孝 哉	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

『道元禅師語録』を読む

本書は宗門では『永平元禅師語録』、または単に『永平略録』と呼ばれてきたものである。これを上記のように『道元禅師語録』と改称して刊行したのは、大久保道舟博士が最初とされる。

本書は『永平元禅師語録』として延文3年（1358年）、永平寺六世曇希によって開版されたが、江戸時代にいたるまで幾度か版を重ねていることが確認されるから、宗門でも広く読まれてきたとみることができよう。

本書の原典となったのは、永平道元（1200年～53年）が開堂した興聖寺・大仏寺・永平寺における上堂語を中心をなす『永平広録』十巻が考えられるが、本書の成立についてはまだ不明な点も多いとしなければならない。なぜならば曇希が刊行したのは、天童如浄の会下において、永平道元と同門であった無外義遠の手によって抄録された『永平広録』と考えられるからである。

このように本書の成立、その歴史的な性格、および宗門教学に対する影響等々、今後吟味されるべき課題は多く残されているが、こうした課題に対して、本文の精読を通じて考えたいというのが本講の目的である。

## 講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいの記述にみられるように本書の成立は、無外義遠の独自の編成と考えられるから、その背景となった当時の南宋禅の歴史的な性格と、道元禅についての説明を数回にわたって試みる。次に上堂語を順次読み進める。

## 履修上の留意点

テキストの本文は漢文で独自の禅語録、つまり上堂語であるので予習・復習はぜひ必要である。

## 成績評価の方法

後期の定期試験で成績は評価する。

## 教 科 書

大久保道舟訳註『道元禅師語録』岩波文庫 岩波書店 ￥520

## 参 考 書 等

鏡島元隆著『道元禅師語録』講談社学術文庫 ￥700  
酒井得元『道元禅師全集』第5巻、『永平元禅師語録』春秋社 ￥4,120

## そ の 他

講義の内容・授業スケジュールについては担当者が行い、他は輪読形式としたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 概 論	ひら い しゅん えい 平 井 俊 榮	英 米 文 ・ 地 理 ・ 歴 史 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理 ・ 経 済 商 ・ 経 営 ・ 短 国 ・ 短 英	4

## 講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・  
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序 章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法——仏教の真理観——
- 第4章 一切法——法の分類——
- 第5章 輪廻と業の煩惱
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心——実践の主体
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

## 履修上の留意点

出欠は毎時限採る

## 成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価

## 教 科 書

高崎直道著『仏教入門』東京大学出版会 1,600円（変更あるやも知れず）

## 参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』春秋社 2,575円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
インド仏教文化史	な ら や す あ き 明 奈 良 康 明	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教理が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァッタの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに平成10年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

## 講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。  
「仏教」をどうとらえるか  
「文化」とは何か；  
仏教（宗教）の二つのレベル；「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）  
仏教文化の「表層」と「基層」  
仏教文化研究の方法論；M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。  
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）  
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ  
カースト・ヴァルナ制度と仏教  
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。  
古代インドにおける業・輪廻思想の成立  
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）  
一般的業論の「自覚的業論」への昇華  
懺悔の思想と実践  
業と果報の関係  
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。  
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）  
「作功德→生天」の図式的倫理的・宗教的意味  
功德観念の「出世間レベル」への関係付けない昇華  
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）  
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念  
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。  
ヒンドゥー教におけるブレータと祖霊祭  
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼  
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼  
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味  
テラヴァッタ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼  
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

今年度は中国人であるなら誰でも知っている年中行事の一一を中心に、中国の仏教者、特に禅僧が、それらの風俗をどのように捉えていったかを考える。

言うまでもなく、「風俗」の大半は仏教が創出したものではない。むしろ「出家者」は、民間の行事とは無縁な存在であるべきであった。しかし叢林運営・教育という現実は、必ずしも理念通りにあるわけではない。教育者たる禅僧・住持は、理想と現実のハザ間で、彼我をいかに弁別するかに苦心のあとを見せる。中国の歳時記を見つつ、行事の内容を具体的に考え、またそれに対する禅僧の発言を『如淨録』『虚堂録』を中心に紹介していく。

## 講義の内容・授業スケジュール

年初から年末まで、中国の主たる年中行事を追いながら、仏教者がどのように対応したかを考える。

## 参考書等

中村喬『中国の年中行事』平凡社選書  
同氏『続中国の年中行事』同上  
同氏『中国歳時史の研究』朋友書店

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

この授業は、「日本仏教文化史 (Cultural History of Buddhism in Japan)」であるが、私は、「仏教思想」を知らずしては、「仏教文化」を正確に理解することはできないとの立場を取っているので、原則的なことをいえば、「仏教思想」に関心をもっての方にもむしろ参加して頂きたい。しかも、できれば、講義形式を取りたくないと考えているので、少人数の方がよい。

## 講義の内容・授業スケジュール

この授業の中心は、昭和12年に文部省より刊行された『国体の本義』を読むことに置く。「思想」的にいえば、本書ほど非仏教的なものはそれほど多くはないと思うが、本書を慎重に読むことによって、我々現在の日本人も、本書に説かれているような考えを、知らず識らずのうちに我が国の「仏教文化」の中核のごとく考えているかを思い知るであろう。しかも、このような考え方が、例えば、吉本隆明・梅原猛・中沢新一『日本人は思想したか』（新潮社1995年）のごとく、一人前に日本人の「思想」を語ろうとしている出版物にすら歴然とした痕跡を残しているのである。『国体の本義』は、「我が国の文化は、肇国以来の大精神の顕現である。これを豊富にし発展せしめるために外來文化を摂取醇化して来た。」(114頁)という「文化史」観に立つが、土俗信仰温存の立場からいえばかかる史観も成り立ちうるかもしれないが、仏教の「思想」から見ればそうはならないことを丁寧に指摘していきたいと思っている。この授業は、一昨年度よりの続講であるが、本年度は、『国体の本義』第二「国史に於ける国体の顕現」より講読する。なお、本年度は、下記の家永三郎博士の著作も教科書として採用するので用意されたい。

## 履修上の留意点

演習形式を取るので、自分で調べて発表する意欲のないものは決して参加してはならない。

## 成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

## 教科書

『国体の本義』は図書館に多数所蔵されているので借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。

家永三郎『日本文化史』第二版(岩波新書) ¥660

## 参考書等

参考書は適宜指示する。

## その他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国古典語初級	いし 石 井 公 成	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

## 講義の内容・授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

## 履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

## 成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

## 教科書

教科書は使用せず、コピーを配布する。

## 参考書等

辞書・参考書などについては教場で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国哲学史	まえ 前 川 とおる 亨	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

中国の思想史の特色を明らかにし、その展開の過程を跡付けることを目的とする。中国思想の全体像を概観した後、古代から現代に至るまでの思想を具体的にとりあげていく。中心になるのは儒教・仏教・道教のいわゆる三教であり、これに近代以降の西洋思想などもかかわることになる。この講義では狭義の「哲学」史ではなく、より広く中国人の思考様式を探る「思想」史を旨指したいと思う。その際、東アジア世界における中国思想という視野を失わないように心掛けたい。思想史を学ぶ場合には、対象に対する「評価」は一応括弧に入れて、対象を「理解」しようとする謙虚な姿勢が必要である。この講義は、個々人が中国の思想・宗教・文化などについて考えるための手掛かりを提供するものである。現実生活と縁遠いものに思われがちな「思想」の世界がいかに現実の人間と強く連関しているかを、ともに学んでいきたい。

## 履修上の留意点

講義では漢文資料を多く用いるので、古典中国語や現代中国語に初歩的な知識をもっていること（もしくは、持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、内容自体はそうした知識なしでも理解可能であろう。むしろ、中国の思想・宗教・文化・社会など様々な分野に関心をもっている諸君の積極的な参加を期待したい。

## 成績評価の方法

前期・後期それぞれのレポートを予定している。

## 教科書

特に必要としない。

## 参考書等

授業中に適宜紹介する。

## その他

できるだけ多方面の情報を提供するため、授業は講義の形式をとるが、その欠陥を補う何らかの方法も考慮したい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
上代文学研究 I	おののひろし 小野寛	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

今年度は万葉集巻三から、上代文学の特質を考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

万葉集巻二の挽歌の部から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

## 履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

## 成績評価の方法

学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

## 教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）¥1,600

科目名	担当者名	配当学科	単位
中古文学研究 I	たかはしふんじ 高橋文二	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大・短英	4

## 講義のねらい

平安朝の女流文学作品の中に表れた人間観、宗教観、自然観の意味するところを問い尋ね、その文学世界の特質を考える。

## 履修上の留意点

講義の該当箇所を予習し、そこに出てきている作品の原文を確認しておくことが望ましい。

## 成績評価の方法

出席の状況、夏休みの課題レポートの提出、期末テストの成績で評価する。

## 教科書

『王朝まどろみ論』（笠間書院）¥2,000

## 参考書等

講義時間内に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中世文学研究Ⅰ	むら 村 かみ 上 みつ 光 のり 徳	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

長明の『無名抄』を読み、長明の和歌に対する考え方や、当時の和歌について考察すること。また『幽玄』について検討する。

## 講義の内容・授業スケジュール

『無名抄』を諸本の本文の違いなど注意しながらいねいに講読する。

## 成績評価の方法

出席点と定期試験で評価

## 教 科 書

『方丈記・無名抄』双文社出版

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近世文学研究Ⅰ	ふ 富 し 士 あき 昭 お 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

蕉風俳諧の代表的俳論書『去来抄』の講読を通して、蕉風俳諧の特質を考察する。

## 講義の内容・授業スケジュール

『去来抄』は「先師評」「同門評」「故実」「修行」の四部から成る。「先師評」は発句や連句を詠む心得を説く、今は亡き芭蕉の評言を収め、「同門評」は去来を始め其角・許六ら同門人の評言を収載する。「故実」は俳諧の故実・法式に関する去来と卯七・魯町ら身内の者との問答を収め、「修行」は不易流行の説や、蕉風俳諧の理念「さび」などに関する芭蕉らの見解を収録する。これらの精読を通して蕉風俳諧の特質について理解を深める。

## 成績評価の方法

学年末の定期試験で評価するが、出席状況も考慮に入れる。

## 教 科 書

山下一海編『去来抄』おうふう（桜楓社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近代文学研究Ⅰ	はた 畑 みのる 實	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

明治三十年代の文学  
明治三十年代はいろいろな傾向の小説や評論が出た。そのうち前年度は政治や社会問題に関心を向けた社会小説や政治小説を扱ったが、今年度は西欧の自然主義の影響を受けた写実主義文学の動向を考察し、その特色、意義、限界などをあきらかにしていくことを目的とする。

## 講義の内容・授業スケジュール

前後期とも講義を中心とするが、必要に応じて小説や評論の全部ないしは一部を読むことを考えている。

## 成績評価の方法

学年末に試験を行い出席状況等を考慮しながら総合的に評価する。

## 教科書

プリントを配布する。

## 参考書等

授業時に随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 劇 概 論	いの 井 うえ 上 よし 理 え 恵	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかに収斂すればいいのかについて考察する。

## 講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウロジー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになる。ソポクレス「オイデプス」近代戯曲の父といわれるイブセン「人形の家」「幽霊」等も検討したいと考えている。

## 履修上の留意点

個別な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は国文学特講Ⅹを同時に受講されることが望ましい。また、実際の舞台を見にいて討論をする予定であるから本講座を受講する者は劇場に足を運ぶことを条件としたい。(観劇料3,500～4,500円)

## 成績評価の方法

成績評価はレポート(二回、観劇批評含む)とテスト、出席率による。

## 教科書

毛利三一彌編『東西演劇の比較』放送大学教育振興会

## 参考書等

参考書は特に指定しないが、出来るかぎり戯曲を読み、舞台を見ることである。

## その他

講義形式ではあるが、ビデオ視聴や観劇後に討論をする予定である。



科目名	担当者名	配当学科	単 位
西洋思想史	あ 麻 生 けん 建	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。

## 講義の内容・授業スケジュール

特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

## 履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

## 成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

## 教科書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』東京大学出版会 ￥3,502

## 参考書等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

## その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
児童文学	やま ぐち せつ こ 山 口 節 子	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

## 講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日の状況をのり超える力をもつことを、M.エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

## 講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

## 履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

## 成績評価の方法

成績評価は、前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

## 教科書

授業の際に、事前に紹介する。

## 参考書等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

## その他

講義を中心に、ビデオなども用いる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 文 学	みつたに 満谷マーガレット	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

この授業で、日本と欧米の相互イメージを探ってみたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期では、〈ゲイシャ〉と〈サムライ〉を基本にした欧米における日本のイメージがどのようにして形成されたかを探る。一つの出発点として、日露戦争の頃にできたブッチャーニーのオペラ『マダム・バタフライ』を詳しく検討するが、ビエール・ロチの『お菊さん』（明治20年）やラフカディオ・ハーン著作も参考になる。『マダム・バタフライ』のイメージが微妙に変容しながら現在に至るまでに、欧米の小説や大衆文化にどのように生き続けてきたかをまずみってみる。後期では逆に、日本における欧米人、あるいはアジア人のイメージを日本文学を通して探っていく。

## 成績評価の方法

前期後期一回づつレポートを提出してもらおう。学生に発表してもらおうこともある。

## 教 科 書

前期は、決まった教科書はない。

後期では、次の作品を読む：谷崎潤一郎『痴人の愛』新潮文庫  
遠藤周作『アデンまで』（『白い人、黄色い人』講談社文芸文庫）  
小島信夫『アメリカン・スクール』新潮文庫  
大江健三郎『飼育』新潮文庫  
村上龍『ニューヨーク・シティ・マラソン』（集英社文庫）  
山田詠美『ベッドタイムアイズ』新潮文庫

## 参 考 書 等

参考になる本：エドワード・サイード『オリエンタリズム』平凡社  
佐々木英昭編『異文化への視線』名古屋大学出版会

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
編 集 実 務	はせがわ 長谷川 たかし 孝	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

## 講義のねらい

編集とは、「だれかに——何かを——伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を讀みとるのかという「視点（目のつけどころ）」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして考えながら、「自分の視点」を育てることを目指したいと思っています。

「だれかに——何かを——伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみるのができれば、と思います。個人紙（誌）づくりの課題には、こうしたねらいもあります。

## 成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙（誌）を課題作品として提出してもらいます。

## 教 科 書

教科書は使いません。（随時、プリントを使用）

## 参 考 書 等

『新聞をつくらう』（長谷川孝編著 さ・え・ら書房 ¥1,236）を随時、参考にします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講 I	いし 石 はら 原 こう 孝 さい 哉	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

シェイクスピアを中心にルネッサンス期のイギリス文学を、広くヨーロッパ文学の流れの中で講じる。ノースロップ・フライの批評理論を軸に、他の方法も必要に応じて取り入れながら幅広く論じる。

## 講義の内容・授業スケジュール

主としてとりあげる内容は：①神話と文学 ②文学の源流 ③詩・民話・劇 ④ルネッサンスと新学問 ⑤トマス・モアと新しい流れ ⑥エドモンド・スペンサーと『妖精の女王』 ⑦クリストファー・マーロウとヒューマニズム ⑧ウィリアム・シェイクスピアの世界 ⑨獄中作家ジョン・バニヤン ⑩ミルトンの世界 ⑪文学とイギリスの文化

## 履修上の留意点

完全な講義形式で行なうので予習は必要ないが、トマス・モア、エドモンド・スペンサー、クリストファー・マーロウ、ウィリアム・シェイクスピア、ジョン・バニヤン、ジョン・ミルトンなどの主要作品を、読んでいることが前提となる。このため3・4年生の受講を希望する。

## 成績評価の方法

成績はレポート、期末試験で評価する。

## 教 科 書

『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』 三修社 ￥3,800

## 参 考 書 等

『同一性の寓話』 法政大学出版局、『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』 三修社、その他教場にて指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講 II	たか の まさ お 高 野 正 夫	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、DrydenやPopeなどに代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomson のように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward Young や Robert Blair そして Thomas Gray などのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年に William Wordsworth と Samuel Taylor Coleridge によって出版された *Lyrical Ballads* という、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

## 履修上の留意点

授業ではよくノートをとること。

## 教 科 書

教場にて指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅲ	おか ぎき とし いち ろう 岡 崎 寿 一 郎	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代」modernity という言葉の感覚を理解することは、むつかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

## 講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマッシュュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）、さらにD.H.ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

## 成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席（50%）、前期試験に代わる夏季レポート（25%）、後期試験（25%）による総合評価とします。

## 教科書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

## 参考書等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅳ	なか おか ひろし 中 岡 洋	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

イギリス小説のなかで特異な地位を占めつつ、もはや伝統の外部とはいいがたくなっているブロンテ文学について講義する。わが国では比較的によく親しまれていると思われるが、正しく理解するためにあらゆる方面から考察を加えてみようと思う。

## 講義の内容・授業スケジュール

具体的には Charlotte Brontë (1816-55) の *Jane Eyre* (1847) をはじめとして、すべての小説にふれ、初期作品から詩歌、エッセイの類まで扱う。また映画化された作品もあり、それらを見、鑑賞する機会ももちたい。全体をほぼ把握した段階で、その周辺の作家たちとの関連に言及し、広くイギリス文学の特質を理解するように努める。

## 履修上の留意点

出席に励むこと。各自が自覚をもって勉強に励むことを期待している。

## 成績評価の方法

出席回数と試験の結果によって評価する。

## 教科書

『ブロンテ姉妹の時空』 北星堂書店

## 参考書等

教場で適宜指示する。

## その他

真面目に受講することを期待し、不真面目な受講態度の学生は退席してもらおう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講V	たか まつ ゆう いち 高 松 雄 一	祥・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

#### 講義のねらい

本講義ではイギリスにおけるモダニズム文学の種々相を考察する。モダニズムとは20世紀の初め、1910年前後に、英米およびアイルランドに出現した若い文学者たち、たとえば小説のジェイムズ・ジョイス、ヴァージア・ウルフ、批評のT.E.ヒューム、詩のエズラ・パウンド、詩と批評のT.S.エリオット、それに年長の詩人イェイツなどが、それぞれの分野で新しい実験的な表現法による作品を生みだし、従来の伝統的な手法を革新した1つの文学運動といふべきものである。

彼らはこの運動の存在理由を自らの批評活動によって論理づけ主張することを怠らず、1920年代から40年代の初めまでイギリス文学の主流を占めるに至ったが、今日のいわゆるポストモダニズムの時代にも、有形無形の影響を残していると言っている。

#### 講義の内容・授業スケジュール

この運動は、しかしながら、唐突に生じたのではない。当時の社会的な変動や、19世紀から20世紀にいたる一連の文学的な展開と密接に結びついている。本講義では19世紀初めのロマン主義文学運動、および世紀末の唯美主義批評との関連にも触れながら、モダニズムの特質を明らかにしてゆきたい。ただし主義主張を羅列するのではなく、上記の詩人や作家の作品から適宜抜粋して具体的に読み、分析しながら考察を進める。

#### 教 科 書

講義内容に応じてプリントアウトした作品や批評を読む。

#### 参 考 書 等

高松雄一編『イギリス文学』（放送大学教育振興会）。イギリス文学の流れをつかむのに役立つであろう。

高松雄一編『想像力の変容』（研究社出版）。主としてモダニズム関係の論考を集めたもの。内容は専門的。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅵ	まるこ てつ お 丸 小 哲 雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

批評行為は人間の本能であります。文学テキストの読みについての論議が必要なのは、やみくもに文学テキストを読んでもそれほど大きな効用がなく、テキストの読み・解釈・批評の交通整理が必要であるからです。その交通整理が批評です。テキスト間の相違に折り合いをつける枠組は、いわば作者の「方法」を読みとるためであり、読み手自身のテキストを作ることでもあります。その「方法」は一般化、普遍化できるものですが、人間の不合理や不条理を取り扱う文学論はテキストの神秘的な解釈から脱神秘的な解釈へいたる回路を、いかに創り出してゆくかが問題となります。

ですから、初発の読書体験を大切に、主体としての〈持続する〉テキストをどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程にあって、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、テキストに対してどのようにして責任をとるかを発見することです。文学批評は個人の嗜好ではなく、集約的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。そのために文学テキスト内部からテキスト外部へどう出てゆくのかの手順を批評的ディスカールとして説明してゆきます。

## 講義の内容・授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用してレポートを作成してゆきます。従ってテキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構の世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か；日常言語と虚構言語の差異
3. 文学テキストの機能と力
4. 英文学研究の成立過程；文学研究制度の問題
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 要約：批評精神の偏在性と批評的態度について

## 成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

## 教科書

『〈持続する〉テキストへの意匠』 英宝社

## 参考書等

開講時に読書リストのプリントを配布します。また、読書のための参考書は必要に応じて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
演劇特講 (イギリス・アメリカ)	あら い よし お 荒 井 良 雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

イギリス演劇史とアメリカ演劇史を、欧米演劇の原点であるギリシア・ローマ演劇の伝統をはじめ、最近のロンドンやブロードウェイにおける上演や、映画化作品、さらには日本における受容をも視界に入れて講義する。とくに近代劇と現代劇を中心に、ミュージカルも取り上げて、世界中で上演されている英米演劇の特色と魅力を明らかにしたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期はアメリカ演劇を、ユージン・オニールの作品を中心に講義する。後期はバーナード・ショーとノエル・カワードの演劇が中心である。

1. Tragedy and Comedy
2. Eugene O'Neill
3. Lillian Hellman
4. Arthur Miller
5. Tennessee Williams
6. Edward Albee and Sam Shepard
7. Mediaeval Religious Drama
8. Elizabethan Drama
9. William Shakespeare
10. Comedy of Manners
11. Oscar Wilde
12. Maugham, Coward and Rattigan
13. Peter Shaffer
14. Musicals
15. Theatre and Film

## 履修上の留意点

戯曲を読んだり、舞台を見たり、映画化作品を映画館やビデオで見たりして、英米演劇を積極的に鑑賞したり研究したりするのが好きな学生の受講を期待する。

## 成績評価の方法

レポートと学年末試験の成績で評価する。

## 教科書

特定の教科書は使用しない。戯曲や参考書は講義の主題毎に紹介する。

## 参考書等

荒井良雄著『英米文学映画化作品論』新樹社 ￥2,500  
 太平和登・荒井良雄共著『ブロードウェイ!ブロードウェイ!』朝日新聞社 ￥1,200

## その他

舞台や映画のビデオや演劇の朗読テープを随時使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ文学特講Ⅰ	にい くら とし かず 新 倉 俊 一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

アメリカにおける近代詩の成立の歴史的状況をふまえて、いかにイギリスとは異なるユニークなアメリカ詩が発展したかを、具体的な作品に即して説明していく。それと併せて、新体詩以来の日本の詩にアメリカ詩が及ぼした影響を取り上げたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期は主として19世紀までのアメリカの詩人たちを紹介し、ポー、ホイットマン、エマソン、ディキンソンからロビンソン、フロストまでの作品を対象とする。後期は第一次大戦前後からアメリカ詩に大胆な革新をもたらしたパウンド、エリオット、ウィリアムズ、スティーヴンズ、ムア、カミングズ、ハート・クレインから、第二次大戦後に詩と人間の関係を問い直したロバート・ローエル、ベリマン、スナイダー、ギンズバーグ、ブライなどの現代詩人の作品を取り上げる。なお、適宜に、エマソンと北村透谷、ポーと萩原朔太郎、ホイットマンと有島武郎、エリオットと西脇順三郎、それに「荒地」の詩人たちやギンズバーグらのいわゆる「ビート詩人」たちの影響などをふれていきたい。

## 履修上の留意点

講義を中心とし、適宜、ビデオで詩人の紹介を行う予定。

## 成績評価の方法

前期はレポート提出。後期は詩の解釈および訳についてテストを行う。

## 教科書

新倉『アメリカ詩の世界』大修館書店 ￥1,900

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ文学特講Ⅲ	あし だ かず ひと 足 田 和 人	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

Mark Twain の作品の魅力は、そのユーモラスな語り口にある。彼のユーモアは多くの読者を引きつけた。しかし、彼の作品におけるユーモアは習作期の作品と晩年の作品では、その趣を異にする。19世紀から、20世紀に移ってゆく時代思潮を考慮にいれながら、彼の作品と思想の変化にせまる。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期は習作期、後期に晩年の作品を読む。

## 履修上の留意点

毎回の予習を前提として、授業を進める。

## 成績評価の方法

ディスカッション形式で授業を行うので、積極的な授業態度が必要である。出席及び発表、及び、不定期に課される授業内レポートを平常点とする。前、後期レポートを加えて評価する。

## 教科書

『アダムとイヴの日記・他』北星堂書店

## 参考書等

必要に応じて紹介する。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
時 事 英 語	Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.)	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放	4

## 講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア（ドキュメンタリーフィルム、TVニュース、雑誌、タブロイドなど）で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。

Intertextual Analysis のメソッドで行う。

講義の内容・  
授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを行う。

## 成績評価の方法

年に2回テストを行う。

## 教 科 書

プリントを配布する。

## そ の 他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代地理学持論	は せ が わ 長谷川 均	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

## 講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。海上ヘリポートや空港建設など、大規模な土木工事が計画され、それに伴う自然界へのダメージも懸念されている。本土復帰以降、巨額な資金が注ぎ込まれた沖縄では鳥々の自然がいたるところで痛めつけられている。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。後期は、前期の内容を受け「デジタル化した空中写真」や「リモートセンシングデータ」を使って、地球や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

## 履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退出は認めない。

## 成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

## 教 科 書

使用しない。毎回プリントを配布する。

## 参 考 書 等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

## そ の 他

VTR、スライド、沖縄民謡、PCによるプレゼンテーションもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地 形 学	こ 池 一 之 こ い け か ず ゆ き 池 一 之	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・短大	4

## 講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

## 講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。  
1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）、4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、6. 地形発達

## 履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

## 成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

## 教科書

小池一之・坂上寛一ほか著『新版地学教育講座⑨「地表環境の地学—地形と土壤」』東海大学出版会 ￥2,575

## 参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』東京大学出版会 ￥4,532  
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』東京大学出版会 ￥3,708

## その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
人 口 地 理 学	な かわ さと し 中 川 聡 史	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

近年、人口問題はさまざまな方面から注目を集めています。世界の人口増加の大半を占める開発途上国については、人口増加と開発の関係、急速な都市化、そして人口増加と地球環境の関係などが議論されています。一方、日本などの先進国では晩婚化、少子化が問題となり、人口高齢化への対応が真剣に考えられるようになってきました。そして、こうした問題は観察する地域スケールによって、見え方が大きく変わります。すなわち、世界全体で見れば人口増加が大きな問題ですが、日本を含むいくつかの先進国では近い将来の人口減少を憂慮していますし、一国内でも、人口の過疎化と高齢化に悩む地域もあれば、過剰な人口集中が問題となる大都市もあります。「人口地理学」では、地域スケールに注意を払いつつ、近年の世界および日本の人口問題を理解し、考えるための人口学の基礎的知識について講義します。

## 講義の内容・授業スケジュール

おおよそ以下のような内容の講義をおこなう予定です。近年の人口動向、人口分布と人口構造、人口の変動、出生、晩婚化と少子化、死亡、人口の高齢化、人口政策と家族計画、人口都市化、国内人口移動、国際人口移動、人口と環境・食料。

## 成績評価の方法

成績評価は年度末の試験でおこないます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
応 用 地 理 学	たかぎまさひろ 高木正博	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマが求められるであろう。講義では河川をテーマとする。これの専門分野である河川工学や農業水文学などの成果をふまえて、河川を河道だけでなく流域として捉えることを基本とし、流域（地域）の自然とその土地の人々とのかかわりあいについて利水・災害・自然環境などの視点から明らかにする。また、水と人とのかかわりあいを論じる場合、水の基本的な特性である循環を意識し、それぞれの地域に固有な水循環システムと行政施策のかかわりあいを考える。さらに、ヨーロッパにおける河川管理についていくつかの事例を紹介する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、河川の基本特性について水文学的に講ずる。つぎに、具体的な河川の事例について、それぞれの河川に固有な特性を利水・災害・自然環境などの視点から考える。さらに、川をめぐる現実的な課題を明らかにし、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味して行う。

教科書

授業時間に配布するプリントを使用。

参考書等

高橋裕著『河川工学』 東京大学出版会。その他随時紹介する。

そ の 他

講義中心。事例紹介のためのスライドやOHP、ビデオも使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 化 地 理 学	たけ うち けい いち 竹 内 啓 一	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

## 講義のねらい

文化地理学なるもの内容については、国ごとに、また地理学者ごとに極めて多様な理解がなされている。この講義では、私なりに文化地理学を、提示する。下記の書物を教科書として使用するが、順をおって教科書の内容を説明するのではなく、毎回、ひとつのトピックについて話をし、教科書の関連する部分を指示する。

## 講義の内容・授業スケジュール

内容としては、文化地理学の生成と発展、文化景観（風景）論、文化生態論、生活空間論、構造化理論、カルチュラル・スタディーズに関するいくつかのテーマを予定している。

## 履修上の留意点

出欠のチェックは行わないが、予告無しに行う小テストおよび学年末の筆記試験は、講義に出席し、参考文献をよく読み理解していないと解答できないであろう。予告無しの小テストを何回か、授業の最後に行う。

## 成績評価の方法

上記小テスト（40％）および学年末の持ち込み一切自由の筆記試験（60％）による。

## 教 科 書

教科書は、高橋・田林・小野寺・中川『文化地理学入門』東洋書林 ￥2,500

## 参 考 書 等

さしあたり、以下の参考文献をあげておく。その他の文献は授業時間の中で示す。

- 千葉徳爾『文化地理入門』大明堂 1990年
- 大島・浮田・佐々木編著『文化地理学』古今書院 1989年
- 浮田典良編『地域文化を生きる』大明堂 1997年
- クラヴァル『現代地理学の論理』大明堂 1995年
- 坂本・浜谷『最近の地理学』大明堂 1985年
- 高橋伸夫『日本の生活空間』古今書院 1990年
- 荒井・川口・岡本・神谷（編訳）『生活の空間 都市の時間』古今書院 1989年
- 荒井・川口・岡本・神谷（共著）『都市の空間と時間：生活活動の時間地理学』古今書院 1996年
- 寺坂昭信監訳『空間と行動論』地人書房 1986年
- 吉原直樹『都市空間の社会理論』東京大学出版会 1994年
- 竹内啓一『とぼろうぐ』古今書院 1993年
- トゥアン（阿部訳）『トポフィリアー人間と環境―』せりか書房 1992年
- レルフ（高野他訳）『場所の現象学―没場所性を越えて―』筑摩書房 1991年
- ギデンス（友枝・今田・森重訳）『社会理論の最前線』ハーベスト社 1989年
- 『10-1』1997年11月号 特集「新しい地理学」

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 理 思 想 史	たけ うち けい いち 竹 内 啓 一	禅・仏教・国文 英文・歴史・経済 商・短国・短英	4

#### 講義のねらい

地理学史ではなく、地理思想史の講義であり、本年度は、日本人の土地、場所、環境さらに世界・コスモスに関する考え方、そして日本において、自分たちの国土、および外部世界に関する知識がどの様に形成され、発展してきたか検討する。古代、中世、16、17世紀の宣教師との接触、幕府による国際交流の独占（鎖国）時代、漂流者の記録についてもふれるが、講義の大部分は開国後の話になる。

#### 講義の内容・授業スケジュール

今（1995年11月）のところ以下の内容を考えているが、若干の変更があるかもしれない。

- 1 日本伝統的コスモロジー、geomancy
- 2 地理と風土記
- 3 16世紀以降における新しい世界認識
- 4 洋学における地理と地理的知識（地図制作に焦点をあてて）
- 5 幕末・明治初期における外国紹介（いくつかのミッションの記録、とくに福沢諭吉、久米邦武による岩倉使節団の『米欧回覧実記』に焦点をあてて）
- 6 札幌農学校出身者の農学を基礎とした地理思想（新戸部稲造、内村鑑三、志賀重昂に焦点をあてて）
- 7 「皇国地誌」編纂事業挫折の意味（地理的情報の近代化に焦点をあてて）
- 8 公教育における地理学の制度化（文部省中等教員検定試験制度、師範学校、高師、文理大の役割、帝国大学における地理学の制度化まで。牧口常三郎はこのコンテキストのなかで考察される）
- 9 軍隊における地理学の役割、とくに国土図の作製。
- 10 nation building、そのための national identity 形成にとっての地理教育の役割（地理教科書記述の内容およびイデオロギーの変遷）
- 11 南進論、北進論との関連における地理的知識の形成（密偵、商人・芸人・唐ゆきさん、仏僧、冒険家など）
- 12 帝国主義段階における組織的地理的知識の形成（満鉄調査部、東亜同文書院に焦点をあてて）
- 13 アカデミシヤンの貢献と限界（大谷探検隊の事績、鳥居龍蔵の業績そして矢内原忠雄の著作に焦点をあてて）
- 14 アカデミー地理学の成立（山崎直方、小川琢治、小田内通敏など）
- 15 アカデミー地理学の第二次世界大戦までの発展（石橋五郎、辻村太郎、石田龍次郎、飯本信之、佐藤弘、田中啓爾など）
- 16 土着的地理思想と近代科学としての「地理」との接続と断絶（柳田などの日本民俗学派との接触、交流、そして地理学派の限界について）
- 17 日本における政治地理学の展望
- 18 第二次世界大戦後の日本のアカデミー地理学50年史。
- 19 第二次世界大戦後の地理教育と問題点
- 20 地理のプラクショナーの系譜

#### 履修上の留意点

授業は講述の形式をとるが、受講者が、テキストを読み、吟味し、自分なりの理解をすることをめざす。入手しがたい文献についてはコピーして配布するが、文庫本になっているもの（例えば、福沢諭吉『世界国尽』、久米邦武『欧米回覧実記』、志賀重昂『日本風景論』、河口慧海『チベット旅行記』など）は、できるだけ購入するようにしてもらいたい。これらのテキストに関するレポートを何回か提出してもらう。レポートの課題は授業の中で提示する。提出期限に遅れたレポートは一切受理しない。

#### 成績評価の方法

上記のレポートおよび学年末の持ち込み自由の筆記試験による。

#### 教科書

特定の教科書は用いない。

#### 参考書等

文献・参考書等は講義中に提示する。

#### その他

来年度、私がこの講義を担当する場合には、内容をまったく変えて、西洋の地理思想史を取り上げる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日本史特講 VII 〔近代〕	さ とう もと えい 佐 藤 元 英	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

1920年代論を講ずる。一面大陸侵略、一面英米従属という東アジアにおける「二重構造」的な国際関係、さらに中国をとりまく列国間の利権獲得競争という対立関係から発生した、いわゆる一面英米協調、一面英米対立という矛盾した「二面性」の対外志向の中で、昭和初期の日本外交はどのように位置づけられるものかを論ずる。

講義の内容・  
授業スケジュール

中国における在留邦人の保護政策という観点より次の課題を設定する。①第一次山東出兵の決定過程を分析し、「幣原外交」と「田中外交」の比較検討を行う。②東方会議の全貌を明らかにするとともに、従来の研究が伝記・回顧録等の二次的史料に依拠しがちであった点に批評を加え、東方会議を再検討する。③「満州問題」解決の具体的政策決定について検証する。④吉田茂在奉天総領事思想と行動を通して、「二重外交」「四頭政治」の弊害について論ずる。⑤第二次山東出兵と済南事件について論ずる。⑥張作霖爆殺事件に関する政府の対応と軍部の行動について分析する。⑦田中内閣の崩壊と天皇の叱責問題を論ずる。⑧「田中外交」の政策決定の特質、外交チャンネルの混乱、国際協調認識、「満州特殊利益論」と中国ナショナリズムの対立等について論ずる。以上の課題より1920年代後半期における列国の対中国政策と日本の対応、ワシントン体制の崩壊要因について考察し、まとめとする。

## 成績評価の方法

定期試験及び出席状況による。

## 教 科 書

追って指定する。

## 参 考 書 等

細谷千博・斎藤貞編『ワシントン体制下の日米関係』  
入江昭『極東新秩序の模索』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
東洋史特講 X 〔近・現代〕	ちょう 趙 くん 軍	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

太平洋の東に浮かぶ島国日本の経済生活は、他国との貿易に大きく依存している。特に中国を初めとするアジア各国とは、歴史的にも文化的にも極めて深い関係におかれてきた。本講義は外交・貿易・文化往来などの方面を通して、二千年以上にわたる日本と中国の間の友好と不友好の歴史を概要的に解説し、日本とアジア各国との関係を正しく理解できる知識や教養を深める。

講義の内容・  
授業スケジュール

近代以前の日中関係を概要的に紹介し、「西力東漸」以後、とりわけ第1次世界大戦以後の日中関係を具体的に解説する。  
主な項目は次の通りである。

1. 近代以前の日中交通史
2. 「日清提携論」と「征亜論」の創生
3. 「アジア連帯」と国権主義の台頭
4. 宮崎滔天と中国
5. 頭山滿と中国
6. 辛亥革命・孫文と日本
7. 内田良平と中国
8. 中国の国民革命と日本の対応
9. 「満洲事変」から日中戦争へ
10. 日本の敗戦と台湾との「国交」
11. 政経分離と政経不可分
12. 国交正常化と日中平和友好条約
13. フィーバーと摩擦と
14. 「成熟の時代」
15. 改革開放と「新アジア主義」
16. 日本の対中国政策決定―組織と過程―
17. 莫のアジア共生をめざして

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

学期末にレポートの提出やペーパー試験を行う。試験成績と出席率による総合評価を行いたい。

教 科 書

- ①趙軍『大アジア主義と中国』亜紀書房 1996年
- ②田中明彦『日中関係 1945-1990』東京大学出版会 1991年

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 Ⅲ	や の か ず ゆ き 矢 野 和 之	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学、歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
  - ・日本建築史（古代）概要
  - ・遺構とその上部構造体の復元
  - ・保存計画概論
  - ・保存科学、保存工学概論
  - ・まちづくりと文化財
  - ・計画策定の実務
  - ・国内の事例
  - ・海外の事例、文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物

教 科 書

なし

参 考 書 等

適宜指示

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。



科目名	担当者名	配当学科	単 位
歴史哲学	あ 麻 生 けん 建	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

## 講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

## 履修上の留意点

前半は純粋な講義の形をとるので、きちんとノートをとり、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

## 成績評価の方法

学年末の試験による。

## 教科書

麻生建著『解釈学』世界書院 ¥2,500

科目名	担当者名	配当学科	単 位
哲学史	やま 山 くち 口 まさ 祐 ひろ 弘	国文・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一望のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動してものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉えた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

## 参考書等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』『ドイツ観念論における反省理論』勁草書房

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	たに ぐち 谷 口 貢	禅・仏教・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・  
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

## 成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

## 教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

## 参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』 吉川弘文館

科目名	担当者名	配当学科	単位
マス・コミュニケーション論	かわもと まさる 川 本 勝	禪・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

社会的コミュニケーションの特質を整理し、マス・コミュニケーションの社会的機能を考察する。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期は、社会生活とコミュニケーションの関連を考える。私たちの社会生活は、コミュニケーション活動による他者との相互作用によって成り立っている。現代社会におけるメディア状況を整理し、メディア環境の変容とそれらを利用してどのようなコミュニケーション活動が営まれているかを考察する。パーソナル・コミュニケーション、マス・コミュニケーションなど社会的コミュニケーションの特質を講義する。

後期は、マス・コミュニケーション活動が社会や人びとに対してどのようなインパクトや社会的機能を果たしているか、問題点は何かについて論じる。特に、マス・コミュニケーションの受容過程研究を扱いながらその効果、影響について考える。

## 履修上の留意点

他学部・学科履修ができる科目であるが、他学部・学科の学生は、社会学の科目をすでに履修しているなど社会学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。

## 成績評価の方法

講義中に課する小レポート、出席を配慮し、試験によって行う。

## 教科書

用いない。

## 参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
産業・職業社会学	あんとう きくお 安 藤 喜久雄	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

産業・職業社会学の対象の中、本講義では、経営と従業員との関係としての従業員関係を規定している雇用システム、経営と労働組合の関係としての労使関係、産業社会や職業社会の構造などについて概観する。日本社会を中心に考えるが、その特質を明らかにする上からも諸外国との比較を交えて講義を進める予定である。

## 講義の内容・授業スケジュール

最初に、日本的雇用慣行について述べる。終身雇用制や年功制を柱とするいわゆる日本的雇用システムの特徴と動揺について述べる。次いで、日本の労働組合の組織活動や労使関係の特徴とともに課題について述べる。以上のことは産業社会の構造変動によって生じることから、日本の産業社会や職業社会の構造的変化を中心に述べる。すなわち、経済のサービス化、情報化、雇用の流動化、ホワイトカラー化、専門職化、高齢化、女子の職場進出などの進展により、どのような変貌をとげつつあるかを明らかにし、その課題と展望を述べる予定である。

## 成績評価の方法

出席点と試験の両者によって評価する。

## 教科書

安藤喜久雄他『産業社会学』学文社 2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 ちよ 代	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

社会事業は、近代社会がスタートすると同時に生成した。もちろん、それ以前の社会においても人々の生活は不安にさらされていた。

生活の不安は、自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には常に多くの社会問題が生じ、人々は生活困難におちいった。その影響が大きくなるにつれて、慈善（恵）や救済から社会事業としての方向が確立したといえる。そして、社会福祉という方法に到達し福祉国家の実現となった。最近では、福祉社会といわれる考え方に至っている。

この長いプロセスの理解と、社会福祉は一定の歴史的産物であるという認識こそ社会福祉の学習に不可欠である。

対象、問題解決の方法、方法の意図、施策の背景をなす思想を講義する。

授業は講義形式で行なう。しかし常に質問を受け、あるいは話のやりとりをしながら進めたい。社会福祉の理解には、知識の集積や論理の把握にとどまらず身近な生活の中での実感が必要不可欠だからである。講義もどきの時点であれ、現在の問題や具体例と結びつけてすすめていく。

講義の内容・  
授業スケジュール

資本主義の発達と社会福祉の生成は、英国が典型である。日本については当然ではあるが時間のある限り米国や北欧諸国などにもふれたい。

[英 国]

- ① 前史
- ② 中世封建社会と慈善
- ③ 絶対王制下の救貧制度
- ④ 旧救貧法と近代的慈善事業の生成
- ⑤ 産業革命と新救貧法のスタート
- ⑥ 社会事業近代化への動向
- ⑦ 社会保障制度の成立と諸技術の発展
- ⑧ 今日状況と諸問題

[日 本]

- ① 前史
- ② 日本における救貧法の系譜と公的救済
- ③ 封建社会と慈善・慈恵
- ④ 資本主義の生成と救済事業
- ⑤ 社会事業の生成と組織化
- ⑥ 昭和期の社会事業と厚生事業
- ⑦ 戦後の社会福祉（事業）
- ⑧ 現在の状況——福祉社会について

## 成績評価の方法

単位認定は、年一回のリポートによる。

## 教 科 書

教科書は決めないが、参考書は開講初日に提示の予定。

## そ の 他

知識や考察を内在化させ、学生個々の自己認識を深めていくことをめざしたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア・東欧経済論	やま がた ひろ し 山 縣 弘 志	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

#### 講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることができないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

#### 講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
  - (1) 社会主義論とマルクス
  - (2) ロシア革命のめざしたもの —— レーニン時代 ——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
  - (1) 1920年代から30年代への転換
  - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と経済管理システム
  - (1) 「計画経済」の成立と実態
  - (2) ソ連型経済管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
  - (1) 経済構造の特質と軍事生産
  - (2) 工業生産力と工業技術
  - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
  - (1) 経済改革の時代
  - (2) プレジネフと停滞の時代
  - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
  - (1) ロシア・東欧の文化と社会
  - (2) 資本主義化の諸問題
  - (3) ロシアと日本 —— 比較経済史 ——

#### 履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

#### 成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

#### 教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

#### その他

教科書はないので、授業中にノートを取るの当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 政 策	みつ おか はく み 光 岡 博 美	禅・仏教・国文 英文・地理・歴史 経営・短国・短放	4

## 講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけでなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対峙していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・  
授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととしたい。

- (1) 社会政策の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代福祉国家の生成と展開
- (7) 日本の労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

## 履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

## 成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

## 教 科 書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国民所得論	よしの吉野 おさむ紀	簿・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,070万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成5暦年のGDPによって466兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言える。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」…………… 5回

GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。

《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)

2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」…………… 4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。

《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章

3. 「貨幣・利子および同時均衡」…………… 8回

この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。

《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章

4. 「金融政策、財政政策」…………… 4回

前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内および国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。

《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章

5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 5回

ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』(第6版) 多賀出版

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	小杉修二	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

## 講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。  
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気が増えるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。  
本講義ではこのような日前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

## 講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。  
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

これにつづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないうであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

## 履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。  
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

## 成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正解な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

## 教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,000

## その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アジア経済論	かく 郭 やん 洋 ちゅん 春	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

「世界経済の成長のセンター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、負の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

I アジアの台頭

①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN

II ダイナミック・アジア

①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化、④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

III 迷走するアジア

①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁

IV 21世紀のアジア

①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと学年末試験を合わせた総合評価（場合によっては長期休暇中にレポートを課すこともある）

教科書

特になし。

参考書等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』中央経済社  
他は授業中に随時紹介する。

その他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 史	こ しょう せい 古 庄 正	祥・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

日本経済史の対象は原始古代以来の経済発展の全過程であるが、今年度は明治の産業革命期に焦点を絞り、資本主義経済システムが日本ではどのように定着し、発展したかを概観したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 序. 経済史とはどういう学問か。(1回)
- 1. 江戸時代の経済発展 (2回)
- 2. 開港とその影響 (1回)
- 3. 明治維新の諸変革 (1回)
- 4. 明治政府の工業化政策 (1回)
- 5. 政商・天皇家・華族の資本蓄積 (1回)
- 6. 松方財政と企業勃興 (1回)
- 7. 軽工業の発展 (1回)
- 8. 重工業の発展 (1回)
- 9. 炭鉱と鉱山 (1回)
- 10. 在来産業の近代化 (1回)
- 11. 産業革命と公害 (1回)
- 12. 鉄道と海運 (1回)
- 13. 産業革命と農業・農村 (1回)
- 14. 外国貿易の発展と商社 (1回)
- 15. 財政と金融 (1回)
- 16. 資本家と労働者 (1回)
- 17. 財閥の多角化 (1回)
- 18. 産業革命と教育 (1回)
- 19. 産業革命と植民地 (2回)
- 20. 大正期の日本経済 (2回)

履修上の留意点

日本経済論の履修を薦める。

成績評価の方法

期末テストの成績とレポートによる。配点は前者70点、後者30点。

教 科 書

プリントを毎時間配付し、それにもとづいて講義する。教科書は使わない。

参 考 書 等

参考文献は必要に応じて授業時間中に指示する。

そ の 他

授業の方法は講義形式。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	神・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

中小企業は異質多元の存在であるといわれている。それら特質は、大企業でないということを除けば、千差万別である。とはいえ、わが国においては、中小企業研究の歴史は、古く、その蓄積には、膨大なものがある。本講義では、今までの中小企業研究の蓄積を踏まえつつ、今日における中小企業の現状とその課題を考察する。

講義の内容・  
授業スケジュール

年間二十数回程度の講義のなかで以下の点に触れながら授業を進める。

- ① 中小企業とは
- ② わが国における中小企業研究
- ③ 中小企業問題と中小企業政策
- ④ 下請分業構造の変化と中小製造業
- ⑤ 大規模小売店舗法の規制緩和と中小商業
- ⑥ 創業支援とベンチャービジネス
- ⑦ 中小企業従業者の労働と福祉
- ⑧ 地域経済と中小企業

成績評価の方法

夏休みのレポートと学年末試験で成績の評価を行なう。

そ の 他

授業では、必要に応じて、OHPやビデオを使用する。  
教科書は、とくに使用しないが、5～6月に発行される中小企業庁『中小企業白書』は各自で購入すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 経 済 論	や 谷 しき 敷 ただ みつ 正 光	輝・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短教	4

## 講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心それぞれに経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 先進国の経済発展と教育
  - 日本の産業化と教育
  - 日本の経済成長と教育
  - 日本の産業高度化と教育
  - 日本の「新高度成長」と教育
  - 日本の人的開発政策
  - レーガン大統領の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - ブッシュ大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
  - ブッシュ大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
  - クリントン大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
  - クリントン大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
  - サッチャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - メジャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - ブレア首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
- 戦前日本の経済発展と実業教育政策
  - 学制時代における実業教育政策1 富国強兵・殖産興業（映画）
  - 学制時代における実業教育政策2 学制公布と実業教育
  - 教育令時代における実業教育政策1 工場払下
  - 教育令時代における実業教育政策2 教育令公布と実業教育
  - 学校令時代における実業教育政策1 産業革命
  - 学校令時代における実業教育政策2 学校令公布と実業教育
  - 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
- 戦後日本の経済発展と産業教育政策
  - 復興期の経済発展と教育1（一部ビデオ）
  - 復興期の経済発展と教育2 産業教育振興法公布（一部ビデオ）
  - 高度成長第1期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - 高度成長第2期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - 高度成長第3期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - 高度成長終焉後の産業教育

## 履修上の留意点

- 年間5回小テストを実施し、平常点とする。
- 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用するので指定された教室が視聴覚教室かに注意すること。
- 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその授業中に受け取ること。
- 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

## 成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

## 教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

## 参考書等

豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』（東大出版）  
 ギ・ソルマン（秋山康男訳）『レーガンのアメリカ』（新潮社）  
 原田和男『ブッシュの米国経済』（日本経済新聞社）  
 宮崎正弘『クリントンの日米経済』（銀河出版）  
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』（岩波新書）  
 文部省『産業教育百年史』（ぎょうせい）  
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アメリカ経済論	瀬戸 岡 せ と お か ひろし 紘	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

### 講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅広くわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅広く、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

### 講義の内容・授業スケジュール

年間をとおして聴くと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

#### 《導入の話題》

- ◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

#### 《総論》

- ◇アメリカの建国の理念と現代の経済
- ◇アメリカ経済の歴史的過程

#### 《アメリカ経済各論》

- ◇アメリカの農業
- ◇アメリカの工業
- ◇アメリカの企業家とベンチャービジネス
- ◇アメリカの雇用と労働者
- ◇アメリカの商業とサービス
- ◇アメリカの交通・通信・情報
- ◇アメリカの金融
- ◇アメリカの教育と経済
- ◇アメリカの科学技術
- ◇アメリカの先端産業
- ◇アメリカ経済と環境問題
- ◇アメリカ社会とヴォランティア
- ◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

#### 《世界とアメリカ》

- ◇国際通貨ドルの地位とIMF
- ◇アメリカと貿易（GATTとWTO）
- ◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義
- ◇アメリカの海外援助
- ◇アメリカの多国籍企業
- ◇多国籍企業とアメリカ経済

## 《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとEC
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

## 《むすびの話題》

- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらしないで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

## 成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

## 教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳、青木書店、1994年）をおすすめします。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済論	もり 森      たけ 武      まる 磨	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・法律 政治・短国・短英	4

講義のねらい

1980年代の後半には、日本のG N Pは世界の14%を占めるまでになった。1950年が1%であることと比べるとこの間いかにすさまじい経済成長であったかがわかる。また、1950年代には世界のG N Pの40%を占めていたアメリカはこの間に25%までに低下し、貿易赤字と財政赤字に苦しみ1985年には初めて債務国に転落した。しかし、日本経済も1980年代の好景気、バブル経済を謳歌したが、1990年代には一転して本格的な不況局面に突入し、出口はまだまだ見えない状態である。驚くべき経済成長とゆたかさの背景に、日本社会は公害・環境破壊、企業内の長時間労働、高地価による貧困な住宅条件、少ない休暇など社会的な矛盾もまた累積していった。

このような社会変動をもたらした日本経済の成長はどのようにして生まれたのであろうか。その成長の軌跡と矛盾を、日本株式会社論や1940年体制論などの現代経済システムの源流論や、企業主義・会社主義、日本型企業社会など最近の日本的経営論や日本の労使関係論を視野に入れながら論じてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1930年代の世界大恐慌から第2次世界大戦をへて1945年の敗戦による日本経済の崩壊から、戦後改革と高度経済成長をへて「経済大国」化した1980年代までの日本経済の段階的変化と構造的特質を把握することをねらいとする。

講義の進め方は、1930年代から1990年代にいたる日本経済の軌跡を5期に区分してそれぞれの時期を資本構造、労使関係、農業問題、対外関係の4つの視点から明らかにしていく。

年間の講義スケジュールは以下の通りである。

- 1 財閥資本と金融資本
- 2 昭和恐慌と高橋財政
- 3 恐慌下の労資関係
- 4 戦時統制経済
- 5 戦時下の農業問題
- 6 大東亜共栄圏
- 7 財閥解体と再編成
- 8 戦後資本主義の再建
- 9 労働改革
- 10 農地改革
- 11 高度経済成長とは何か
- 12 企業集団と法人資本主義
- 13 日本の労使関係
- 14 高度成長下の農業問題
- 15 石油危機と高度成長の終焉
- 16 経済大国化への道
- 17 日本型企業社会の確立
- 18 現代経済と労使関係
- 19 現代の農業問題
- 20 世界の中の日本

履修上の留意点

履修に関していえば、日本経済に関する最新の新聞情報を毎回トピックとして解説し、講義内容もだれでも理解できるように説明する。そのつどプリント（図表）を配布し、また補助教材としてビデオを多く利用するので低学年にも十分理解しうる。ただし出席、授業内小テストなど採点は厳しいのでとくに4年生は心して履修されたい。

成績評価の方法

成績評価は期末試験（論述式）を中心に採点する。中間テストとして夏休みにレポートを課す。出席状況も評価に加える。期末テスト、夏休みレポート、出席状況の三者は、60点、20点、20点の割合で評価する。

参考書等

森武磨ほか『現代日本経済史』 有斐閣 ￥1,700

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 務 会 計 論	えん どう たかし 遠 藤 孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短大	4

## 講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性格、内容、役割について講義する。

## 講義の内容・授業スケジュール

## 前 期

- (1) 4月第1週  
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週  
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週  
財務会計の制度性について。  
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週  
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週  
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週  
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週  
繰越資産について。繰越資産の特殊性、繰越資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週  
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週  
同上。
- (10) 7月第1週  
資本会計について。

## 後 期

- (11) 9月第1週  
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週  
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週  
同上。
- (14) 10月第1週  
セグメント会計について。  
リース会計について。  
年金会計、退職給付引当金と年金会計
- (15) 10月第2週  
企業内容、会計内容の開示について。  
注記 財務諸表附属明細表（書）。
- (16) 10月第3週  
同上。
- (17) 10月第4週  
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (18) 11月第1週  
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。  
「企業会計原則」について。
- (19) 11月第2週  
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (20) 11月第3週  
同上。
- (21) 11月第4週  
日本、世界企業会計の最新動向。
- (22) 12月第1週  
同上。
- (23) 12月第2週  
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
- (24) 最終週  
予備。

以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

## 履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

## 成績評価の方法

試験による。（前期、後期2回実施の予定）

## 教 科 書

遠藤孝他著『会計学』森山書店 1998年



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
管 理 会 計 論	なか はら しょう きち 中 原 章 吉	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

教 科 書

講義の際、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正 齋 藤 正	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短英	4

## 講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
  - ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
  - 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
  - まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
  - 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
  - とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視点からこの時期の諸問題を検証する。
  - 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

## 成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

## 教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

## 参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 監 査 論	い飯 におか 透とある	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短教	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・  
授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

[前 期]

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性和その構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

[後 期]

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
- (2) 監査調書の種類と保存

経営者確認書の意義と記載内容

- (1) 経営者確認書の意義と目的
- (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短形式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教 科 書

飯岡・市村・鳥崎共著『会計監査概論』中央経済社 ￥3,500

参 考 書 等

飯岡透著『中間財務情報制度論』中央経済社 ￥3,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 政 策	いわしたひろし 岩 下 弘	祥・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義の内容・  
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
  - 1 80年代の小売商業構造
  - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
  - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
  - 1 中小小売商保護政策論
  - 2 流通近代化政策論
  - 3 流通システム化計画論
  - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
  - 1 70年代の流通
  - 2 80年代流通産業ビジョン
  - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
  - 1 百貨店法
    - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
  - 2 中小小売商業振興法
  - 3 小売商業調整特別措置法
  - 4 大店法
    - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
    - 3) 1991年改正法
  - 5 凍結宣言、要綱及び条例
  - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
  - 7 規制緩和
    - 1) 規制緩和の流れ―前川レポート、行革審報告
    - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
  - 8 特定商業集積法
  - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
  - 1 イギリス
    - 1) 出店調整政策―都市・農村計画法
    - 2) 日曜営業問題―商店法
  - 2 フランス―ロワイエ法
  - 3 ドイツ―土地利用計画
  - 4 アメリカ―ゾーニング規制
- 六 流通問題と消費者保護政策
  - 1 消費者問題論
  - 2 消費者保護基本法
  - 3 消費者行政
  - 4 生協
- 七 流通問題と独禁政策
  - 1 独占禁止法
  - 2 不公正取引
  - 3 取引慣行

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教 科 書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』白桃書房 ￥2,800

参 考 書 等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』大月書店 ￥2,600

科目名	担当者名	配当学科	単 位
貿易論	ふる さわ こう そう 古 沢 紘 造	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

## 講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

## 講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
  1. 農産物と貿易
  2. 水産物と貿易
  3. 林産物と貿易
  4. 鉱物資源と貿易
  5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
  1. 開発援助と貿易
  2. 環境と貿易
  3. 公正と貿易
  4. 地域統合と貿易
  5. 総括：貿易と暮らしを問う

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

## 成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

## 教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

## 参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科目名	担当者名	配当学科	単位
マーケティング	曾我信孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短教	4

講義の内容・  
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
  - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
  - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
  - チャネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
  - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
  - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
  - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合会社との関係などである。
  - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
  - 総合会社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合会社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合会社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合会社の子会社戦略、②総合会社のマーケティングの特性などについて説明する。

## 成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウェイトをおいていることはいままでもないが、ここでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

## 教科書

曾我信孝『総合会社とマーケティング』白桃書房 ¥4,000

## 参考書等

必要に応じて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 価 計 算 論	かとうとし やす 加藤利安	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

## 講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状况の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとすれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することをこころがける。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

## 成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

## 教 科 書

最初の授業時に指示する。

## 参 考 書 等

授業時に適宜挙げる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
労務管理論	いし 井 しゅう じ 石 井 脩 二	権・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短教	4

## 講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実を生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

## 講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせて利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本的経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかげりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本的経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたとときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるというところにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

序 章 人事労務管理から人材資源管理へ	第5章 報酬管理
第1章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化	第6章 労働時間管理
第2章 採用管理	第7章 福利厚生管理
第3章 教育訓練と能力開発	第8章 女性労働の管理
第4章 昇進管理	第9章 国際人事

## 成績評価の方法

定期試験のみにて評価。評価の基準は解答内容の論理性と説得性。

## 教科書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

## 参考書等

津田真澄編著『人事労務管理論』ミネルヴァ書房



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 管 理 論	ひが た よし はる 百 田 義 治	禅・仏教・国文・英米文 地 理 ・ 社 会 福 祉 ・ 心 理 ・ 短 国	4

## 講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

## 講義の内容・授業スケジュール

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPOやNGOの組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月～7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ①経営管理論（授業）ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
- ②現代の組織と経営管理（企業の経営管理とNPO・NGOの経営管理は異なるか？）
- ③経営管理論の源流1：科学的管理法（唯一最善的管理法は存在するか？）
- ④経営管理論の源流2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
- ⑤組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
- ⑥現代組織論1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
- ⑦現代組織論2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
- ⑧モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
- ⑨人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）  
（夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月～1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
- ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
- ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本の経営は国際的に通用するか？）
- ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
- ⑭ 経営管理と情報化1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
- ⑮ 経営管理と情報化2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
- ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
- ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（企業の統治者の社会的責任とは何か？）
- ⑱ 人間の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）  
（学年末試験）

## 履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉学意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90％は経験と学習です。

## 成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

## 教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』ミネルヴァ書房 1996年

## 参考書等

片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』ミネルヴァ書房 1998年  
その他、授業や夏季レポートに関連して随時紹介する。

## その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436；電話03-3418-9345）を気楽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせ下さい。また、授業（予習・復習、参考書など）に関する情報はホームページ（授業で説明）でも獲得することができますのでアクセスして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	さいとう ひさし 齊 藤 寿	神・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営・短放	4

## 講義のねらい

「各種行政法原理の究明」  
1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用収用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

## 履修上の留意点

※学生への要望  
この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してませんか。  
——私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。  
目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。  
Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) ——  
との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

## 成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

## 教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
親族法	たけなかちか 竹中智香	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

## 講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

## 履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

## 成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

## 教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』 有斐閣双書 ¥1,648

## 参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』 有斐閣 ¥2,200

科目名	担当者名	配当学科	単位
相続法	たけなかちか 竹中智香	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

## 履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

## 成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

## 教科書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』 有斐閣双書 ¥1,648

## 参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』 有斐閣 ¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おかだとしひろ 岡田外司博	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・経営・短放	4

## 講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法的全領域をカバーするものとなっている。

## 履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば、4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

## 成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

## 教 科 書

厚谷褒児『独占禁止法入門』 日本経済新聞社

## 参 考 書 等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、「独禁法審決・判例百選（第五版）」（有斐閣）の購入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	いし い みつ き 石 井 三 記	神・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

近年のヨーロッパの変動には目を見はるべきものがある。この大きな変化の底流には「近代的なるもの」がさまざまな領域で再検討されだしたということがあるだろう。たとえば、絶対的な主権の概念も今日のヨーロッパ統合の流れのなかで揺れているが、この問題も主権観念の成立する近世ヨーロッパの時代状況にまでさかのぼって考えてみる必要がある。西洋法制史は、一見、現代的な問題とまったくかけ離れているかのように思われるかもしれないが、究極のところでは今日の問題関心をもってのぞむことが重要だし、逆に今度は近代法制度によって立つところを知ることによって奥行きのある理解が可能となり、国際社会に通用する知的視野の広がりを獲得することができるだろう。

授業では、序論として歴史学の有力な潮流となったアナル学派の社会史の方法と有効性について概説したあと、魔女裁判と近代主権国家の誕生という従来とは違った視点からの魔女裁判の問題を考察し、つぎに啓蒙期と呼ばれる18世紀ヨーロッパの刑法改革運動について思想家たちだけでなく当時の具体的な事件や刑法学者の見解などもまじえて検討し、さらにフランス革命期の法と社会と題して法学教育や法曹や法文化の問題を講義する予定である。

講義の内容・  
授業スケジュール

第1章 歴史学のパラダイム転換

フランスの歴史研究の新しい境地を切り開いたアナル学派を、その学問的・思想的インパクトまで含めて考えてみる。

第2章 魔女裁判の問題

魔女裁判という従来はヨーロッパ中世暗黒時代の産物ととらえられていたかもしれないが、しかしそのピークは近代のあけぼのであるルネッサンスの時期にあっている。そのことの意味を社会史的な文脈やデモノロジー等の観点から論じることにする。

第3章 啓蒙期の刑法改革の思想と運動

18世紀のヨーロッパは啓蒙の世紀ともいわれ、少なからぬ思想家たちが理性を武器にして既存の制度や社会と闘った。刑法改革はその具体例の一つである。ここではヴォルテールが尽力したこと有名な冤罪事件や彼の刑法改革思想を中心にして講義する。

第4章 18世紀フランスの国制

革命以前のフランス社会はアンシャン・レージュム（旧制度）とよばれ、絶対王政の時代とされている。その内実を国王儀礼などの側面から検証する。

第5章 フランス革命期の法と社会

フランス革命は近代の法制度の礎を築き上げた。ここでは革命前後の刑事法制の変化や法学教育制度、司法制度、法律家たちの変遷について講義する。

履修上の留意点

講義中に重要とされた論点やすこしでも興味をもった問題を図書館その他を利用して自分なりに深めることを期待している。

成績評価の方法

原則として、定期試験で行なう。

参 考 書 等

上山安敏・牟田和男編『魔女狩りと悪魔学』人文書院（指定図書）  
阪上孝編『統治技法の近代』同文館（指定図書）  
河野健二編『資料フランス革命』岩波書店、樋口謹一編『空間の世紀』筑摩書房  
上山安敏編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房

そ の 他

この授業では、文字史料だけでなく絵画や図表などのプリントその他を用いて、なるべく生き生きとした過去のイメージをとらえてもらいたいと考えている。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英米法	金原 恭子 きんばら きょうこ	権・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

大陸法とは異なる英米法という法伝統が、どのような歴史と内容をもつものなのかを概観する。

講義の内容・  
授業スケジュール

英米法の中でも特にアメリカ法に重点を置きつつ、①英米法の歴史、②アメリカ法の多元性、③法の支配とアメリカの違憲立法審査制、④英米両国の司法制度、⑤判例法主義、の各テーマを取り上げて論ずる。

## 成績評価の方法

学年末の筆記試験で成績評価を行う。

## 教科書

田中英夫著『英米法総論上・下』東京大学出版会 各¥3,200くらい。

## 参考書等

田中英夫編集代表『BASIC 英米法辞典』東京大学出版会 約¥2,900。

## その他

授業は基本的には講義形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地方自治法	梅本 崇 うめ き たかし	権・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

地方自治法は、相当におおきな法律であり、その内容も多岐にわたっている。そして行政法を解説する具体例を豊富に提供している。また、われわれの日常生活に関係する部分がおおい。その意味で親しみやすい法律であるということができる。

講義では、行政法の具体的説明というかたちをとる。行政法総論では必ずしも理解がいきどいたとはいえない点について、地方自治法を素材としながら解説するということである。同時に、法律の性格上、改正がきわめて多い点を考慮し、その沿革的な側面、地方行政そのものの内容についても言及しなければならないと思う。

地方自治法の内容が、とくに地方公務員試験で問われることが多い。とくに択一式の問題で、相当に細かい点まで素材にしている。この点を考慮して、これまで出題された問題や講義者の作成した問題を検討したいと思っている。

## 教科書

南博方・原田尚彦・田村悦一編『行政法(3)〔第3版〕地方自治法』(有斐閣双書)を用いる。教科書の内容をまとめる意味でレジメを用意することも予定している。いわば講義を能率的に行なうためである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ヨーロッパ政治史	うら た き なえ 浦 田 卓 苗	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・経営・短放	4

## 講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかには時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

## 講義の内容・授業スケジュール

- ・近代の始点ルネサンス期と18世紀　・英国革命とIRA　・ジャコバイトと英国王室
- ・議院内閣制の成立変遷過程　・英国における政治腐敗防止過程　・フランス革命と国家の概念
- ・フランス政治におけるジャコバン主義　・「後発国型近代化」の問題点——ドイツの場合——
- ・統合ヨーロッパの源流

## 成績評価の方法

前期レポート — 7～8×400字 — は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

## 教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国際政治学	こ ぼり のり お 小 堀 訓 男	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

## 履修上の留意点

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

## 成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

## 教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
議 会 関 係 法	まえ だ ひて あき 前 田 英 昭	権・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

今年度は選挙法を中心に取り上げる。

選挙は、民主政治の基盤をなすものであり、民主政治の健全な発達を期するためには選挙が公明かつ適正に行われなければならない。選挙を公明かつ適正に行うためには、その根幹をなす公職選挙法や政治資金規正法や政党助成法などの規定を国民すべてが十分理解することが最も重要なことである。

衆議院選挙制度に関しては、賛否の議論の末、小選挙区比例代表並立制が導入され、一昨年秋、改正法に基づく初めての総選挙が実施されたところである。このような情勢を踏まえて、制度改正に民間政治臨調の委員として参画した経験をまじえながら、全学開講科目として、多くの学生にわかりやすく選挙法の趣旨を講義することとし、今年度から新たに「議会関係法」をスタートさせる。

講義の内容・  
授業スケジュール

1 選挙制度改正の理由、2 選挙権と被選挙権、3 小選挙区比例代表並立制の内容、4 政党・政策本位の選挙、5 供託金、6 当選人の決定、7 選挙運動期間、8 戸別訪問、9 連呼行為などの選挙運動、10新聞・放送による選挙運動、11選挙運動費用、12選挙運動・政治活動・選挙広告、13選挙違反と連座制、14選挙犯罪、15公務員の地位利用、16政治資金、17団体・個人の寄付制限、18政党交付金とその用途など。

## 履修上の留意点

できるだけ出席受講すること。

## 成績評価の方法

期末テスト、レポート、平常点の総合評価。

## 参 考 書 等

前田英昭監修『明解選挙法・政治資金法の手引』新日本法規出版  
前田英昭『政治腐敗防止法を考える』信山社  
その他各種の選挙法に関する解説書。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 政 治 学	み たけ なお や 三 竹 直 哉	神・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

#### 講義のねらい

比較政治学という科目で扱い得る事柄は、多岐にわたります。それらを網羅的に全て扱うのもひとつの方法ですが、みなさんは別に専門家になるわけではありませんので、学生の方でも関心を持ってそうなテーマを集中的に扱う形をとっています。今年度は昨年度に引き続き、国民国家の変容に関わる諸問題、世界各地の民族紛争などを扱います。

#### 講義の内容・授業スケジュール

授業内容は毎年変わりますし、現在進行形の問題を扱いますので、この原稿執筆時点では確定的なことは言えません。4月までには詳しい授業案内(シラバス)を用意しますので、オフィスアワー時に研究室に見に来て下さい。現在のところ、旧ユーゴスラビア、ウクライナ、ドイツ、北アイルランド、クルディスタン、カナダ・ケベックを扱った、ジャーナリスト、イグナチエフのドキュメンタリー番組と邦訳著書を使うことを予定しています。また、他にも、ルワンダ、ベルギー、時間があれば南アフリカの事例なども扱いたいと考えています。授業内容についての最新情報は、<http://www.komazawa.com/~mitake>でも御覧頂けます。

#### 履修上の留意点

政治学、世界史、地理などの基本的知識は前提とせざるを得ません。そうした知識に欠けると思う人は、自ら勉強していただくほかありません。適当な参考書等の相談にはのります。また、新聞にある程度目を通すことも前提とします。なお、年表や地図を参照することを習慣づけて下さい。

#### 成績評価の方法

得点の方法には以下の5つがあります。5つのうちのひとつのみによってでも、またこれら5つのうちのいくつかを組み合わせても、とにかく獲得した得点の合計が評点となります(以下については、98年度は変更の可能性もあるので、必ず開講時に確認して下さい。また詳細を開講時に説明します。)

ー参加点：授業中の発言(特に自発的発言)によって、1～3点を獲得できます。いわゆる「出席点」ではありません。

ー小テスト：小テストを行うことがあります。小テストは5～10点満点です。事前に予告する場合も、しない場合もありますが、いずれにしても受けることは義務ではありません。

ーグループ作業：共同で調べものをして発表をしたり、あるテーマについて討論をしたりする、グループごとの作業には、原則として、グループの構成員に同じ得点が与えられます。獲得可能点は、その都度お知らせします。

ー任意課題：やりたい人だけがとりくめばよい任意課題を用意します。任意課題には、与えられたテーマや自分で設定したテーマに応じたレポートの提出、授業内容に関連した本や論文、ドキュメンタリーや映画を見てその評価を書いたものの提出などがあります。任意課題の得点は、10点から60点です。

ーテスト(中間テストは行いません)：いわゆる期末試験は、大学の試験期間中に行うものに加えて、12月の授業中に行うものもあります。12月のテストは、受験は任意で、例年12月最後から2回目の授業で行い、12月最後の授業で講評をし答案を返却しています。このテストについては、講評時のみ質問・反論を受け付けます。詳細は開講時に説明します。

・なお、過去のテスト問題、および昨年度の成績分布は研究室で公開しています。

#### 教 科 書

マイケル・イグナチエフ著 幸田敦子訳『民族はなぜ殺し合うのか』1996年 河出書房新社  
この他にも授業で適宜指示します。

#### 参 考 書 等

授業で適宜指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 営 論	も 茂 かき 垣 ひろ 広 し 志	権・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短教	4

#### 講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業（MNC）特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを採用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

#### 講義の内容・授業スケジュール

周知のように1985年のプラザ合意以降と急速な円高の進行と貿易摩擦による相手先国からの政治的プレッシャーにより、それまでの輸出中心の国際競争戦略から現地生産、第3国生産を加味した戦略へと移行し、さらに近年では東南アジアへの部品メーカー、組立てメーカーの進出が加速化し、日・米・欧・亜の4極の体制が構築されはじめている。これらのことは企業の戦略と分散化した諸活動の調整をますます複雑なものとしており、そのマネジメントのあり方が、国際経営上の大きな課題となっている。

海外に拠点を高度に分散化しているMNCにとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系MNCと異なる様相を示している。授業では、その日系MNCの戦略及びマネジメント上の特徴を理論、欧米系MNCとの比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点を理解することに主眼を置くことにする。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説等）
- III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、ルートの海外市場参入段階モデル、EPRG モデル等）
- IV. 国際競争戦略（国際戦略の基本パターンないしタイプ）
  1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性）
  2. 国際競争戦略の類型（ホーター・モデル、ドズ＝プラハラード・モデル、バートレット＝ゴジャール・モデル等）
  3. 国際マーケティング戦略（マルチナショナル・パラダイムとグローバル・パラダイム、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略）
- V. 国際戦略と組織構造
  1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）
  2. ミクロ構造及び内部ネットワーク（トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル）
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
  1. 欧州系MNCとアメリカ系MNCの戦略及びマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
  2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その必要性和問題点、進出地域別特徴）
  3. 海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
  4. 異文化マネジメント
- VII. 在日外資系企業の経営上及び人事管理上の特徴

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。なお、毎時間レジュメおよび資料を配布し、それに基づいて授業を進めていく。

#### 履修上の留意点

経営学、経営戦略論の知識があった方が理解しやすいので、そのような関連科目を既に履修しているか、現在している方が望ましい。ただ、授業中にも簡単には説明します。

#### 成績評価の方法

成績は、出席状況および期末試験の結果により判断します。

#### 教科書

未定（授業開始時に指定）  
参考書：根本孝・諸上茂登『国際経営の進化』学文社 ¥2,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 統 計	ちよう 張 こつ 国 きよう 強	理・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短教	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2回
前期復習と中間試験：	(七月中旬)	2回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4回
経営指数：	物価指数、数量指数	2回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2回
後期復習と定期試験：	(翌年一月中旬)	2回

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独力かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により統合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』 培風館 1992  
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』 日本理工出版社 1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 險 経 営 論	いし な さ か くに あき 石名坂 邦 昭	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

## 講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」（リスク・マネジメント）研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

## 履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

## 成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

## 教 科 書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』白桃書房 3,500円

## 参 考 書 等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメント』白桃書房  
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』白桃書房

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 務 会 計 論	わた なべ え いちろう 渡 邊 恵 一 郎	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を負う経営者が、投資者、債権者、その他企業に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が、損益計算書、貸借対照表などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規も取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義の内容は、おおむね下記の教科書により、この授業スケジュールは次のとおりである。

- ① 4～5月 財務会計の概念（財務会計の定義、課題、制度など）、財務会計の計算構造（損益計算書と貸借対照表との関係）及び会計公準と会計原則（財務会計の前提、債的特徴及び一般原則など）。
- ② 6～7月、9～10月 財務会計の測定論（収益、費用、資産、負債及び資本の各構成要素に関する会計処理の具体的展開）。
- ③ 11～1月 財務会計の伝達論（個別・中間・連結の各財務諸表の作成と開示、外貨換算、財務分析、財務諸表の国際比較など）。

履修上の留意点

毎時間の出席率と宿題提出（年2回）を重視する。

成績評価の方法

成績評価は、出席率、宿題提出及び期末試験点数の総合による。

教 科 書

染谷恭次郎著『現代財務会計（改訂増補4版）』中央経済社

参 考 書 等

嵩井剛雄編『体系会計諸則集（最新版）』白桃書房  
日本公認会計士協会編『監査小六法』中央経済社

そ の 他

授業の方法は、講義による。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
税 務 会 計 論	たか ぎ かつ み 高 木 克 己	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

## 講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税改革が議論されており、大幅な改正が予想されている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。ここでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
  - (1) 企業利益と課税所得の関係
  - (2) 益金の額及び損金の額
  - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
  - (1) 引渡基準
  - (2) 特殊販売収益の計上基準
  - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
  - (1) 移転価格税制
  - (2) タックス・ヘイブン対策税制
  - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

## 履修上の留意点

「簿記学」「会计学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

## 成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

## 教 科 書

講義で使用する教科書、参考書等については開講時に指示する。

## そ の 他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	やま だ まさる 山 田 勝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点      | (6) 継 続 性     |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流 通 量     |
| (3) 利 潤         | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品         | (9) 価 格 革 命   |
| (5) 市 場         | (10) 情報社会と商業  |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。  
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業史』 創成社 ￥2,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 情 報 論	たか 高 井 徹 雄	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

## 講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・  
授業スケジュール

## I. 経営情報とシステムの観点（前期）

## (1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステムのもの見方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

## (2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

## (3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

## II. 情報の利用技術（後期）

## (1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化I、III、II類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

## (2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

## (3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータルームを利用して実習形式で授業を行う。

## 成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。  
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

## 教 科 書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』 日刊工業新聞社 ￥3,200  
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

## そ の 他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 理 論	にしむらかずお 西村和夫	神・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C.E.Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報をつロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説、情報とは、情報量への要求
5	3	対数の原理と性質、計算練習
6	4	情報量の定義、練習、情報量の利用
7	3	暗号系と用語、古典的な暗号
9	2	現代的な暗号、暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JISコード、万国共通文字符号）、対数・情報量の中間試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度、言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ

履修上の留意点

1年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30%）と定期試験（70%）との合計点によります。

教科書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。各種の参考書をそのつど紹介します。

そ の 他

〔関連科目〕 → 経営情報論

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 分 析 論	かたきりのぶお 片桐伸夫	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

#### 講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、

といった内容です。

#### 講義の内容・授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析をとりあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

#### 履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

#### 成績評価の方法

そのため、成績評価はレポートと授業時間中のテストなどの平常点と学年末試験で行います。

\* レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」  
後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

\* テ ス ト 範 囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいで下さい。

#### 教 科 書

開講のとき、指示します。

#### 参 考 書 等

開講のとき、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
上代文学講読	さ ばら さく み 佐 原 作 美	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝(629-641)の頃から奈良朝の天平宝字3年(759)までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人で個性豊かな、山上憶良の和歌を中心に講読していきたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

## 成績評価の方法

成績評価は、レポートや出席状況をもって判断する。

## 教 科 書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう(桜楓社) ¥1,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中古文学講読	すず き ひろ こ 鈴 木 裕 子	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者一人一人に答を見付けてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

## 講義の内容・授業スケジュール

今年は、朝顔の巻から読みます。いよいよ栄華の階を上って行く光源氏ですが、一方では人知れず憂愁の影を抱いていきます。単純な古代の英雄ではない光源氏像をとらえつつ、物語の構造や方法についても理解を深めていきましょう。

## 履修上の留意点

授業は、テキストを用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

## 成績評価の方法

期末に試験を行ないます。(前期一回、後期一回) その他、授業中に適宜小テストを実施し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

## 教 科 書

『源氏物語 三』新潮日本古典集成 新潮社を基本テキストとするが、既に角川文庫『源氏物語 四』など持っている人はそれでも構わない。

## 参 考 書 等

参考書などは、授業で指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中世文学講読	その へ みき お 園 部 幹 生	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

住吉物語は、はやく平安時代に成立して落窪物語や源氏物語にも影響を与えたが、改作が重ねられた。現存するもの鎌倉時代に擬古物語として作られた作品である。異本を含めた諸本もたいへんに多く、中には御伽草子の域にまで達した本もある。何度も改変が繰り返された作品だけに、住吉物語はたいへんにおもしろい。そのおもしろさを味わうことも講座のねらいではあるが、加えて、流動し変質する作品を講読することを通して、中世文学のあり方や享受の問題について考えてみたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

前後期を通して、住吉物語全編を通読する。その過程で、可能な限り、古本系や異本系の住吉物語にも触れながら、文学史的な展開の問題や、作品の質的变化の問題についても触れる予定でいる。

## 履修上の留意点

本文の内容を理解するだけでなく、作品の変質の意味や文学のあり方のなどについて、問題意識を持って授業に取り組むことを求めたい。なお、毎時間、その日の講義内容に対する意見文の提出を求めているので、必ず原稿用紙を持参すること。

## 成績評価の方法

毎時間に提出する意見文によって50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う。(暗記科目ではないので、試験はノート・参考書等何でも持ち込み参照可)。また、必要に応じて、レポート提出を求めることもある。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては1月の授業時間内に指示する。

## 教科書

プリントを配布する。

## 参考書等

岩波新日本古典文学体系『落窪物語住吉物語』

科目名	担当者名	配当学科	単位
近世文学講読	かん の かず お 管 野 一 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

現在の劇場で上演される「文楽」は、「浄瑠璃」演奏による人形芝居で、世界の人形劇の中でも独特なものである。この「浄瑠璃」とは、中世後期に発生し、近世に発展・盛行した芸能である。浄瑠璃詞章の作者として代表的なのが近松門左衛門である。近松はたくさんの名作を残したが、その晩年に『女殺油地獄』という作を書いた。この作品は、罪もない油屋の主婦を金のためにむごたらしく殺してしまう若者の物語である。

この講義において、浄瑠璃とはどういうものか、近松はどのような作品を作ったか、『女殺油地獄』の主人公やその周囲の人々に近松がどういう眼を向けていたか、何を観客に訴えようとしていたか、などを学習して考えてもらう。

## 講義の内容・授業スケジュール

浄瑠璃の歴史、近松門左衛門の略歴などを説明し、『女殺油地獄』をくわしく読む。言葉の意味、引用されている先行作品、表現技巧などをこまかく吟味し、現在の「文楽」で上演する形態も適宜考察しながら読んで行く。

## 履修上の留意点

だいたい講義式で進める。時々全員での斉読を行う。毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

## 成績評価の方法

随時小テスト(テキスト・ノート携行)を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

## 教科書

諏訪春雄・中村光生著『校註冥途の飛脚・女殺油地獄』 笠間書院 ¥800

## 参考書等

講義の進展につれ、随時参考資料や観劇資料を紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
近代文学講読	井 上 優	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

### 講義のねらい

「森鷗外の文学と同時代の言説」というテーマで、一年を通して、彼の明治期の文学テキストを、その他の作者の文学テキストのみならず、それ以外のさまざまな領域の資料とアクセスさせることによって、考察して行く。ここでの一年という長丁場を一人の作者に費やすということは、しかし、鷗外という作家、あるいはそのテキストを中心化し、特権化することではないし、それらについての物知りの文学愛好者となることを目指すことでもない。そのような自閉性とは全く逆の行為、すなわち鷗外の文学テキストを文学の中で完結させるのではなく、外へ開いたとき、そこに何が立ち上がってくるのかを見極める作業になる。文学テキストはある特定の歴史的状況の中で生成されるが（＝テキストの歴史性）、あらゆる歴史もまた叙述によってことでテキストの生成という範疇に現象する（＝歴史のテクスト性）がゆえに、文学テキストとそれが生み出された同時代の資料とは、文学と歴史、テキストとコンテキストといった序列的な二項対立からいったん解除されざるを得ない。文学テキストを他の言説から特権的な位置につけるのではなく、政治経済、哲学思想、宗教、他の芸術などと並べ合わせてみることで、文学が周囲の言説と連動しながら現実を作り出し、人々を巻き込んで行く装置として機能する様を探求することを試みたい。ここではテキストは単に社会現象を映す歴史的資料ではなく、社会の編成の装置としての面貌が明るみに出されてくるはずだ。鷗外の文学テキストを扱うのは、そのようなインター・テクスチュアリティの中でどのような力がいかに循環しており、そしてその力が人々の行動にいかん作用するのかを考えて行くための、ケース・スタディとして受け止めてもらいたい。そうした検討をくりくり抜けつつ、今日わたしたちが知らず知らずのうちに縛られている近代的な発想を対峙化し、自らの〈常識の殻〉に少しでもヒビを入れることを勇敢に実践し、それがやまらぬ快楽となることを志そう。

### 講義の内容・授業スケジュール

取り扱う具体的なテキストと内容は、『舞姫』と法制度の問題、『文づかひ』における〈唇〉というトポスの力学（松浦寿輝『口唇論』はいうまでもなく、音楽好きの学生は97年のGLAYのヒット曲『口唇』などを自由に関わらせて考えてみてよいただろう）、『半日』と精神病学、『キタ・セクスアリス』と近代セクシュアリティ、『大発見』と衛生学（アジア諸国へ向けられた大陸衛生を含めて）、ならびに仮名遣調査との関連などである。また、鷗外の住居であった観潮楼の跡が現在、千駄木の文京区立鷗外記念本郷図書館となっていて、鷗外の原稿や遺品などが展示されている（無料で見ることができ）るので、できればその見学なども行ないたい。

### 履修上の留意点

文学の授業に関してこれは言うまでもないことだが、テキストを読まずに出席した場合や、用意するよう指示されたものを持参せずに入室した学生については、その時間は出席とは見なさないで注意すること。文学講読の授業にテキストを読まずに参加することにはいかなる意義があるのだろうか。時間割の都合や、試験だけ受けて単位さえ取ればよいというような安易な受講は、結果としてそれとは反する事態に陥ることになる。読むことや書くこと、討論に意欲ある学生の受講を歓迎する。

### 成績評価の方法

学年末に教場での筆記試験を行おうと思うが、普通の授業の折りにも何らかの小課題を課し提出してもらうことも考えている。出席状況や授業中の姿勢をも考慮して、多面的に評価したい。一年かけて連続的かつ発展的に話が進んで行くので、うかつな遅刻や欠席を繰り返すと授業内容の見通しが立たなくなり、たまに講義を聴いても理解しがたくなるので、そうしたことは極力避けられたい。おせっかいとは思いますが念のため。

### 教科書

『森鷗外全集』（ちくま文庫、各980円）の第一巻と二巻を用意されたい。少し大きめの書店に行けば必ず手に入る。細かく注がついており便利。なお、授業はこの文庫のページに沿って行う。

### 参考書等

授業の中で指示する。また、資料としてプリントを配布するが、それらは試験が終るまでなくさないよう、ファイルするなどして大切に保存しておくこと。

### その他

講義を中心に進めるが、時々には機会をみて受講学生が調査報告する場も設けたい（鷗外テキストや日本文学のみならず、発表者が目下興味をもっていることでもよい）。教師が教壇上から一方的にレクチャーする授業にならず、真剣な中にも親密な対話が可能な空間を目指したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代文学講読	こ ばやし 小 林 おさむ 治	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

戦後日本において、その新たな可能性が追究されたアヴァンギャルド文学運動の渦中から登場した安部公房が遺した作品のほとんどは、現実を写そうとする旧来のリアリズムと対極にある。皮相なりアリズムによっては切り捨てられ、あるいは隠蔽されて、闇に葬られてきた生活者の身体感を露出させているという意味において、これほど現実を映している作品は稀有といってよいだろう。そのような安部公房の作品を、一年間読み進めたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

昭和20年代の初期短編作品から、昭和40年前後までの長編諸作品まで順次取り上げていく。

## 履修上の留意点

文庫本、全作品集、全集などを用意して、あらかじめ安部作品を読んでおいて授業に出席のこと。

## 成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。

## 教 科 書

安部公房  
『水中都市・デンドロカカリヤ』  
『R62号の発明・鉛の卵』  
『けものたちは故郷をめざす』  
『第四間氷期』  
『石の眼』  
『砂の女』  
(すべて新潮文庫)

## 参 考 書 等

授業で、その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
時 事 英 語	おかもとまこと 岡 本 誠	禪・仏教・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短放	4

講義のねらい

「時事英語」なる英語があるわけではない。英語でして言えば“Current English”ということになり、古典的文学作品でお目にかかるような構成や文体のものでは決してない。

小説やドラマには起承転結というか、順を追ってプロットが展開され、終わりに近くなってクライマックスに達する。時事英語で接する英語は、これとは逆に、最初に話の内容を全部さらけ出し、最も重要な点から説明していく。この最初の部分を lead といい、重要な「いつ・どこで・だれが・なにを」といった点が全部含まれることになる。

かくして、内容の構成や文体の点で新聞・雑誌・放送といった媒体で接する英語についてはそれなりの認識が必要となる。本講義ではそういった分野の英語にふれることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

その日の朝のアメリカからの短波放送のニュースを聞き、そのニュースキャスターの原稿を作ってみる。英字新聞も併用するが、TIME、NEWSWEEK など折りにふれて利用する。受講する諸君はこの分野の語法である journalese に親しみ、新聞英語ぐらいは読み慣れるようにしてほしい。

履修上の留意点

世界の政治、経済の動きに注意をはらってほしい。(新聞はTV欄しか見ないというような人は来ないこと。)それが社会の事象に対して問題意識をもつことに通ずる。こういう態度は就職のときに重要である。

成績評価の方法

期末試験。受講中の発表。出席情況。  
数回にわたる小テスト

教科書

特定の教科書等は利用しない。

参考書等

『時事英語講座』 研究社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 演 習 I 〔ディクテーション〕	おか 岡 もと 本 まこと 誠	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・短国・短放	4

## 講義のねらい

慣用句の働きは大きい。気の利いた話ができることになる。それこそ、「オッ、お主<sup>オッ</sup>なかなかできるな」と相手に思われる。しかし、そう思ってくれる英語圏の人も、どういういきさつでそのような慣用句が成立したかまでは知っていない。

例えば、「近所の人と生活振りを張りあう、あるいは世間に遅れをとらないようにする」ということを“to keep up with the Joneses”と言う。どうしてこういう句ができたのであろうか。また、もともとは人物の名前であったのだが“maverick”は現在「一匹狼」の意味で用いられている。どうしてだろう。以上二つの例ともにちゃんと辞書には出ている。

この講義では、このような慣用的な表現が言語生活に入ってきた背景をディクテーションの手法で理解しようとするものである。聴いて、それを正確に書き上げるという作業は、その人の英語の実力をずばりと表す。TOEFL500点以上を達成したいむきはは来たれ。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期はスピードの比較的にゆっくりしたもの、後期はやや速いものを聴くようにところがける。

## 履修上の留意点

遅刻して物音をたてながら入ってくるは迷惑至極であることを理解してほしい。ケイタイの類を鳴らしたら退席。

## 成績評価の方法

発表情況。出席情況（遅刻情況も）。宿題。定期的の小テストを行う。

## 教 科 書

テープ使用につき、教科書の類はつかわない。



科目名	担当者名	配当学科	単位
応用計測学 (前期)	かし 櫃 お尾 えい し 次	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営	1

## 講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。

医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
  - 放射性核種および放射線計測の基礎
  - ガンマカメラ
  - SPECT
  - PET
  - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
  - CR (Computed Radiography)
  - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

## 履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

## 成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

## 教科書

教材としてプリントを使用する。

### 3 短大仏教科開設科目

短大仏教科開設科目  
他学部履修科目



### 3 短大仏教科開設科目

インド・チベット仏教演習(木村誠司)	.....	他81
中国仏教演習(奥野光賢)	.....	他81
仏教思想演習(袴谷憲昭)	.....	他82
仏教文学演習(石井公成)	.....	他82



科目名	担当者名	配当学科	単 位
インド・チベット 仏教演習	きむらせいじ 木村誠司	禅・仏教3・4選	4

講義のねらい

ダルマキールティ著『量評釈』は、インド・チベット仏教において、きわめて重要な論書である。本年度は、「量成就」章の冒頭から、諸注釈書も参照しながら、ていねいに読んでいきたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験あるいは、レポートによって行う。

教科書

テキストは、適宜配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教演習	おくのみつよし 奥野光賢	禅・仏教3・4選	4

講義のねらい

この授業は純然たる「演習」科目なので、毎週当番を決めて実際に文献を講読し、読解力の養成につとめたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

本年度は鎌倉時代の碩学、凝然（1240-1321）の『八宗綱要』を講読する。『八宗綱要』は古来、簡にして要を得た仏教概論として読みつかれてきた古典的名著で、今日の研究水準から見ると部分的に誤りはあるものの、その価値はいささかも減ずるものではない。本演習では、その講読を通じて中国仏教各宗の歴史と基本的教義の把握を目標とする。その際、本演習はあくまで「中国仏教演習」であるので、随時中国撰述の文献も参照していく予定である。

履修上の留意点

演習科目なので、十分な事前の下調べが必要である。受講にあたっては、そのことを充分認識しておいて欲しい。下調べの方法は丁寧に指導を行う。

成績評価の方法

演習科目なので、出席とレポートによって評価する。したがって、欠席の多い学生は、成績評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

鎌田茂雄『八宗綱要』（講談社学術文庫）、その他の参考書、受講にあたって是非揃えて欲しいもの等は開講初日に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
仏教思想演習	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	禅・仏教3・4選	4

講義のねらい

この授業は、日本における仏教思想の展開を検討していくために必要な仏教思想を取り上げ、それを素材に、仏教思想とはなにかを具体的に考えていく、演習形式で進められるクラスである。本年度は、前年度に引き続き、中国唐代の善導の『観経疏』を講読する。これは、我が国の法然や親鸞に極めて重大な影響を与えた浄土思想を、彼らの尊重してやまなかった善導にまで遡って検討するためである。本年度は、恐らく、『観経疏』『散善義』の中端あたりからの講読となろう。

講義の内容・授業スケジュール

授業は講読が中心となるが、上述の目的を達成するためには、善導の思想を彼以前の隋代を中心とする学僧たちの思想と比較したり、あるいは、我が国の法然や親鸞が善導のどのような側面を強調したかを知ったりする必要がある。従って、授業では、そのような点を考慮しつつ、講読を進めたいと思っている。もし「散善義」を読了した場合には、最初に戻って「玄義分」から読み始めるであろう。

履修上の留意点

演習形式を取るのので、常に自分で調べて発表する意欲をもってクラスに臨んでもらいたい。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教科書

真宗学研究会編『観経四帖疏索引』（龍谷大学、永田文昌堂刊、1987年、23,690円）所収の刊本をテキストにする。ただし、高価な本につき、必要箇所をコピーして配布する。

参考書等

同上テキストの訓読国訳については、国訳一切経、経疏部11（大東出版社）所収のものを参照されたい。他の必要な参考文献等は適宜教場にて指示する。

その他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行うので、出欠はとらないが、できるだけ継続して参加してもらいたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
仏教文学演習	いし い こう せい 石 井 公 成	禅・仏教3・4選	4

講義のねらい

仏教は総合的な文化体系であって文学・音楽・美術・医学・建築その他の領域にまたがっており、それぞれの国の文化に大きな影響を与えている。本講座では、仏教文学と呼ばれる作品だけでなく、経典・論書・戒律などであっても文学的に価値の高い仏教文献をとりあげ、そこに現れた思想と表現の関係について検討すると同時に、それぞれの国の文化の特徴について考察を加える。漢文・古文の文献を主とするが、現代日本語訳や英訳を用いる場合もある。

講義の内容・授業スケジュール

男女の愛情・無常・自殺・夢その他のテーマを選び、そうしたテーマにかかわる文献をいくつか比較しながら読んでゆく。テーマについては希望のものがあれば考慮する。

履修上の留意点

学生諸君への問いかけと応答を通じて検討を進めてゆくため、積極的に参加しようとする意欲が必要である。希望する文献を選んで発表してもらう機会を持つようにしたい。

成績評価の方法

期末試験とレポートによるが、討議などに積極的に参加していた者については評価する。

教科書

教科書を使用せず、コピーを配布する。

参考書等

テーマが決まった段階で、参考書や参考文献を指示する。

# 4 随 意 科 目





# 隨 意 科 目

英語（海外演習） .....	隨1
日本宗教文化史（小川順敬） .....	隨1
民間信仰論（谷口貢） .....	隨2
書道史（那須隆吉） .....	隨2
編集実務（長谷川孝） .....	隨3



科 目 名	配 当 学 科	単 位
英 語 (海外演習)	全学科・短大 1 年 次 ~	2

講義のねらい

この科目は本学の姉妹校であるクインズランド大学（オーストラリア）、プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、エクセター大学（イギリス）、カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）における短期留学セミナーでの四週間におよぶ現地での集中演習を中心としておこなわれる英語随意科目である。受講対象学生は全学部・短大の一年次生から卒業年次生までとする。

成績評価の方法

現地演習後に四大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位の認定がなされる。

そ の 他

受講希望者は、国際センターの短期留学英語セミナーに参加申込みをする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 宗 教 文 化 史	お 小 川 と し 順 敬	禅・仏教 2 年 次 ~	4

講義のねらい

日本の他界観、生死観の変遷を考える。

われわれの文化は（われわれの文化ばかりではありませんが）自分たちが生きているこの世界の他に、もう一つ別の世界や空間を創り出してきました。そして、それはわれわれに、いかに生きいかに死ぬかという問題を考えさせる文化装置として機能してきたと言えます。（現代社会においても、他界のイメージこそ異なるでしょうが、それは一定の役割を果たしていると言えるでしょう。）

ここでは、日本の伝統的な他界や仏教もたらした他界のイメージが、生と死の文化装置として、どの様に具体化されてきたのか、すなわち他界という見えない世界がどのように表現され演出されてきたのかを考えてみることにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

最初に他界観の前提としての日本人の靈魂観について述べ、「生と死」をわれわれがどのように考えてきたのかを整理しておきたいと思います。その上で、様々な「他界」について紹介・検討して行きたいと思います。

山中他界や海上他界、あるいは浄土や地獄がどのように実現されているのか。様々な聖地や、民俗行事（祭礼や儀礼）、寺院行事、また物語、芸能などを題材（ビデオ等使用する予定）として、この世では見えないはずの他界が、この世でどのように表現されてきたのか、そしてこの世と他界がどのように結ばれているかを見て行きたいと思います。

成績評価の方法

成績は年度末のレポートその他で評価することにした。

教 科 書

教科書・参考書は用いない。なお授業の内容にそって資料を配布する。また参考書はそのつど紹介することにした。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民間信仰論	たに ぐち 谷 口 眞	禪・仏教 2年次～	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定で、筆記試験は実施しない。

教科書

とくに教科書を使用しないが、参考書として、桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、桜井徳太郎・他編『シャーマニズムとは何か』（春秋社）の3冊を紹介しておきたい。

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

随  
意  
科  
目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
書 道 史	な す たか 那 須 隆 吉	禪・仏教 2年次～	4

講義のねらい

東洋文化は今、世界の注目を集めている。中でも書道は文字を芸術にまで高めた特異な文化である。本講では、書道が古代よりいかなる変遷をたどってきたかを通覧し、東洋独自の文化への理解が深まるよう、出来るだけ分かりやすく講じたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

殷代の亀甲獣骨文字を始めとし、時代と共に著しく変遷していく、書体、書風、書法をテキストによる書の古典、及びコピー資料により中日両国の書道史を講ずる。全授業数の約3分の2を中国書道史、残りを日本書道史にあてたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出、年度末に行なう筆記試験等を総合して評価する。

教科書

伏見冲敬著『書の歴史』 二玄社  
日本書道史のテキストは後期に指示する。

参考書等

随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
編 集 実 務	はせがわ 長谷川 孝	禪・仏教 2年次～	4

#### 講義のねらい

編集とは、「だれかに一何かを一伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を読みとるのかという「視点（目のつけどころ）」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材、原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして、「自分の視点」を育てることを目指したいと思っています。

「だれかに一何かを一伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることであれば、と思います。個人紙（誌）づくりの課題は、こうしたねらいもあります。

#### 成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙（誌）を課題作品として提出してもらいます。

#### 教科書

教科書は使いません。（随時、プリントを使用）

#### 参考書等

『新聞をつくろう』（長谷川孝編著、さ・え・ら書房、¥1,236）を随時、使用します。



# 5 日本語・日本事情科目

日  
本  
語  
・  
日  
本  
事  
情  
科  
目





# 日本語・日本事情科目

(対象：外国人留学生・海外帰国子女)

## 《日本語科目》

日本語 I	(佐野典子)	日 1
日本語 I	(多田羅哲子)	日 1
日本語 II	(佐野典子)	日 2
日本語 II	(多田羅哲子)	日 2
日本語 III	(多田羅哲子)	日 3
日本語 III	(湯村礼子)	日 3
日本語 IV	(石川守)	日 4
日本語 IV	(湯村礼子)	日 4
日本語 V	(石川守)	日 5
日本語 V	(多田羅哲子)	日 5
日本語 VI	(石川守)	日 6
日本語 VI	(多田羅哲子)	日 6

## 《日本事情科目》

日本事情 I	[地理] (後期)	(小池一之)	日 7
日本事情 II	[自然] (前期)	(清水善和)	日 7
日本事情 III	[歴史] (後期)	(宮本由紀子)	日 8
日本事情 IV	[思想] (前期)	(赤羽由規子)	日 8
日本事情 V	[社会] (後期)	(坪井健)	日 9
日本事情 VI	[政治・法律] (前期)	(関口雅夫)	日 9
日本事情 VII	[文学] (前期)	(小野寛)	日 10
日本事情 VIII	[文化・芸術] (後期)	(赤羽由規子)	日 10
日本事情 IX	[経済] (前期)	(瀬戸岡紘)	日 11
日本事情 X	[経営] (前期)	(明石博行)	日 12



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 I	さ の のり こ 佐 野 典 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読解を中心に、日本語及び日本文化への総合的理解を深める。

講義の内容・  
授業スケジュール

小論文、雑誌記事、文学作品などの読解を、ゼミ形式で行う。

成績評価の方法

小試験、提出物、討論への参加度、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が用意する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 I	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。  
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

履修上の留意点

小テストを行う。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教 科 書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	佐 野 典 子 <small>さ の のり こ</small>	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

聴解を中心に、日本語能力を養う。

講義の内容・  
授業スケジュール

時事問題のビデオ、テープの内容を把握する。その内容を要約し、適宜自分の意見を述べる。また関連のテーマについて調べ、発表する。

成績評価の方法

小試験、提出物、研究発表、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が用意する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	多 田 羅 哲 子 <small>た た ら あき こ</small>	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

話すことを中心に日本語の運用能力を養う。  
 ○事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。  
 ○発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。  
 ○あわせて書く練習もする。

講義の内容・  
授業スケジュール

○読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。  
 ○スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。  
 ○ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。  
 ○話したことを文章にまとめる。  
 ○テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。

履修上の留意点

積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

必要に応じてコピーを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 III	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
  - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教 科 書

ビデオを使用。プリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 III	ゆ むら れい こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになることを目指す。

講義の内容・  
授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テストetc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度etc）を総合的に評価する。

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	いし かわ 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。
履修上の留意点	授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。
教 科 書	教材は、授業中にプリントを配布する。
参 考 書 等	特になし
そ の 他	授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	ゆ むら れい 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。
履修上の留意点	講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。
成績評価の方法	作文・レポートなど（5回程度） 授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）
教 科 書	授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 V	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。
講義の内容・授業スケジュール	講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。
履修上の留意点	扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでもらいたい。
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。
教科書	教材は、授業中にプリントを配布する。
参考書等	特になし
その他	授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 V	た たら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	中上級の文法・表現練習及び作文演習。主としてレポート・論文等を正しく適切な表現を用いてわかり易く書くための基本的練習をする。
講義の内容・授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 留学生の文章によく見られる問題箇所（たとえば「は」と「が」の使い分け、その他の助詞、自他動詞、接続表現、文末表現など）について正しく書けるよう練習する。</li> <li>○ より適切な表現が選べるよう中上級の文法・表現の復習をする。</li> <li>○ 話し言葉と書き言葉の使い分け、事実と意見の述べ方、表・グラフを使う表現等レポートを書くときに役立つ基礎的な練習をする。</li> </ul>
履修上の留意点	平常の練習が大切なので必ず出席すること。
成績評価の方法	平常点を重視する。
教科書	プリントを配布する。



科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「会話文型」を中心に、より高度な日本語の日常会話の表現について分析する。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義はI C J (intermediate) の会話部分を用い、そこに出現する会話文型、会話特有の文型、アクセント等について分析をしながら進める。

履修上の留意点

講義は教師が一方向的に講義するというのではなく、常に学生に質問をしながら進めるため、自分の意見をはっきりもってもらいたい。また、本講義は、日常会話の文型や文法的要素を分析するもので、実際の会話をしたり、会話練習をするものではない。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

コピーを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 VI	た た ら あき こ 多田羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを押さえながら、本・新聞・雑誌等の生教材を読む。
- 関連したビデオを見て、それらが実際にどう使われているかを知る。
- テーマについて話し合ったり書いたりすることで日本語を豊かにする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

プリントを配布、ビデオを使用。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅰ 〔地理〕(後期)	こいけ かずゆき 小池 一之	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本人が変化に富んだ日本列島の自然環境とどのように付き合ってきたか考えてみる。

講義の内容・  
授業スケジュール

半年の講義の中で、重点的に触れるのは次のような点である。

- a. 稲作技術の伝来と平野の開発
- b. 江戸ー東京の発展ーその自然的な背景ー
- c. 火山の恵みと火山災害
- d. 治山・治水事業ー自然災害との闘い
- e. 「白砂青松」ー代表的な日本の海岸成立の背景ー

履修上の留意点

出来るだけ明瞭な日本語で講義するよう心掛けるが、学術的な用語が解りにくい場合、遠慮せず質問すること。

成績評価の方法

平常の出席状況と課題レポートによる。

教科書

特定の教科書はないが、授業中に紹介する。

その他

出来るだけプリント類を配布し、スライド、ビデオなどを多用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期)	しづみず よしかず 清 水 義 和	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候、地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート(2、3回)と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

その他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。適宜スライドによる事例紹介を行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 III 〔歴 史〕 (後 期)	みやもと ゆきこ 宮 本 由 紀 子	全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意)	2

講義のねらい	日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとして。
講義の内容・ 授業スケジュール	特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。
履修上の留意点	板書を中心とし、わかりやすく楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。
成績評価の方法	出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。
教 科 書	なし
参 考 書 等	なし
そ の 他	講義のみ

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 IV 〔思 想〕 (前 期)	あかば ゆきこ 赤 羽 由 規 子	全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意)	2

講義のねらい	日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。 民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。
履修上の留意点	第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。
成績評価の方法	出席数、筆記試験によって採点する。
そ の 他	その都度知らせる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 V 〔社 会〕 (後 期)	つば い 井 坪 井 健	全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意)	2

講義のねらい

この科目は、留学生を対象に「日本社会」を比較社会的に理解することを目的とする。日本社会を理解する方法は、第一に留学生の母国の人間関係・文化・社会と日本の人間関係・文化・社会がどう違うかをじっくり観察することである。そうした観察結果に基づき、日本の人間関係や集団・社会の特質について、日本社会の国際比較データや国際比較研究の結果も提示しながら、受講生と一緒に対話しながら楽しく学習していきたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

1. はじめにー受講上の注意と授業の進め方ー
2. イメージの中の日本ー日本及び日本人イメージー
3. 大学文化の比較ーアジア諸国と日本ー
4. 人間関係の比較ーアジア諸国と日本ー
5. 家族関係の比較ーアジア諸国と日本ー
6. 社会組織の比較ーアジア諸国と日本ー
7. 大衆文化の比較ーアジア諸国と日本ー

履修上の留意点

この科目は、身近に留学生が日頃感じている日本イメージをベースにしなが、楽しみながら日本社会の実際を比較社会的に学べるように工夫するので、気楽に受講してほしい。

成績評価の方法

平常点(50%)、課題レポート(50%)

教 科 書

授業内容は、その都度、プリントやコピーを配布するので、教科書は使わない。

参 考 書 等

金山宣夫著『比較生活文化事典』(全5巻)大修館書店

そ の 他

留学生に理解しやすいように、統計グラフやビデオ映像も教材として利用します。多くの留学生が受講することを期待します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 VI 〔政 治 ・ 法 律〕 (前 期)	せ げ ぐ ち ま さ お 関 口 雅 夫	全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意)	2

講義のねらい

日本事情VI〔政治・法律〕は、新聞にでてくる政治と法律についての記事を利用して、受講生の日本語を読む力、日本語を正確に話す力、日本語でよい答案を書く力を高めることを目的としています。

講義の内容・  
授業スケジュール

まず先生が新聞の記事を読みます。つぎに受講生におなじ記事を読んでもらいます。それから、記事の内容を検討し、全員が理解できるようにします。その後、この記事に関連して話し合いをし、おわりに、この記事の内容を正確な日本語で表現できるようにします。

履修上の留意点

かならず出席してください。

成績評価の方法

平常点により評価します。

教 科 書

最初の授業の日に受講生の日本語の能力を見て、教材を作成します。コピー代は、150円ぐらいです。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 VII 〔文 学〕 (前期)	お 野 寛 の ひろし	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語のもっとも美しい原初のかたちが、日本古来の「和歌」に見られる。その原点ともいうべきものが、日本最古の和歌集である『万葉集』である。『万葉集』をよんで、日本のことばの意味・用法をしらべ、日本人のころを探り、作歌の背景を考え、日本の歴史や社会を学んでほしいと思う。それが文字をよむことである。

講義の内容・  
授業スケジュール

『万葉集』から作品を選び、詳しく解説していく。

履修上の留意点

随時、質問を書いて出してもらおうと思っている。

成績評価の方法

出席状況とレポート、または筆記試験による。

教 科 書

小野寛著『新選万葉集抄』 笠間書院

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 VIII 〔文化・芸術〕 (後期)	あか ば ゆ き こ 赤 羽 由 規 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。

また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見ていきたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参 考 書 等

その都度知らせる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 IX 〔経 済〕 (前 期)	せ と おか ひろし 瀬 戸 岡 紘	全学科・短大 (短放随意)	2

#### 講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくていねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？日本の経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？就業人口に占める農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？そして農業生産高はどうか？そして時には余談もします。たとえば、この国本当の名前ってニホンなの？ニッポンなの？それともジャパンでもいいの？など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話すことがねらいです。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

日本の工業地帯と工業  
日本の農村と農業および日本の水産業  
日本のサービス業および金融  
明治維新以前の日本経済の歴史  
明治維新以降の日本経済の歴史  
第2次世界大戦以降の日本経済の展開  
日本経済とアメリカ経済  
日本経済とアジア経済  
日本経済と政府の役割  
日本の労働者・サラリーマンの生活  
日本経済と社会や文化の変化  
その他

#### 成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト(クイズ)30%、宿題30%が目安です。

#### 教 科 書

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介します。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

#### そ の 他

授業は、おおむね日本語です。しかし、その日の要点は、英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 X 〔 経 営 〕 ( 前 期 )	あか し ひろ ゆき 明 石 博 行	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本経済の構造の変化と経済政策との関連に重きをおいて、戦時期以降の日本経済史の概説的な紹介をします。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義の構成は、以下のとおりです。  
 序章 日本の資本制発展の歩みとその段階区分  
 第1章 戦時体制の形成と崩壊  
 第2章 占領下の戦後改革  
 第3章 逆コースと日本の独立  
 第4章 復興から繁栄へ  
 第5章 戦後繁栄の前半期：高度成長の時代  
 第6章 戦後繁栄の前半期から後半期へ：中間危機の時代  
 第7章 戦後繁栄の後半期：対外摩擦とバブルの時代  
 第8章 繁栄の終わりと平成不況  
 終 章 いま日本経済はどうなっているか

成績評価の方法

レポートによって成績評価をします。

教 科 書

教科書は使用しませんが、必要に応じて参考書を紹介します。

## 6 教職・資格講座

教 職 課 程  
 学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座  
 社 会 教 育 主 事 講 座  
 博 物 館 学 講 座  
 社 会 福 祉 主 事 講 座  
 社 会 福 祉 士 基 礎 講 座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、  
 各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。  
 (履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照す  
 ること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
社 会 教 育 主 事 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	仏 教 学 部 ・ 文 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座 社 会 福 祉 士 基 礎 講 座	全 学 部





# 目 次

[注意] 頁 ( ) は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

## I 教職課程

### (1) 教職に関する専門科目 (必修)

教 育 原 理 (豊 田 千代子)	.....	教 1
教 育 原 理 (北 村 三 子)	.....	教 1
教 育 原 理 (伊 藤 茂 樹)	.....	教 2
教 育 原 理 (坂 本 信 昭)	.....	教 2
教 育 心 理 学 [教育方法論を含む] (大 浜 幾久子)	.....	教 3
教 育 心 理 学 [教育方法論を含む] (国 眼 眞理子)	.....	教 3
教 育 心 理 学 [教育方法論を含む] (角 野 善 司)	.....	教 4
教 育 心 理 学 [教育方法論を含む] (遠 藤 司)	.....	教 5
青 年 心 理 学 [教育方法論を含む] (大 浜 幾久子)	.....	教 5
青 年 心 理 学 [教育方法論を含む] (川 田 三 夫)	.....	教 6
青 年 心 理 学 [教育方法論を含む] (小宮山 要)	.....	教 7
青 年 心 理 学 [教育方法論を含む] (常 田 秀 子)	.....	教 8
道 徳 教 育 の 研 究 (中野目 直 明)	.....	教 9
道 徳 教 育 の 研 究 (原 口 盛 次)	.....	教 9
特 別 活 動 (中野目 直 明)	.....	教 10
特 別 活 動 (原 口 盛 次)	.....	教 10
生 活 指 導 (遠 藤 司)	.....	教 11
生 活 指 導 (佐 藤 尚 人)	.....	教 12
宗 教 科 教 育 法 (小 山 一 乘)	.....	教 13
国 語 科 教 育 法 (神 谷 道 倫)	.....	教 14
書 道 科 教 育 法 (那 須 隆 吉)	.....	教 14
英 語 科 教 育 法 (佐 藤 眞 二)	.....	教 15
社会科・地理歴史科教育法 (久保田 武)	.....	教 16
社会科・地理歴史科教育法 (桜 井 明 久)	.....	教 16
社会科・地理歴史科教育法 (藤 木 正 国)	.....	教 17
社会科・公民科教育法 (橋 爪 敏)	.....	教 17
社会科・公民科教育法 (谷 敷 正 光)	.....	教 18
社会科・公民科教育法 (前 田 英 昭)	.....	教 19
商 業 科 教 育 法 (谷 敷 正 光)	.....	教 20
職 業 科 教 育 法 (前 田 幸 一)	.....	教 21
教 育 実 習 (豊 田 千代子)	.....	教 21
教 育 実 習 (坂 本 信 昭)	.....	教 22
教 育 実 習 (伊 藤 茂 樹)	.....	教 22
教 育 実 習 (北 村 三 子)	.....	教 23

### (2) 教職に関する専門科目 (選択)

教 育 関 係 法 規 (広 沢 明)	.....	教 24
教 育 評 価 (大 浜 幾久子)	.....	教 24
教 育 法 規 研 究 (神 田 修)	.....	教 25
教 育 哲 学 (汐 見 稔 幸)	.....	教 25

教育情報学	(小倉康仁)	.....	教 26
教育臨床心理学	(牟田隆郎)	.....	教 26
教育社会学	(熊谷一乘)	.....	教 27
教育史	(北村三子)	.....	教 27
教育調査	(鈴木規夫)	.....	教 28
芸術教育	(香川良成)	.....	教 28
現代社会の諸問題と教育	(熊谷一乘)	.....	教 29
青少年問題研究	(讚岐真佐子)	.....	教 30
宗教教育	(小山一乘)	.....	教 31
生涯学習概論	(豊田千代子)	.....	(教 32)
視聴覚教育	(飯森彬彦)	.....	(教 32)
社会教育施設	(酒匂一雄)	.....	(教 32)
図書館学 I	(山田節子)	.....	(教 32)
図書館学 II	(源昌久)	.....	(教 32)

(3) 教科に関する専門科目

【社会・地理・歴史・公民】

東洋思想史	(末木恭彦)	.....	教 33
美術史概説	(中島亮一)	.....	教 33
民間信仰論	(谷口貢)	.....	教 34
人文地理学概説	(小池とみ子)	.....	教 34
自然地理学概説	(高木正博)	.....	教 35
自然地理学概説	(早船元峰)	.....	教 35
地誌学概説	(川元豊和)	.....	教 36
地誌学概説	(久保田武)	.....	教 36
地誌学概説	(須山 聡)	.....	教 37
日本仏教史	(遠藤 廣昭)	.....	教 37
日本文化史 I	(休 講)	.....	
日本文化史 II	(廣瀬良弘)	.....	教 38
歴史哲学	(麻生建)	.....	教 38
日本史概説	(黒田基樹)	.....	教 39
日本史概説	(小松寿治)	.....	教 39
世界史概説	(井村行子)	.....	教 40
世界史概説	(渡辺 惇)	.....	教 40
社会学原論	(渡辺 源樹)	.....	教 41
宗教人類学	(佐々木宏幹)	.....	(教 42)
経済原論	(浅田統一郎)	.....	教 42
経済原論	(阿部 弘)	.....	教 43
経済原論	(小野俊夫)	.....	教 44
民法 I	(青野博之)	.....	教 45
民法 I	(林 幸司)	.....	教 46
政治学原論	(大塚 桂)	.....	教 47
日本宗教文化史	(小川順敬)	.....	教 48
民衆宗教成立史	(津城寛文)	.....	教 49
宗教学概説	(洗 建)	.....	教 50
宗教学概説	(津城寛文)	.....	教 50
宗教学概説	(松田文雄)	.....	教 51
哲学概説	(末木恭彦)	.....	教 51
哲学概説	(山口 祐弘)	.....	教 52

倫理学概説	(久保陽一)	.....	教52
【職業】			
産業概説	(前田幸一)	.....	教53
職業指導	(山田勇治)	.....	教53
商業実習	(前田幸一)	.....	教54
【商業】			
職業指導	(山田勇治)	.....	(教55)

## II 学校図書館司書教諭講座

### 必修科目

図書館学 I (山田節子)	.....	教 59
図書館学 II (源昌久)	.....	教 59

## III 社会教育主事講座

### (1) 必修科目

社会教育計画 (酒匂一雄)	.....	教 63
生涯学習概論 (豊田千代子)	.....	教 63
社会教育実習 (豊田千代子)	.....	教 64

### (2) 選択必修科目

社会教育行政 (東寿隆)	.....	教 65
社会教育施設 (酒匂一雄)	.....	教 65
成人学習論 (東寿隆)	.....	教 66
女性と学習 (矢口悦子)	.....	教 66
企業内教育・職業訓練 (塩川正人)	.....	教 67
社会体育 I (古田潤子)	.....	教 68
社会体育 II (古田潤子)	.....	教 68
図書館学 I (山田節子)	.....	(教 69)
教育原理	.....	(教 69)
教育心理学 [教育方法論を含む]	.....	(教 69)
青年心理学 [教育方法論を含む]	.....	(教 69)
社会心理学 (休講)		
視聴覚教育 (飯森彬彦)	.....	(教 69)
教育社会学 (熊谷一乘)	.....	(教 69)
教育史 (北村三子)	.....	(教 70)
教育調査 (鈴木規夫)	.....	(教 70)
児童文化 (香川良成)	.....	教 70
現代社会の諸問題と教育 (熊谷一乘)	.....	(教 70)
青少年問題研究 (讃岐真佐子)	.....	(教 71)
青少年指導演習 (平野学)	.....	教 71
博物館学 I [概論] (太田喜美子)	.....	(教 72)
博物館学 II [資料論] (竹内順一)	.....	(教 72)

## IV 博物館学講座

### (1) 必修科目

視 聴 覚 教 育	(飯 森 彬 彦)	.....	教 75
考 古 発 掘 実 習	(酒 井 清 治)	.....	教 75
博 物 館 学	I [概論] (太 田 喜美子)	.....	教 76
博 物 館 学	II [資料論] (竹 内 順 一)	.....	教 76
博 物 館 学	III [経営論・情報論] (竹 内 順 一)	.....	教 77
博 物 館 実 習	I [館務]		
	(飯 島 武 次・太 田 喜美子・酒 井 清 治)	...	教 78
博 物 館 実 習	II [収集]		
	(酒 井 清 治・太 田 喜美子・國 見 徹 久保田 昌 希・佐々木 真・佐 藤 元 英 所 理喜夫・廣 瀬 良 弘)	.....	教 78
博 物 館 実 習	III [見学]		
	(酒 井 清 治・太 田 喜美子・松 本 信 道)	...	教 79
教 育 原 理	.....		(教 79)
生 涯 学 習 概 論	(豊 田 千代子)	.....	(教 79)

### (2) 選択必修科目

イ ン ド 仏 教 文 化 史	(奈 良 康 明)	.....	教 80
中 国 仏 教 文 化 史	(永 井 政 之)	.....	教 81
日 本 仏 教 文 化 史	(袴 谷 憲 昭)	.....	教 81
禪 術	(海 老 根 聰 郎)	.....	教 82
仏 教 美 術	(中 島 亮 一)	.....	教 82
仏 教 民 俗 学	(谷 口 貢)	.....	教 83
日 本 民 俗 学	(谷 口 貢)	.....	教 83
美 術 史 概 説	(中 島 亮 一)	.....	教 84
現 代 美 術	(矢 野 陽 子)	.....	教 84
地 形 学	(小 池 一 之)	.....	教 85
第 四 紀 学	(柳 田 誠)	.....	教 85
考 古 学 概 説	I [日本] (酒 井 清 治)	.....	教 86
考 古 学 概 説	II [外国] (飯 島 武 次)	.....	教 86
日 本 文 化 史	I (休 講)		
西 洋 文 化 史	I (休 講)		
日 本 文 化 史	II (廣 瀬 良 弘)	.....	教 87
西 洋 文 化 史	II (佐々木 真)	.....	教 88
考 古 学 特 講	I (高 浜 秀)	.....	教 89
考 古 学 特 講	II (休 講)		
考 古 学 特 講	III (矢 野 和 之)	.....	教 89
考 古 学 特 講	IV (休 講)		
西 域 美 術 史	(松 平 美 和 子)	.....	教 90
宗 教 人 類 学	(佐々木 宏 幹)	.....	教 90

## V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

### (1) 必修科目

- ※社会福祉原論(前期:長尾讓治) ..... 教93  
 (後期:伊藤秀一)
- ※社会福祉原論(児玉谷広子) ..... 教94

### (2) 選択科目

- ※法学〔福祉〕(鷗徳啓登) ..... 教95
- 社会福祉発達史(林千代) ..... 教96
- リハビリテーション論(原田信一) ..... 教97
- ※社会保障論(前期:船水浩行) ..... 教98  
 (後期:伊藤秀一)
- 家庭福祉論(岩上真珠) ..... 教99
- 社会福祉計画論(川廷宗之) ..... 教100
- 国際社会福祉論(山本真実) ..... 教101
- 保健福祉論(長尾讓治) ..... 教101
- ※公的扶助論(前期:船水浩行) ..... 教102  
 (後期:伊藤秀一)
- ※障害者福祉論(原田信一) ..... 教103
- ※老人福祉論(東條光雅) ..... 教104
- 児童福祉論(高橋重宏) ..... 教104
- 女性福祉論(林千代) ..... 教105
- 医療福祉論(春見静子) ..... 教106
- ※地域福祉論(和田敏明) ..... 教107
- ※社会学〔福祉〕(橋爪敏) ..... 教108
- ※心理学〔福祉〕(高橋良博) ..... 教108

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

# I 教 職 課 程





# (1) 教職に関する専門科目 (必修)

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	とよ た ちよ こ 豊田千代子	教職2必 (禅・仏教)	4

## 講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という観点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の観点からの教育の見直しが課題となっている。

そこで、授業では、自分自身の成長過程で経験した教育をふり返ることをとおして、教育について考えていきたい。取り上げるテーマとしては、次のものを考えている。

## 講義の内容・授業スケジュール

- ・現代の教育問題
- ・「子どもの権利条約」
- ・人権教育
- ・生涯教育論
- ・教師論
- ・国際理解教育
- ・教育改革の方向性

## 成績評価の方法

出席点・レポート等によって成績評価を行なう。

## 教科書

大学教育実践研究会編『教育を考える』相川書房

## 参考書等

篠田弘編『資料でみる教育学』福村出版

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	きた むら みつ こ 北村三子	教職2必 (国文・英米文 ・社会・福祉・心理)	4

## 講義のねらい

第二次大戦後、民主主義と科学の精神を掲げて出発した日本の教育学は、今日の教育をめぐる様々な問題に十分に対応できなくなっている。また、誰もが環境問題に無関心ではいられない今日において、教育学も、それにふさわしい新たな人間観や、自然や自分や他者との関わりのある方を模索しなければならない。この授業では、教育の新しい方向を見いだすための一つの試みとして、(日本の教育学の源流である)西洋近代の教育学にとっては傍流であった、ゲーテやシュタイナーに焦点をあて、その可能性を探ってみたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

R. シュタイナーは、近代教育学の中では極めて特異な存在であった。しかし、近代の矛盾が顕在化してきた今日では、シュタイナー学校への支持の高まりが見られるばかりでなく、欧米の公教育にも大きな影響を与え始めている。また、シュタイナーは、ゲーテの認識論を基礎にその思想を築いている。近代文明や近代科学によって見失われてきた、人間の身体性や全体性の追求がそこに見い出せるであろう。授業では、シュタイナーの著作をテキストにその教育思想や教育方法を検討するが、今日の子どもや若者をめぐる問題も、それと関連させて取り扱いたい。

## 履修上の留意点

多人数のためゼミ形式は取れないが、共に感じたり、考えたりできる時間にしたい。

## 成績評価の方法

年度末にレポート(4,000字程度)提出。また、授業時に資料についてのコメントを何回か求めるが、それも出席点として加算する。

## 教科書

R. シュタイナー・西川隆範訳『シュタイナー教育の実践』イザラ書房 2,400円

## 参考書等

高橋巖『シュタイナー教育入門』角川選書。子安美知子『ミュンヘンの小学生』中公新書。同『ミュンヘンの中学生』朝日文庫、など。詳しくは、教場で指示。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	伊藤 茂樹	教職 2 必 (地理・歴史・法律・政治)	4

#### 講義のねらい

教員免許の取得をめざす受講者に、教育を考え、行うにあたって基本的なものとらえ方を身につけてもらうことを目的とする。

教育について、経験だけに基づいて考えても理解できないこと、解決できない問題は必ずある(例えばいじめ)。教育の歴史や成り立ち(構造)や仕組み(メカニズム)について、様々な側面から知ることが不可欠であり、そのために教育学はある。しかし、知るということには受動性という限界がある。知識をもとに自分なりに現象や状況について考えることが、変化し続ける教育に携わっていくうえで不可欠である。知識と経験をつなぐものとして、状況を理解し、判断するための「目」が重要なのである。

この「目」を養うための鍵は、教育と社会とのつながりに着目することにある。これには、社会と教育を対比させ、社会が教育に及ぼす影響、教育が社会に及ぼす影響を考える方向と、教育の世界や学校、学級、子どもの集団それじたいを社会としてとらえる方向があり、これらを通じて、未知の問題に対しても的確に自分なりの視野の広い理解ができるようになることをめざす。

#### 講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育 ・現代の教育問題 ・「学歴社会」とは ・現代の子ども、青少年
- ・教室における人間関係 ・教育学という学問

#### 履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えてみることを心がけること。

#### 成績評価の方法

中間試験、学年末試験により評価する。

#### 教科書

教科書は特に指定せず。参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	坂本 信昭	教職 2 必 (経済・商・経営)	4

#### 講義のねらい

教育は、一面においては理論的研究を必要とするが、それだけに止まっていることができない。他面において、実際に被教育者をいかにして教育していくか、という実践的・技術的研究が必要とされる。したがって教育は、狭い専門領域に立てこもっているわけにはいかず、人間生活の万般に関係をもつことになる。このため、教育という現象を対象として、一つの学問分野を独立させることが、19世紀はじめ、ドイツの哲学者J.F.Herbart (1776-1841)の出現によって、ようやく可能になった。Herbart は、教育学を倫理学と心理学とを基礎として、一つの科学として体系づけようとしたのであるが、その後の研究の進歩により、教育は社会学や政治学などの諸学とも密接な関係をもつものであることが解明されるようになったため、今日に至るまで、他の科学のような自立性をもっていないといわれている。

教育原理は、このような教育学の研究成果をとり入れることはもちろんであるが、それとともに、これらの成果を、どのように実践に生かして行くかをも探究する。教育学は教育を対象として理論的研究を進めるものであるが、教育原理は、教育に従事しようとする人たちに教育についての理解を深め、実際に教育にあたる場合の技術や心得を培うことについても検討しなければならない。

#### 履修上の留意点

講義と並行して、参考書欄に記した②「きょういく VISUAL NOTE」を、自学自習のテキストとして活用し、各自で作業(ノート)を完成させ、完了次第提出してもらいます。

#### 成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、きょういくビジュアルノート及び年度末のテストなどによって、総合的に評価する。

#### 教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』昭和堂 ¥2,600

#### 参考書等

田村院司他著『きょういく VISUAL NOTE』エイデル研究所 ¥1,800

#### その他

必要な資料を適宜配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	おお はま き く こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文)	4

講義のねらい

今世紀の心理学研究の流れをたどりながら、心理学の諸分野で明らかにされてきたことが、今日における日本の教育の諸側面と、どのように関わるのかを考えることを目的とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

基礎的な心理学実験や、性格テストなどの実習、さらにパソコンによる教育統計の入門など、できる限り実習の機会を多くとり、心理学の研究方法を知ると同時に、その背景にある理論について理解を深めていきたい。

成績評価の方法

年間4回程度のレポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参 考 書 等

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

そ の 他

実習の他、ビデオ教材等も活用する。それらを通して、教育方法についても考えていきたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	こく がん まり こ 国 眼 眞 理 子	教 職 2 必 (国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

教育の場における生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで役立つ基礎的な視点を育むことをねらいとする。

講義の内容・  
授業スケジュール

前半は教科書を用いて、心理学の基礎的な考え方を習得する。

1. われわれの世界の捉え方 (知覚)
2. 記憶や学習のメカニズム
3. 発達のメカニズムとその可能性
4. パーソナリティとは何か、その捉え方

後半は、前半で学んだ基礎知識をもとに、「青年期」理解を深めるとともに、教師と生徒間のコミュニケーションのあり方を考える。

1. 「青年期」と、その心理的な課題 (アイデンティティ形成)
2. 自己のアイデンティティを探る
3. 自己意識の発達
4. 自己の発達と対人関係 (親子関係、友人関係、その他)
5. 進路選択とアイデンティティ形成
6. サポーターとしての教師の役割 (「共感的理解」とは何か)
7. コミュニケーション (非言語的なコミュニケーション、アサーションなど)

成績評価の方法

指定図書5冊の本の中から、3冊を選び、レポート提出  
前期終了時に小テストを実施  
後期終了時にレポートもしくは試験を実施 (受講者数による)

教 科 書

磯貝芳郎・下山剛編『心理学』鷹書房 1996

参 考 書 等

- ① 河合隼雄『カウンセリングを考える (上)』創元社 1995
- ② 菅佐和子『思春期女性の心理療法』創元社 1988
- ③ 清水将之『思春期のこころ』日本放送出版会 1996

科目名	担当者名	配当学年	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	すみの 角野 せん 善し じ 司	教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理 ・経済商・法律・政治・経営)	4

#### 講義のねらい

教育心理学は、教育場面对して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、心理学的な観点から考えようとするものです。

この講義で学び、そして考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと思います。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

以下の3つを中心テーマとして進めます。

- ①発達：人間の生涯にわたる発達について
- ②教授－学習：生徒の学習について、および学習に対する教授過程について
- ③測定・評価：教育場面における評価の目的やあり方について

#### 履修上の留意点

自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席し、主体的な態度で臨んでください。出席回数が一定基準に達しない場合には、単位を付与しません。

#### 成績評価の方法

出席点1割、平常課題の提出状況1割、前期・後期末のテスト3割、夏季・冬期休暇時のレポート5割の配点で、評価します。

#### 教 科 書

指定しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

#### 参 考 書 等

子安増生ほか『ベーシック現代心理学6 教育心理学』有斐閣  
この他、講義の進行に合わせて、適時紹介します。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	えん どう 遠 藤 つかさ 司	教職 2 必 (法律・政治)	4

講義のねらい

現在の教育に関する諸問題を考えるとき、心理学の様々な知見が影響力を持ち得ていることに気づかざるをえない。その様子を概観し、将来、教職に就こうとしている人間として、教育心理学的なもの見方とはどのようなものであるのか考えることを通して、自分なりの見方を確立することをテーマとする。

講義の内容・  
授業スケジュール

教育心理学の中での主要なテーマを概観することが講義の主となる。中でも、「自己」の問題をテーマとして取り上げ、教育心理学の中で、「自己の成り立ち」、「自己と他者」等の問題がどのように考えられてきたかを見ながら、具体的な現象から考えていくこととしたい。また、「学習」の問題にも注目し、教育心理学の中で「学ぶ」ことをどのように考えてきたか、それに伴って「教える」ことをどのように考えてきたかを見直し、「評価」の問題、「教師-生徒関係のあり方」等の問題にも触れつつ、現在の学校において「学ぶ」ということを改めて問いなおしていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書等

参考書等については授業中に随時紹介する。

その他

講義が中心になることは否めないが、ビデオ等を用い、できるだけ実際の場面などを見ながら、実践に即して様々な問題について考える機会を作りたい。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	おお はま きくこ 大 浜 幾久子	教職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文)	4

講義の内容・  
授業スケジュール

はじめに青年期に限らず、人間の発達とは何か、について考える。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を検討していく。また、性格テストなどの実習や、基礎的な研究実習も可能な限り行っていきたい。

履修上の留意点

実習の機会を活かすためにも、毎回の講義への出席を大切にしてほしい。

成績評価の方法

年間4回程度のリポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参考書等

参考資料については随時、準備し指示する。また、ビデオ教材なども活用していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	教 職 2 必 (国文・英米文・地理・歴史・ 社会・福祉・心理)	4

#### 講義のねらい

中学生になる頃から急速な体の成長や生理的変化を迎える。この第二次性徴をもって青年期が始まる。身体的な変化は内面的な変化を引き起こす訳だが、必ずしも良い方向への変化ばかりではなく悪くなることもある。良い方向への変化にしても、その経過は必ずしも順調に行くとは限らない。ともかく問題の多い時期である。そのことは新聞やテレビの報道を見てもよく分る。こういった青年期の特徴を理解するのが、この講義の第一の目的である。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

- ①青年(期)について(発達段階、ライフサイクルの中での青年、歴史・文化的所産)
  - ②体と心の発達(第二次性徴、思春期危機)
  - ③自己意識(自我～自己同一性)
  - ④親子関係～対人関係(愛着、人見知り等)
  - ⑤人格・性格(代表的な理論、自己愛)
  - ⑥友達・仲間(近隣、学校、社会)
  - ⑦若者文化(移り変わり、流行、風俗)
  - ⑧性・恋愛(性意識・性行動、恋愛の発達)
  - ⑨逸脱行動(非行・犯罪、道徳意識)
  - ⑩心の病気(種類と症状、病理、背景)
  - ⑪不登校(病理、背景要因、対処法)
- 大体以上の様なスケジュールで前期が終わる。後期はトピックや事件等をテーマにしながら講義をしたり学生に色々書いてもらったりしている。

#### 成績評価の方法

- ①前期末と後期末に筆記試験を行なう。
- ②夏休みに別途課題が出る。
- ③不定期に小テストがある。特に後期に小論文テストが数回ある。
- ④以上を総合して最終的な評価が出る。

#### 教 科 書

特に指定されたものはない。講義の時にプリント・資料が配布される。文献は適宜紹介する。時折体験的な心理テスト等を行なったりする(評価に際して若干考慮される)。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	こみやま 小宮山 かなめ 要	教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

- 1 中学・高校の教師になるために必要不可欠な青年心理学についての知識と、今日の中学生や高校生が示している、いろいろな問題行動についての理解とその指導法を習得する。
- 2 現在青年期の中にある大学生自身の自己理解を深め、対人関係能力の向上と社会性の発達に役立てる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1 青年心理学の目的、課題、方法、問題点
- 2 中・高校生の問題行動の様相
- 3 青年理解と適応指導
- 4 人間関係の展開と改善
- 5 青年期の危機とのりこえ

成績評価の方法

授業中の小テスト 60%、レポート 40%

そ の 他

授業は主として講義形式とするが、課題に対する発表討議等も加える。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	つお 常 田 ひで 子	教 職 2 必 ( 経 済 ・ 商 ・ 法 律 政 治 ・ 経 営 )	4

#### 講義のねらい

青年期とは児童から成人への移行の時期である。身体的にも精神的にも、また社会的にも大きな変化が起きる「疾風怒涛の時代」といわれる。この、変化に富んでいるとされる青年期の心理的な発達の特徴について、様々な側面から検討することを、本講義の目的とする。

本講義では、最近注目されつつある生涯発達心理学的視点に立つ。すなわち、人間の人生全体の中に青年期を位置づけながら、乳幼児期・児童期が青年期にどのような影響を与えるか、青年期がその後成人期・老年期にどのような影響を与えるかについて考えたい。

なお、本講義は、教員免許・社会教育主事資格取得のために必要な単位であるが、単にこれらの仕事の対象者としての「青年」の心理を理解するためのものとするのではなく、それと同時に、自分や自分の仲間を理解することをも目標としたい。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

前期：テキストを参照しながら、人間発達の全体像を把握しつつ、青年期の心理の特徴について知る。

後期：いくつかのトピックを選択し、複数の側面から青年期の発達の特徴についての論議を行う。トピックは受講生の興味に応じて決定する。

- a) 現代青年の対人関係
- b) 性的発達や性役割意識の発達
- c) 青年期の学校文化への適応

などのトピックを想定している。また、必要に応じ、講義形式の授業も行う。

#### 履修上の留意点

受講生の多くが現代青年であると考えられることもあり、授業では、できるだけ受講生の経験や意見も資料として用いながら行いたい。そのため、授業は、ゼミや討論形式を多用する予定である。

なお、科目履修については、単に授業に参加すればよいというのではなく、議論への積極的な参加が必要条件となる。

ただし、ある授業での議論は、それ以前の授業への参加が前提となっていると共に、それ以降の授業の基盤となる。そのため、授業への気紛れな欠席は、その学生にとって出席した授業の効果を半減させるだけでなく、それ以外の受講生にとっての迷惑にもなることを肝に命じたうえで、授業の選択をして欲しい。

#### 成績評価の方法

成績は以下の点を考慮して評価する。

- (1) 授業への出席状況
  - (2) 授業への参加状況
  - (3) ゼミ発表の内容
  - (4) 夏休み、および学年末のレポートの内容。
- 特に、(2)(4)を重視します。

#### 教 科 書

神谷美恵子『こころの旅』みすず書房 1,545円

#### 参 考 書 等

授業中に随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
道徳教育の研究 (前期) (後期)	なかのめ 中野目直明	教職2・3必	2

講義のねらい

道徳および道徳教育の本質、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題等を明らかにし、新しい道徳教育のあり方を考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ①道徳および道徳教育の本質   | ②現代社会と道徳教育       |
| ③戦前の道徳教育        | ④戦後における道徳教育      |
| ⑤道徳性の発達と道徳教育    | ⑥学習指導要領と道徳教育     |
| ⑦道徳の時間における道徳教育  | ⑧道徳教育と学校・学年・学級経営 |
| ⑨道徳教育と生徒指導・特別活動 | ⑩道徳教育の評価         |
| ⑪道徳教育をめぐる諸問題    |                  |

履修上の留意点

講義に積極的に参加し、研究発表は十分に学習して実施し、レポートは必ず提出すること。

成績評価の方法

出席状況、研究発表、レポート提出、試験により総合的に判定する。

教科書

中野目直明、小川一郎編著『新しい道徳教育』 酒井書店 2,000円

その他

授業の方法として、講義を中心とするが、学生の研究発表を取り入れて、それぞれの学生が選択したテーマについて研究したことを講義のとき発表させる。研究発表、レポートは、成績評価の重要な資料となる。

科目名	担当者名	配当学年	単位
道徳教育の研究 (前期) (後期)	はら 原 ぐち もり 口 盛 次	教職2・3必	2

講義のねらい

小・中学校においては、教育課程の一領域として、また、高校においては学校の教育計画の一環に位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、道徳教育の歴史や理念、民主主義社会における道徳観、及び学校教育における道徳教育の在り方などについて探究する。更に、教師としての指導力や実践力を身につけるために道徳の年間指導計画や1単位時間の指導計画（道徳学習指導案）などについて、実際に立案し具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ①道徳と道徳教育 ②日本における道徳教育の変遷 ③道徳教育の基礎的な理念 ④道徳教育の目標と内容 ⑤道徳教育の方法論 ⑥道徳の時間の指導内容 ⑦道徳の時間の指導方法 ⑧道徳教育における評価の在り方 ⑨道徳教育に関する研修 ⑩学級経営と道徳教育 ⑪学校、家庭、社会における道徳教育と相互の連携 ⑫道徳教育上の諸問題と今後の課題

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、道徳の具体的な指導の内容や方法について、理解し、実際に指導できる能力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し、評価する。

教科書

- ①教師養成研究会編『道徳教育の研究』新訂版 学芸図書株式会社 1,000円  
②文部省『中学校指導書道徳編』 大蔵省印刷局 210円

参考書等

- ①教員養成基礎教養研究会編『新訂 道徳教育の研究』 教育出版 1,800円

その他

講義及び指導計画、指導案の立案等。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
特 別 活 動 (前 期) (後 期)	なか の め 中野目 直 明	教 職 2・3 必	2

講義のねらい

将来、中学校や高校の教師として、特別活動を指導するに際して必要とされる知識や技能について講義する。講義の学問、研究的背景として、人間関係論、心理学、生徒指導論、教育相談、進路指導、教育経営学の各分野にわたる学問や研究の成果を活用する。

講義の内容・授業スケジュール

- ①これからの学校教育と特別活動の意義
- ②特別活動の変遷
- ③特別活動の特質と目標、内容
- ④指導計画・指導案の作成
- ⑤学級活動、ホームルーム活動の指導
- ⑥児童会、生徒会活動の指導
- ⑦クラブ活動、部活動の指導
- ⑧学校行事の指導
- ⑨特別活動の評価
- ⑩特別活動と学級・学年・学校経営
- ⑪学校週5日制時代における家庭、地域との関わり
- ⑫これからの特別活動の展望と課題

履修上の留意点

講義に積極的に参加し、研究発表は十分に学習して実施し、レポートは必ず提出すること。

成績評価の方法

出席状況、研究発表、レポート提出、試験により総合的に判定する。

教科書

中野目直明、小川一郎編著『現代の特別活動 理論と実践』酒井書店 2,000円

参考書等

特になし。

その他

授業の方法として、講義を中心とするが、学生の研究発表をとり入れて、それぞれの学生が選択したテーマについて研究したことを講義のとき発表させる。これをレポートにまとめて提出させ、成績評価の対象とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
特 別 活 動 (前 期) (後 期)	はら ぐち もり し 原 口 盛 次	教 職 2・3 必	2

講義のねらい

小・中・高校の教育課程の一領域である「特別活動」の教育的意義や目標、内容、及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、理論的な研究の面では、特別活動の指導理念や方法原理について、生徒指導のそれとの関連を図った研究を行う。また、実践的な面では、特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導計画の作成、及び指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- ①学校教育と教育過程
- ②生き方教育をめざす教育改革と特別活動
- ③特別活動の目標と特質
- ④特別活動の内容と特質
- ⑤指導計画の作成と活動内容の取り扱い方
- ⑥特別活動の指導の実際
- ⑦特別活動と生徒指導
- ⑧特別活動と学校・学年・学級経営
- ⑨特別活動の指導組織とその改善
- ⑩研修組織と活動の充実
- ⑪特別活動の評価
- ⑫特別活動の今後の課題

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、方法等についての研究を深め、教師としての実践力、指導力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教科書

- ①高橋哲夫・原口盛次・井上裕吉編『特別活動研究』教育出版 1,900円
- ②文部省『中学校指導書特別活動編』ぎょうせい 80円

参考書等

宇留田敬一著『特別活動論』第一法規 1,800円 他

その他

講義及び年間指導計画、指導案の作成。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 活 指 導 ( 前 期 ) ( 後 期 )	えん とう 遠 藤 つかさ 司	教 職 2 ・ 3 必	2

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとする人間として、生徒（他者）の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生活指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・  
授業スケジュール

「学校における問題行動とは何か」、「不登校問題はどのような視点から考えるべきか」などの問いについて考えることを通して、学校の中で適応的に生きることができない人に対して、教師としてどのような態度でのぞむかを考える。特に、現在の学校において様々な意味において不適応状態となっている人たちに対して、そのような状態にある生徒に対して、自分はどのような態度でのぞむかを考えることを通して、最終的には自分自身の生活指導観を問いなおしていくことにつなげていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験を予定している。

参 考 書 等

参考書等については授業中随時紹介する。特定の教科書は用いない。

そ の 他

講義中心になることは否めないが、様々な問いを呈示し、それらに対して自らの考えに基づいて書いて答えるという機会をできるだけ多く作りたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 活 指 導 ( 前 期 ) ( 後 期 )	さ とう なお と 佐 藤 尚 人	教 職 2 ・ 3 必	2

講義のねらい

学校教育において、教科の学習や集団生活への参加が、一人ひとりの児童生徒でスムーズにいくよう指導することを教師は求められる。しかしながら、子どもは決して等質・均一存在ではない。画一化された教師の指導方法や対応では日々起こりうる種々の問題の解決がうまくいかない、あるいはむしろ問題を引き起こしてしまうことすらあるであろう。

本授業では、昨今教育問題として取り上げられる機会の多い「いじめ」「不登校」「非行」などについて、そのような問題行動を示す子どものこころのありようの理解や対応の仕方、さらには問題行動を未然に防ぐための教師としての心構えなどを考えてゆく。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1 X はじめに 学校教育の歴史と目的 教師のなすべきこと
- 2 X 子どもの理解 問題行動について医学的・工学的な理解と教育的な理解
- 3 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その1)
- 4 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その2)
- 5 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その3)
- 6 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その4)
- 7 X さまざまな問題行動とその理解「いじめ」
- 8 X さまざまな問題行動とその理解「不登校」
- 9 X さまざまな問題行動とその理解「非行」
- 10 X こころの病・不適応「神経症」「精神病」
- 11 X 問題行動への対応の方法「学習理論にもとづくもの」
- 12 X 問題行動への対応の方法「心理療法にもとづくもの」
- 13 X まとめ 生活指導において大切なこと

履修上の留意点

原則として出席はとらないが単位を取得することを希望する学生は毎回出席すること。さらに、授業中に質問や意見などを積極的に表現することが望ましい。

参加学生に対してはすべて公平にあつかう。(さまざまな事情があっても特別扱いはいしない。)

成績評価の方法

原則として定期の筆記試験(ノート等の持ち込みは一切不可)の結果により成績を評価する。ただし、授業中の発言(質問・意見)や宿題等の課題の提出を試験の成績にプラスして評価する。

教 科 書

特に使用しない。講義ノートをもとに授業を進めてゆく。

参 考 書 等

大貫・佐々木編著『心の健康と適応』 福村出版 2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 科 教 育 法	こ 小 やま 山 かず 一 のり 乗	教 職 3 必 ( 禪 ・ 仏 教 )	4

#### 講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。  
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。  
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。  
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。  
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。  
 宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

『仏教概論——分かりやすい仏教——』をテキストにして、原則として模擬授業（50分）を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらう。  
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

#### 履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

#### 成績評価の方法

年度末定期筆記試験、模擬授業、中間レポート、出席点などにより評価する。特に出席を重視する。

#### 教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとのおしえ方、評価の観点——』  
 宣協社 ￥2,940  
 『仏教概論——分かりやすい仏教——』 曹洞宗宗務庁 ￥800  
 小中高各『学習指導要領』 各 ￥230 ￥250 ￥370  
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』 大法輪閣 ￥1,600  
 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店 ￥1,020  
 『教育小六法』 学陽書房 ￥2,200

#### 参考書等

井上順孝監修『宗教教育資料集』 すずき出版 ￥3,900  
 『宗教教育の理論と実際』 鈴木出版 1985年  
 その他適宜紹介する。

#### その他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業（演習）を折衷した形態となろう。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。なお可能なら、受講生と調整の上で調査見学もしたい。  
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国語科教育法	かみやちのり 神谷道倫	教職3必 (国文)	4

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のものの提出と、実際の教材による模擬授業の形式(グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加)で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。(なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。)

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教科書

全国大学国語教育学会編 新中学校・高等学校『国語科教育研究』学芸図書株式会社  
¥1,300+消費税

参考書等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
書道科教育法	なすたかよし 那須隆吉	教職3必 (国文)	4

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教科書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』教育図書(株)  
990円

参考書等

随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 語 科 教 育 法	さ とう しん じ 佐 藤 真 二	教 職 3 必 ( 英 米 文 )	4

#### 講義のねらい

中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに、実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

主に取り上げる内容は以下のとおりである。

- 1) 英語科教育の目標
- 2) 主な教授法（文法訳読式教授法、直接教授法、オーラル・メソッド、グレイデッド・ダイレクト・メソッド、オーラル・アプローチ、認知学習理論、ヒューマンスティック・アプローチ、コミュニカティブ・アプローチ）
- 3) 言語材料と指導（音声、文字、文法、語彙）
- 4) 言語活動（聞く、話す、読む、書く）
- 5) 授業の展開（授業計画、授業の構成、指導案、中学校の授業、高等学校の授業）
- 6) 指導形態（一斉指導、グループ指導、ペア指導、個別指導、学習習熟度別指導、ネイティブ・スピーカーとのティーム・ティーチング）
- 7) 評価とテスト
- 8) 教具・視聴覚機器（ピクチャー・カード、フラッシュ・カード、OHP、テープ・レコーダー、LL、VTRなど）
- 9) 教師と学習者

#### 履修上の留意点

自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

#### 成績評価の方法

試験、レポートのほか、授業内の発表も評価に加える。

#### 教 科 書

塩沢利雄他著『新英語科教育の展開』 英潮社

#### 参 考 書 等

教場において指示する。

#### そ の 他

授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習してまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し、教えることに馴染んで欲しいと願う。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・地理歴史科教育法	くぼ た 久保田 たけし 武	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学社会科（特に地理的分野）、高校地歴科（特に地理）を教えるにあたって必要な知識と技法の修得。教科の目標と暗記科目にならない教授法と教授内容構成の考察。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、系統地理、地誌、地域史を取り上げ  
 ①生徒の興味・関心を増し学力を向上させる教授内容構成と指導例を示す。  
 ②生徒の学力評価法、生徒による教授者評価を利用する自己評価法を示す。  
 ③一部学生による発表（モデル）授業の実施。  
 授業のスケジュールとしては、  
 ①前期は講義と関連事項の質疑・実習等。  
 ②後期はそれに加えて、一部学生による発表時間を設ける。

履修上の留意点

授業の終わりに毎回授業内容、作業・実習のまとめを行ない提出を求め、出欠調査に代える。提出物は添削（質問・意見には回答）のうえ次回に返却。

成績評価の方法

定期試験、毎時間後の提出物、授業への参加意欲と実績（意見、発表等）、出席回数を総合して評価。出席回数不足の場合は単位認定はしない。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の際に紹介する。但し地理、歴史、社会科教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料、文部省学習指導要領（地歴編、社会編）等はこの際揃え、随時持参、参照した方がよい。特に地図帳は毎回持参した方がよい。

その他

OHP、スライド、ビデオ等の視聴覚機材をできるだけ使用するよう努める。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・地理歴史科教育法	さくら い あま ひさ 桜井 明 久	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学校社会科、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理分野、地理A、Bを例に概説する。

講義の内容・授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。  
 ①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫 ④指導案の作成  
 ⑤模擬授業 ⑥授業の研究と方法 ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

各自マイクロティーチングを試み、個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されないの、注意すること。それが避けられない場合は、事前に連絡すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など60点  
 夏休みレポート10点 期末試験30点

教科書

高橋・溝尾編『地理学講座6 応用と実践』古今書院 ￥2,800  
 浅黄谷・関編『社会・地歴科通論』南窓社 ￥2,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・地理歴史科教育法	ふじ 藤 木 き まさ くに 正 国	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学校社会科（特に歴史的分野）・高等学校地歴科（特に日本史）の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・授業スケジュール

前期は講義を中心とする。  
 ①社会科成立の事情とその理念  
 ②学習指導要領の変遷と地歴科成立のいきさつ  
 ③学習指導計画と指導案の作成  
 ④評価の考え方とその方法  
 ⑤社会科をめぐる諸問題の考察  
 後期はグループ別に模擬授業を実施する。

履修上の留意点

受講する以上は、教員を目指し努力すること。安易な単位取得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。

成績評価の方法

年間を通じての出席状況、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参考書等

文部省学習指導要領、中・高教科書（必要に応じて授業時に紹介する）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・公民科教育法	はし 橋 つめ さとし 敏	教 職 3 必	4

講義のねらい

この授業は、社会科・公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能な形式で行ないたい。したがって、受講学生数によって、その方法は変わらざる得ない少人数（15名位迄）の場合は社会科・公民科に関わる文献講読を主としたい。15名以上の受講生の場合は、学生自身の自主研究の発表を主にしたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

成績の評価は、前期・後期のレポート提出ならびに普段の研究報告、授業参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

教科書は、文献講読の場合は、授業開始後に指示する。

参考書等

参考書等は適宜、授業中に紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会科・公民科教育法	谷 敷 正 光 やしきただみつ	教 職 3 必	4

#### 講義のねらい

社会科は民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと言っても過言ではない教科である。この社会科教育も戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を再編し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

この授業のねらいは、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か社会教育とは何か」といったところまでさかのぼって検討してあることにある。その上で、社会科教育の歴史、社会科教育の基本原理とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 社会科学習指導案の意義と作成
9. ビデオによる社会科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模範授業を通じての社会科の学習指導、授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
14. 教育評価
15. 社会科教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 社会科教師と教員採用試験  
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

#### 履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

#### 成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

#### 教科書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』梓出版

#### 参考書等

社会科・公民科の『教科書』、『中学校・高等学校学習指導要領』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・公民科教育法	まえ 前 だ ひで 田 英 昭	教 職 3 必	4

講義のねらい

社会科・公民科教員免許の修得に必要な教育科目指導の実践方法を指導する。具体的には教育実習に備えた模擬授業の準備と実施に重点を置く。

講義の内容・  
授業スケジュール

最初に教育実習に関する予備知識を勉強する。次に、4年で参加する学校の教育実習の前に、大学の教室内で模擬授業を行う。スライドによる教育実習を視聴する。履修者は必ず、模擬授業のため、教科書の中から指導課題を自由に選び、その教案を作成し、期限内に提出し、教案内容の指導を受ける。教案提出者は、模擬授業の期日の指定を受ける。模擬授業は30分間を基準とする。模擬授業の結果について、教師と学生で話し合う。

履修上の留意点

出席重視。無断の遅刻・欠席の多い者は教師に不適格である。

成績評価の方法

出席と模擬授業重視。模擬授業を行わない者には、原則として、単位の認定を認めない。

教 科 書

特に使用しない。

参 考 書 等

授業時に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 科 教 育 法	や し き た だ み つ 谷 敷 正 光	教 職 3 必 (経済・商・経営)	4

#### 講義のねらい

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「職業科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

1. 日本経済の発展と産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. ビデオによる商業科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科の学習指導、授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験  
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

#### 履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

#### 成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

#### 教科書

岡田修二他『新商業教育論』多賀出版

#### 参考書等

高等学校商業科の『教科書』、『高等学校学習指導要領』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
職 業 科 教 育 法	ま え だ ゆ き か ず 前 田 幸 一	教 職 3 必 ( 経 済 ・ 商 )	4

講義のねらい

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- ① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
  - ② 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。
  - ③ 職業教育について考えていく。
- ①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。

履修上の留意点

自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。

教 科 書

『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際指示します。

参 考 書 等

中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。

そ の 他

授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	と よ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	教 職 4 必 ( 禅 ・ 仏 教 ・ 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理 )	3

講義の内容・  
授業スケジュール

- 事前指導——・実習の心がまえ  
・生徒指導について  
・教科指導について  
・指導案作成  
・模擬授業
- 訪問指導——・研究授業訪問指導
- 事後指導——・授業実習の検討（ビデオ検討）

教 科 書

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 4 必 (国文・法律・政治・経営)	3

講義のねらい

失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導（教育）も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成（提出）、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か—どうあるべきか—について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告（口頭報告）及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント（感想）、④年度末試験（または、課題レポート）によって、総合的に評価します。なお、①～④について重視する度合は、全て同グレードに考えています。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』 宣協社 ¥1,500

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』 学文社 ¥1,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	い とう しげ き 伊 藤 茂 樹	教 職 4 必 (英米文・歴史)	3

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関して一般的な講義を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書

特になし。

参考書等

授業の中で適宜指示・紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	きたむらみつこ子 北村三子	教 職 4 必 (地理・経済・商)	3

講義のねらい

二週間にわたって行なわれる中学・高校での実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ、教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後、その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な諸注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自、よくやること。後半は、積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

文献・資料については、話し合いの上決定。

そ の 他

講義、ビデオ、討論など。



## (2) 教職に関する専門科目（選択）

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育関係法規	ひろさわ 広 沢 明	教職2選	4

### 講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

### 講義の内容・授業スケジュール

1. 校則(1) — 丸刈訴訟
2. 校則(2) — バイク裁判
3. 校則(3) — 生徒会
4. 懲戒(1) — 退学・停学
5. 懲戒(2) — 体罰・精神罰
6. 教育情報(1) — 家庭環境調査書
7. 教育情報(2) — 内申書・指導要録
8. 教育と宗教(1) — 日曜日訴訟
9. 教育と宗教(2) — エホバの証人事件
10. 日の丸・君が代
11. 教科書裁判(1) — 検定の事実
12. 教科書裁判(2) — 法律上の争点
13. 戦後教育政策の変遷
14. 教育と平等(1) — 民族教育
15. 教育と平等(2) — 性差別
16. 教育と平等(3) — 障害児
17. 義務教育（登校拒否を含む）
18. いじめ

### 履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

### 成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

### 教科書

広沢明『憲法と子どもの権利条約』 エイデル研究所 ¥2,800

### 参考書等

授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育評価	おおはま 大 浜 幾 久 子	教職2・3・4選	4

### 講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

### 講義の内容・授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究手法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

### 履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

### 成績評価の方法

平常点による。

### 参考書等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育法規研究	かん だ おさむ 神 田 修	教職2・3・4選	4

講義のねらい

こんにち教育をめぐる様々な問題が起こっていますが、他方21世紀へ向けて教育改革が提起されています。教育問題といえば、たとえば“いじめ”、不登校、登校拒否或いは体罰のほか教師や教育行政のあり方など多面にわたってみられます。こうした教育問題や改革について、教育法ないし法規の見地から考えてみるべきことが少なからずあります。この講義では、こうした教育と法をめぐる問題について基本的な理解や考え方を身につけることを目指して、体系的な学習をします。

講義の内容・授業スケジュール

教育法、教育法規とは何か、その基本原理、歴史などを学んだ後、学校のあり方や組織、その運営、教育課程、学習指導要領、教育行財政、教師の地位や権利、さらには社会教育、生涯学習行政などについて学びます。講義は具体的な問題をとり上げながら、やさしく、わかり易く進めます。受講者は、この機会に教育法、法規について研究してみませんか。その手助けをするつもりで講義を行います。

成績評価の方法

成績評価はレポートにより実施する予定です。

教科書

- ①神田・兼子編著『ホーンブック教育法』1995年 北樹出版 ¥2,200  
 ②『解説教育六法』1998年版 三省堂 ¥2,400

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育哲学	しお み とし ゆき 汐 見 稔 幸	教職2・3・4選	4

講義のねらい

小人数で、教育や子どものこと、今の時代のこと、自分の育てられ方のこと、これからの生き方のこと、等々をじっくりと議論し合ってみませんか。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は自由なゼミ形式で、もう十年以上続いています。参加者の問題関心や興味を出し合い、それにもとづいてテキストやゼミの進め方を決め、報告とざっくばらんな討議をくり返してきました。

参加者の中に四年生が多かったこともあって、採用試験や卒論にさし障りのないように、何回か合宿のような形で行なうことが多かったのですが、本年度もそうするか、参加者の様子をうかがいながら決めます。

教育の問題を少しつつこんで考えてみたい、自分の生き方のヒントを得てみたいと思っている人は一度顔を出してみてください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育情報学	お 倉 やす 小 倉 康 仁	教職2・3・4選	4

講義のねらい

今日の情報化社会における教育分野でのコンピュータ利用方法・形態について、教育学の視点から理論的に考察する。また普遍性のあるソフトウェアを使用して、教育現場で必要とされる実践的なコンピュータ（パソコン）活用能力およびセンスの育成を行う。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行い、講義と実習を適宜組み合わせる。前期の授業内容としては、以下のものを予定している。コンピュータの基礎知識〔講義〕、パソコン（Macintosh）の基本操作〔実習〕、教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理〔講義〕、ワープロソフトの基本操作〔実習〕、表計算ソフトの基本操作〔実習〕、CAI（Computer Assisted Instruction）ソフトおよびCAL（Computer Assisted Learning）ソフトの活用方法について〔講義と実習〕後期の授業内容としては、以下のものを予定している。ネットワークコンピューティング（LAN、パソコン通信、インターネットなど）と教育〔講義〕、CSCW（Computer Supported Cooperative Work）と教育〔講義〕、HTMLによるハイパーテキスト（ホームページ）作成の実際〔実習〕、各種CD-ROMソフトの活用方法について〔講義と実習〕

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する

成績評価の方法

ペーパーテストは行わずに、平常点（出欠、学習態度）と提出物（レポート、課題作品）によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリントを利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

使用するパソコンは、Macintosh（Power Mac）のみを用いる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育臨床心理学	む た たか お 牟 田 隆 郎	教職2・3・4選	4

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解説を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教科書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 社 会 学	くまがいのり 熊谷一乗	教職2・3・4選	4

講義のねらい

教育は、社会に根ざす作用であり、社会生活の重要な部分をなしている。それは、一定の社会的環のなかで、家庭・学校・地域社会・国家・企業体などとの密接な関係のもとに行われる。教育社会学は、この点に注目し、人間の発達と教育をめぐる社会的な要因の相互作用を明らかにする学問である。この学問がめざすところは、どのように社会的要因の作用を受けて教育が行われ人間が成長し発達するか、また教育の成果、人間の発達の結果がどのように社会に作用し、これを形成するかを明らかにして教育のための社会的条件の向上をはかることである。それは、教育の政策立案、経営、そして実践のレベルを高めることに役立つことを目的としている。よい教育を行なうためには、教育と社会との関係、教育の社会的条件、教育の社会的性質・過程を十分に知らなければならない。教育と社会との関係を知れば知るほど、教育についてより深い理解を得ることができる。

講義の内容・授業スケジュール

- 以上のような趣旨のもとに講義は、次のようなテーマとスケジュールのもとに、行われる。
- (1) 人間の発達過程における特徴と社会的環境（人間の発達、形成におけるキーワードとしての社会と文化、人間の発達特性からみた教育のポイント）＝4～5月
  - (2) 人間の発達を条件づける社会的文化的要因（人間の発達における制度・規範の意味、理念・思想の役割、家庭・地域社会の役割）＝5～6月
  - (3) 集団と教育との関係（集団によりどころをおく人間の生活と教育、集団の通過と遍歴、集団の構造と教育力、集団の力学）＝6～7月
  - (4) 家庭の教育力と子供の発達（家庭の教育力の限界、社会的環境の変化と家族の役割の変質、家庭教育の危機）＝9～10月
  - (5) 学校化社会の現実と問題＝10～11月
  - (6) 政治・経済の動向と教育＝11～12月
  - (7) 地域社会と教育＝12～1月
  - (8) マスメディアと教育＝1月

成績評価の方法

学年末の試験と成績による

参 考 書 等

熊谷一乗『子どもの発達と社会』東信堂  
麻生誠・小林文人・松本良夫編『学校の社会学』学文社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 史	きたむらみつこ 北村三子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

若者の生き方は時代とともに変わっていく。今日すべての人が通過すると思われる「青年期」でさえ、近代社会に出現した人生段階に過ぎない。この授業では、「青年期」や「青年」と呼ばれる存在とはいったい何なのかを検討してみたい。またそうすることを通して、今日の私たちが自然や他人や自分との間にとり結んでいる関係のありかたが問い直されることになるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

導入として若者史の問題意識についてふれた後、近代日本における「青年」や「青年期」の誕生をめぐる経緯を検討する。また、それらの誕生は、日本では学校制度の普及と関係が深いので、就学を促進する要因となった学歴社会の歴史的成立についても検討したい。

履修上の留意点

教育史のいわゆる「教科書」を授業で扱うことはないが、文献などに関して個別の相談には応じたい。授業は毎回レポーターを決め、文献の内容の要約を発表後、質問や討議をする予定である。

成績評価の方法

平常点。ただし発表回数が少ない場合には、レポート提出もあろう。

教 科 書

天野郁夫『学歴の社会史——教育と日本の近代——』新潮選書 1992年 1,100円  
北村三子『近代と青年 青年と青年をめぐる言説の系譜学』世織書房 1997年 2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 調 査	すずき のりお 鈴 木 規 夫	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教科書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参考書等

特に指定しない。

その他

授業は討論中心の形態をとる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
芸 術 教 育	か がわ よし しげ 香 川 良 成	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』 東京書籍、菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』 大月書店

その他

現在行われている演劇教育（“劇あそび” その他）の様相や実際の舞台をビデオで観たり、実際観劇するというも行いたいと思っています。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代社会の諸問題と教育	くま かい かず のり 熊 谷 一 乗	教職2・3・4選	4

#### 講義のねらい

わたしたちが生をいとなむ現代の社会は、解決の難しい問題に充ちている。科学技術の進歩に支えられた産業の高度な発展は、人々に豊かさと便利さという明るい「光」を与える一方で、人間疎外の進行・環境問題・エネルギー問題など厄介な暗い「陰」を落している。いま、教育の在り方は、この「光」と「陰」の影響を受けて激しく揺れ動き、変革を迫られている。教育も社会の「光」と「陰」のもとで問題に充ちているのである。社会の諸問題を解決するためにはどのような教育が必要となるのか。また望ましい教育のために社会は、どのようにあるべきなのか、何をなすべきなのか—ここに授業実施の問題意識がある。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

以上の問題意識のもとに、授業は次ぎの小テーマにしたがって行われる。

- (1) 軍事占領下の社会的諸問題と教育改革（終戦にともなう社会諸問題と教育、第1次米国教育使節団報告書、教育基本法、学校教育法の成立など）－4～5月
- (2) 「冷戦」の激化にともなう社会的変化と「戦後教育」の転換（イデオロギーの対立・主権の回復と教育、「55年体制」の確立と教育の緊張、教育集権化の動向など）－5～6月
- (3) 高度経済成長にともなう諸問題と教育（経済のための“人づくり”、教育学資論の影響、豊かさのなかの非行問題、「期待される人間像」など）－6～7月
- (4) 高度経済成長以後の社会的変化と教育改革の提案（情報化と“第三の教育改革”など）－9～10月
- (5) 社会的変化にともなう生涯教育論の登場（P. ラングランの生涯教育論、社会教育審議会の答申など）－10～11月
- (6) 自由化の波と臨時教育審議会（新自由主義・保守主義と1980年代以降の教育政策、戦後日本の総決算と自由化、「臨教審」の設置など）－11月
- (7) 冷戦・55年体制の崩壊と「臨教審」以後の教育政策（変化する子供、文部省と日教組とのパートナーシップ、連立政権下の教育政策、第14・15・16期中教審答申と21世紀への教育改革など）－12～1月

#### 成績評価の方法

学年末の試験と出席状態による。

#### 教 科 書

教科書は使用せず。熊谷『現代教育制度論』学文社等を参考とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青少年問題研究	讃 岐 まさこ 真 佐 子	教職2・3・4選	4

#### 講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中の青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

#### 履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

#### 成績評価の方法

出席状況と定期試験の両方を考慮する。

#### 教科書

氏原寛・東山紘久編『発達とカウンセリング』  
別冊『発達』第18巻 ミネルヴァ書房 2,500円

#### 参考書等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』  
（『日本人の深層分析』第9巻と10巻）有斐閣
- ・季刊『仏教一特集癒し』No31 法蔵館 2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』 檢出版 『子どもの宇宙』 岩波新書386
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』 岩波書店 1,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 教 育	こ 小 やま かず のり 小 山 一 乗	教 職 2・3・4 選	4

#### 講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考(legal mind)、そこに看取れるいわゆる宗教的思考(religious mind)、教育的思考(educational mind)の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しきは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell(告げる)とteach(教える)との差異、<religious education>と<education about religion>との差異につき、教授概念を検討する。

#### 講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケアー等を粗上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

#### 履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

#### 成績評価の方法

年度末定期筆記試験、中間レポート、出席点、口頭発表等による。特に出席を重視する。

#### 教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』  
宣協社 ¥2,940  
小中高各『学習指導要領』 各¥230 ¥250 ¥370  
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』 大法輪閣 ¥1,600  
『教職教養ランナー』 ツ橋書店 ¥1,020  
『教育小六法』 学陽書房 ¥2,200

#### 参考書等

指定図書 → 『宗教教育の理論と実際』 鈴木出版 1985年  
土持ゲーリー法一著『米国教育使節団の研究』 玉川大学出版部 ¥9,785  
井上順孝監修『宗教教育資料集』 すずき出版 ¥3,900  
杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』 日本評論社  
参考図書 → Kyouko INOUE.1991.MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION.  
THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

#### その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。なお可能なら、受講生と調整の上で調査見学もしたい。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。



科目名	担当者名	配当学年	単位
生涯学習概論	豊田千代子	教職2・3・4選	4

(P.教63) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
視聴覚教育	飯森彬彦	教職2・3・4選	4

(P.教75) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育施設	酒匂一雄	教職2・3・4選	4

(P.教65) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学 I	山田節子	教職2・3・4選	4

(P.教59) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学 II	源昌久	教職2・3・4選	4

(P.教59) 参照

### (3) 教科に関する専門科目（必修）

【社会・地理・歴史・公民】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
東 洋 思 想 史	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう—これが本講義の目指すところである。

#### 講義の内容・授業スケジュール

今年度は、伊藤東涯『古今学変』・『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『古今学変』・『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は資料集の側面がある。この側面を利用して、漢文文化の思想言説の多様性を窺う。他面、『古今学変』は日本の「中国哲学史」の黎明期教科書とされたと伝えられる。日本の中国の思想史研究の原点とも言える。他方、『経史博論』は中国思想概論の原点と言える。中国思想史そのものの発生にも考察が及ぶなら幸いと考えている。

#### 履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

#### 成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。

1. 試験又はレポート（年1回以上）
2. 平常の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）
3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

#### 教 科 書

授業は講師が用意したプリントを用いる。  
参考書は適宜授業中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
美 術 史 概 説	なか しま りょう いち 中 島 亮 一	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

本来は日本の美術史を編年体で進めたいところであるが、時間の制約もあるので、古代から近代（明治）までの中から、それぞれの時代の代表作、標準作をえらび、その特徴や意図、時代背景など多角的に考察する。この講義が博物館学講座の一環を占めているので、自からの体験や実務も含め、スライドを多用しながら進めたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

日本美術史の古代から近代まで、建築・彫刻・絵画・工芸の中から代表作を選び、重点的にとり上げ、その芸術思潮をとらえる。

#### 履修上の留意点

各時代のテーマの講義の初めか終わりにはスライドを上映するが、各自の印象を確実にする意味でも、感想文を書いてもらい、それを平常点として評価に加算する。

#### 教 科 書

久野健他編『美術史〈日本〉』東京堂出版 2,000円

#### 参 考 書 等

適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
民間信仰論	谷口 貴	教職教科	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定で、筆記試験は実施しない。

教科書

とくに教科書を使用しないが、参考書として、桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、桜井徳太郎・他編『シャーマニズムとは何か』（春秋社）の3冊を紹介しておきたい。

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

科目名	担当者名	配当学年	単位
人文地理学概説	小池 とみ子	教職教科	4

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、地理学発達史・人文地理学と自然地理学・環境論・地域論などについて検討する。次に現代世界の概観をふまえた上で、人種・民族と国家、人口問題、産業立地と地域の変容などを柱として、世界各地が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら、概説を試みる。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教科書

教科書は特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参考書等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院 など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）  
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

その他

講義形式、ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
自然地理学概説	たか き まさ ひろ 高 木 正 博	教 職 教 科	4

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。  
近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・  
授業スケジュール

次の諸点について講ずる。  
1)河川や地下水の水量や水質など基本的特性について  
2)河川地形と水災害のかかわり、利水・自然環境など流域の自然と人々の関係について  
3)身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて  
場合によっては、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても説明する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休みに現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地形図や地図帳などが必要である。

成績評価の方法

学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。

教 科 書

授業時間にプリントを配布する。

参 考 書 等

地学団体研究会編『地球の水圏－海洋と陸水』 東海大学出版会  
その他随時紹介する。

そ の 他

講義中心。事例紹介のためのスライドやOHP、ビデオも使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
自然地理学概説	はや ふね げん ほう 早 船 元 峰	教 職 教 科	4

講義のねらい

人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して共に考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を、歴史的観点をふまえて、主に環境地誌学的立場から論じる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ・関東平野の地形発達史
- ・北海道本部の気候地形
- ・北海道美瑛町・富良野市における傾斜地の土地利用の変化と環境保全
- ・大気温・湖水温の垂直分布の季節的変化と人間とのかかわり
- ・その他

履修上の留意点

国土地理院の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（土地利用図・帯状平行投影地形断面図・切峰面図など）をして理解をより一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレス紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各人用意すること。

成績評価の方法

課題（地形図より主題図作成）・小テスト出席状況などによる平常点。

参 考 書 等

水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』 大明堂  
脇田武光・石原照敏編『観光開発と地域振興』 古今書院

科目名	担当者名	配当学年	単位
地誌学概説	かわもととよかず 川元豊和	教職教科	4

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教科書

特に定めず、プリントを配布する。

参考書等

白田雅之・佐藤宏・谷口哲吉編『もっと知りたいバングラデシュ』 弘文堂 1993 ¥2,800  
水島司編『アジア読本マレーシア』 河出書房新社 1993 ¥2,000

その他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

科目名	担当者名	配当学年	単位
地誌学概説	くぼた たけし 久保田 武	教職教科	4

講義のねらい

世界の諸地域について基礎的知識の修得と地域の理解。高校地歴科・中学校社会科の授業担当に必要な世界の諸地域の知識修得を兼ねる。その際暗記科目にしない教授法・内容構成を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては  
①世界の諸地域の地域学習  
②範例学習  
授業スケジュールは  
①前期は講義と関連事項のまとめ、実習、質疑、討議  
②後期は学生による発表時間を設ける

履修上の留意点

授業の終わりに毎回授業内容のまとめ、実習結果を提出させ出欠調査に代える。提出物は添削(質問・意見には回答)のうえ次回に返却。

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲と実績(発表等)、出席回数を総合して評価。出席回数不足の時は単位不認定。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の際に紹介する。但し地図帳、歴史年表、歴史地図、資料(特に統計)等は持参し参照した方がよい。特に地図帳。

その他

OHP、スライド、ビデオなどの視聴覚機材を出来るだけ使用したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 誌 学 概 説	す 須 やま さとし 山 聡	教 職 教 科	4

講義のねらい

「地域」を総合的に理解する方法としての地誌学の視点を受講者に提供する。具体的にはラテンアメリカ、とくにブラジル北東部を素材に、地域性把握のために必要な概念や方法論を講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前期はおもに地誌学の目的と基本概念を図上実験を交えて講義する。後期にはラテンアメリカにおける歴史的背景、政治と民族、産業基盤、都市と農村、といった総論的な内容と、ノルデステ地域の基本構造、文化的・経済的側面の講義を行う。

履修上の留意点

前期の講義をないがしろにすると、後期の内容が理解できなくなるおそれがある。積極的な参加を望む。

成績評価の方法

学年末試験（60%）、出席（40%）で評価するが、場合によってはレポートも課す。

教 科 書

適宣資料を配布する。

参 考 書 等

地図帳（高等学校で使用していたものでよしい）を持参されたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 仏 教 史	えん どう ひろ あき 遠 藤 廣 昭	教 職 教 科	4

講義のねらい

中世の仏教諸宗派の展開を、特に関東にスポットをあてて概観し、その過程を明らかにしていきたい。その中でも、地域社会とのかかわりを中心にするが、一見それとのかかわりの無いように見える「学僧」とよばれた僧侶の活動も詳述して見たい。

講義の内容・授業スケジュール

中世関東に展開する全宗派について一応概観を試みるが、中でも真言宗・曹洞宗については詳述する。なぜならば、関東においては、古代仏教諸宗では真言宗が最も多く展開し、鎌倉仏教では曹洞宗が最も展開をとげているからである。特に真言宗の展開の場合は、鎌倉・室町期を通して、京都・鎌倉との関係は無視できない部分がある。そのような視点から授業を進めて見たい。

履修上の留意点

講義内容はできるだけ黒板に板書するので書写すること。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験の結果を基本とするが、出席も重視する。

教 科 書

教科書は特になし。必要な資料は、授業時に配布する。

参 考 書 等

参考書は特になし。

科目名	担当者名	配当学年	単位
日本文化史Ⅱ	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	教職教科	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに⑦以降の項目に重点を置く。

- ①日本文化史概観
- ②平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③中世文化史研究の動向
- ④中世文化の展開
- ⑤室町文化（北山・東山文化）
- ⑥禅宗と文化
- ⑦京都と大名領国の文化
- ⑧下剋上の世と文化
- ⑨桃山文化
- ⑩宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪近世文化史研究の動向
- ⑫寛永文化
- ⑬元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教科書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参考書等

授業中に随時示していく。

科目名	担当者名	配当学年	単位
歴史哲学	あ そう けん 麻 生 建	教職教科	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教科書

麻生建著『解釈学』世界書院 ￥2,500

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 史 概 説	黒 田 基 樹	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の歴史を概説する。歴史学という学問は、過去の社会を正確に認識するとともに、現代社会をどのように把握するか、ということを追求するものである。そのため、日本史を通時的に概観するだけでなく、現代の日本社会との対話を意識し、歴史を「考える」という観点を重視する。

講義の内容・授業スケジュール

既存の「日本史像」とらわれない、新しい歴史像の構築につながるような、最新の研究動向を素材として取り上げる。また、日本史を身近な題材で考える、という視点から、関東の地域史を取り上げる。

成績評価の方法

学年末に試験をおこない、出席数と試験の結果を総合して評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

授業のなかで随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 史 概 説	小 松 寿 治	教 職 教 科	4

講義のねらい

「日本史」が日本国の歴史について学ぶ学問であることは承知のことと思いますが、日本国に住みながら「日本史」を知らない人たちが多くないでしょうか。日本という国に住んでいる人間ならば、日本で起こったこと、特に国際化が叫ばれる昨今、外国とどのようにかかわっていたかを知っていることは、必要なことと思います。国際社会の中で、自分の住んでいる国の歴史を知らないことは、恥かしいことではないでしょうか。社会科の教員免許を目指す皆さんは、それがたとえ歴史の免許でなくても、関連する専攻の状況を理解するために、歴史に関する目を持つことは重要なことと思います。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、日本の歴史を現在国際問題となっている日本の歴史認識と関連づけながら講義をしたいと思っています。そのため通常の歴史の授業とは違い、若干、時代的には前後する話になるかもしれません。

成績評価の方法

前・後期二度の試験をします。教員となる人たちの授業ですので、出席を重視します。

教 科 書

特に教科書は用意しません。必要な資料は、授業の際に配布いたします。

参 考 書 等

授業の時、随時話します。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
世界史概説	井 村 行 子	教 職 教 科	4

講義のねらい

近代世界システムの成立と展開の過程として世界近現代史を捉える。

講義の内容・授業スケジュール

第1回 近代世界体制成立の諸前提 第2回 18世紀の西ヨーロッパ 第3回 18世紀の中・東ヨーロッパ 第4回 18世紀のアジア 第5回 二重革命の時代 第6回 ヴィーン体制の成立 第7回 19世紀前半のヨーロッパ 第8回 19世紀前半のアメリカ 第9回 19世紀前半のアジア 第10回 19世紀後半のヨーロッパ 第11回 19世紀後半のアメリカとロシア 第12回 19世紀後半のアジア 第13回 帝国主義の開幕 第14回 帝国主義の世界分割 第15回 20世紀初頭の世界 第16回 第一次世界大戦 第17回 ヴェルサイユ体制の成立 第18回 1920年代の世界 第19回 1930年代の世界 第20回 第二次世界大戦 第21回 戦後世界の成立

成績評価の方法

前期後期二回行う筆記試験による

教科書

使用しない

参考書等

大江一道『世界近現代全史』全3巻(1991-97)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
世界史概説	わた なべ あつし 渡 辺 惇	教 職 教 科	4

講義のねらい

世界史概説は担当者の関係により、東洋史と西洋史の二つの部分に分けて行われます。受講者はこのいずれか一つをとればよい。

上記のうち、私は東洋史の部分を担当します。東洋史はアジア全体を対象とするもので、その領域は非常に広く、かつ多面的です。この授業は教職科目であり、また時間の関係から、以下に記すような順序で、広く浅く行うことになります。換言すれば“アジア歴史散歩”とでもいえます。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 世界史教育の歩み

学校教育における世界史という科目は戦後の教育の中で新しく成立したもので、はじめは東洋史と西洋史を束ねたようなものであったが、やがてヨーロッパ中心主義、大國(中国)中心主義が批判され、よりグローバルな世界史が求められるようになった。以上の経緯を文部省の世界史指導要領の変遷等を折り込んで説明したい。

(2) アジアの歴史世界は多面的でモザイクである。それゆえ、以下のような5つの世界に分けて、それぞれの世界の歴史の舞台となった自然環境、風土、そして歴史展開の特色などについて概観する。

- 東アジア世界；中国を中心とし、その周辺を含む地域。農耕生活。
- 中央(内陸)アジア；海への出口をもたない砂漠と草原の地域。遊牧とオアシス農耕の生活。
- 西アジア世界；オリエン特及び地中海の一部を含む乾燥風上の地域。オアシス農耕と遊牧生活。
- 南アジア世界；インドを中心とした地域。農耕生活。
- 東南アジア世界；半島部と世界最大の多島海よりなる地域。海洋生活。

履修上の留意点

出席は必ずとります。

成績評価の方法

評価は定期試験、平常点に出席点を加味する。

そ の 他

またビデオを活用して、各地域の特色を視覚を通して把握することも行いたい。その際感想文を書いてもらいます。

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会学原論	わた なべ もと き 渡 辺 源 樹	教職教科	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 授業内容とそれに必要な準備
- 第1回 社会学とは何か  
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為  
なぜ‘action’からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程  
人間の行為は‘inter’して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
- 第5回 1. 役割の取得 — 社会化 フロイドとパーソンズの‘社会化の過程’を中心に  
2. 役割の準拠 — 準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3. 役割の葛藤 — マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為  
1. 規範と同調 — 逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体  
2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGPI形式)
- 第12回 3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM理論とリーダーシップ
- 第14回 5. 集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第15回 集団・文化・パーソナルティ
- 第16回 組織論と官僚性  
1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2. 官僚制組織の基本原理解 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原理解 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／ゲールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識  
1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3. 社会的性格  
i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として  
ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第22回 4. 社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第23回 全体社会の構成
- 第24回 1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第25回 2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化  
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範  
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験 (有り)、レポート (有り)

教科書

開講時に提示

科目名	担当者名	配当学年	単位
宗教人類学	佐々木 宏 幹	教職教科	4

(P.教90) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
経済原論	浅田 統一郎	教職教科	4

講義のねらい

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』および『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学の重要な分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別の変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が并存して各学派の間で活発な論争が行われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| I. ミクロ経済学   | II. マクロ経済学          |
| 1. 消費者行動の理論 | 1. 国民所得の概念          |
| 2. 企業行動の理論  | 2. 国民所得決定の理論        |
| 3. 市場均衡の理論  | 3. 貨幣と利子率 (IS・LM分析) |
| 4. 不完全競争の理論 | 4. 財政・金融政策の効果       |

なお、教科書は、浅野・荒木・浅田『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)を使用しますが、本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)行う筆記試験によって評価します。

教科書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎著『エコノミックス』成蹊堂

参考書等

[指定図書・文献等]  
 武隈慎一 著『ミクロ経済学』新世社  
 中谷巖 著『入門マクロ経済学』日本評論社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論	あ べ 部 弘 <small>ひろし</small>	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

私たちの生活をしている社会は「商品生産の社会」である。つまり、生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買ってきて消費をするという社会で毎日の生活を送っているのである。

さて、一般に私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ、と政府の「国富統計」は言う。そして、価値はと言うと、それは「社会」に役に立つ・有益である、ということである。

とは言え、このことは今私たちの社会にあっては、「商品」生産の体系の中で言われることである。そもそも、「売れるもの」でなければ「価値」はないし、「富」とは関係がない。しかしながら、この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけではないから、このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

しかも、私たちは単に「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。

資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段にすぎない。社会に、そして私たちに利益になるからということ、そのようなものが商品として生産されているわけだが、「役に立つ」と私たちには思えても企業・「資本」は売れてしかも利益にならなければ、いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。

さらに生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なもので、これさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。

「おカネ」がすべてのように思え、おカネを手に入れるために、人々は種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさん持っているかどうか、何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は、ある国家を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようにならうともそれは「」の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。

だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこでその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。

「経済学」はその成立のときから、「富」とは何かを問題にしてきた。その歴史は「富とは何か」の歴史である。「富」は人間社会の歴史のなかで、その時代に応じて、意味合いを異にしてきた。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるから、当然、富は「資本主義的富」である。したがって、この社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから、「経済原論」の講義では3つのカテゴリーとその関係を明らかにし、そのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

#### 講義の内容・授業スケジュール

講義は受講生の人数によって異なる。

1) 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年4回のレポートの作成を行い、最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え、2回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて、講師が添削して、各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。

4回のレポートの作成は以下の日程で行う。

No. 1 : 7月上旬 No. 2 : 10月中旬 No. 3 : 12月中旬 No. 4 : 1月

2) 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして、グループ毎にディスカッションをして2回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という形をとる。ただし、受講生名簿がでてくのが前期いっぱいかかってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって7月上旬に第1回目のレポート作成を行う。

#### 成績評価の方法

\* 講義形態〈1〉のばあい：評価は4回のレポートを通じて行う。

\* 講義形態〈2〉のばあい：ゼミナール形式をとるので試験はおこなわないが、出席が不良であったり、2回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

#### そ の 他

受講生の質疑応答等に便利のように講師の連絡先を以下に示す。

研究室：No.2538 Tel：03-3418-9360

住 所：〒179 練馬区光が丘6-1-4-204/Tel：03-3976-7984

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論	おのとしお 小野俊夫	教 職 教 科	4

講義のねらい

経済は現代社会の基本であり、経済学、特に経済学原論は広く社会諸科学を学習し理解するためには必須の学問である。この講義では、現代経済社会の仕組みと運行の仕方を理解し、正しく分析し得る力を身につけるためには不可欠な理論の基本を、いわゆる近代経済学の立場から体系的に解説する。

講義の内容・授業スケジュール

講義は次の順序で行う。

1. 経済学発展史要説
2. ミクロ経済学：ミクロ的経済循環とミクロ経済学、消費者行動の理論、企業行動の理論（企業の生産技術と生産費、完全競争下の企業行動、独占企業の行動）、完全競争市場と独占市場、現代企業と市場の理論。
3. マクロ経済学：マクロ的経済循環とマクロ経済学、国民所得の諸概念、ケインズの有効需要原理と理論体系要説、ケインズ経済学体系（消費関数と貯蓄関数、国民所得の決定と投資乗数の理論、投資決定の理論、利子率決定の流動性選好理論、ケインズ理論体系とIS-LMモデル）、経済成長と景気変動、政府および外国貿易を考慮する一般的分析。

履修上の留意点

講義を理解するために経済に関する予備知識は必要としないが、学問はそもそも一つの体系であるから、常に出席して講義の順を追って理解して行かねばならない。

成績評価の方法

成績は次の3点の総合評価による。(a)講義への出席率、(b)後期の適当な時期に課するレポート提出、(c)後期の最終講義時間に行う教場試験。

教科書

教科書：小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 法 I	あおのひろゆきの 青野博之	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。民法全体のイメージをつかむためにも、できれば、民法二部も受講してほしい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

4月、序説（たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。  
 5月、自然人（たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか）。  
 6月、法人（たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか）、物。  
 7月、法律行為（たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か）。  
 9月、法律行為（たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すという結果になるか）、期間、時効（たとえば、時効という制度はなんのために認められているか）。  
 10月、物権総論（たとえば、物権は債権とどこが違うか）、物権変動（たとえば、マンションを買った場合には何をしなければいけないのか）。  
 11月、占有権、所有権、用益物権（たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか）。  
 12月、担保物権（たとえば、土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか）。  
 1月、質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間のはじめとおわりに答えるが、それとは別に質問時間を設ける）。

#### 履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

#### 成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。  
 受講生がそれほど多くなければ、質問および応答の平常点だけで、成績を評価する。受講生が多ければ、定期試験（いっさいの持込を不可とする）だけで、成績を評価する。

#### 教科書

甲斐道太郎・乾昭三・椿寿夫編『新民法概説(1)総則・物権』有斐閣 1,995円  
 以前に使用した、我妻栄・有泉亨著（川井健補訂）『民法1（総則・物権法）』（一粒社）でもよいし、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

#### 参考書等

六法  
 憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。  
 六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。少し解説がついているものとして、『三省堂新六法』がある。判例がついているものとして、『コンサイス判例六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）があり、少し進んだ勉強をしたい受講生、講義の際に紹介する判例についてもう少し知りたい受講生に勧める。『判例六法』（有斐閣）は、判例がついていると同時に、カタカナの条文を平かなに書き換えており、読みやすい。さらに進んだ勉強をしたい受講生には、『模範六法』（三省堂）を勧める。なお、『口語〜』という書名のついたものでもよい。  
 六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましいが、多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 法 I	はやし 林 ころし 幸 司	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

1. 民法の総則と物権法の分野につき、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと。
2. 簡単な事例を通して「受講生の日常生活と民法がいかにかかわっているか」を理解してもらうこと。

#### 講義の内容・授業スケジュール

民法は、我々の日常生活において「個人と個人の間が生じる権利や義務」を定める法律であるが、これを二つに分けると①経済生活（主に取引）にかかわる財産上の権利義務を定める『財産法』と②家族生活にかかわる夫婦・親子など身分上（および相続）の権利・義務を定める『家族法』に分かれる。このうちの『財産法』をさらに分けると、①『総則』（財産法全般に「共通する事項」がまとめられている）と②『物権法』（所有権など「物に対する権利」を規定する）及び③『債権法』（借金の返済を求める権利など「特定人に対する権利」を規定する）の三分野に分かれる。本講義ではこのうち、①総則と②物権法を解説する。

#### 履修上の留意点

受講に際しての注意（『私語の厳禁』）。あまりにも当然過ぎて、ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっと静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色がなかったり、何か悪いことをしたのか（又は「なぜ俺だけが」）と言わんばかりに睨み返してくるということもある。このテの者には、その場で『登録抹消』を通告するという強い態度で臨むので覚悟してもらいたい。

#### 成績評価の方法

後期試験による評価が中心となるが、講義後に回収する質問や意見などにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多い。これらに対しても若干のプラス評価を行うつもりである。

#### 教 科 書

甲斐・石田編『新民法教室Ⅰ―総則・物権―』 法律文化社 2,600円

#### そ の 他

（授業の方法）

- 1: 板書中心の講義であること。私独自の観点からポイントを整理するため板書中心の講義を行い、途中で適宜、教科書の該当箇所を指示・解説するという方法を採用。その際、かなり多くの図や表を必要とするが、それも主に板書によってカバーする。
- 2: 意義・要件・効果の整理に重点をおくこと。私も学生の頃は、ただ闇雲に教科書に書いてあることをダラダラと覚えようとしたものである。しかし、それは、山の中を、地図も磁石盤もなく、ただ地面を見て石ころを数えている姿に似ていると感じ、むなしい気持ちに苛まれる結果となった。本講義で整理の中心に位置付ける「意義・要件・効果」は、講義中、諸君が立っている位置を知るための『座標軸』だと思ってほしい。そのことの意味はとてここでは書き切れない。詳しくは、講義で聴いていただきたい。
- 3: 簡単な「事例」を素材とすること。事例集をプリントして配布し、意義・要件・効果と結び付けて解説する。具体的な事例を想定しての理解以外に、真に納得のいく理解はないと信ずるからである。受講生諸君がめざす各種資格試験にも役立つよう留意していきたい。
- 4: 受講生からの質問を講義に反映するよう努力すること。毎回講義前に用紙を全員に配布し、質問・意見・感想・要望などを買ってもらい、その中で、「これは！」と思うものを次の講義に反映することを心掛けるつもりである（質問への解答が中心となる）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

#### 講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

#### 講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をとっておくとよいでしょう。

#### 講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| A 政治的思想         | C 日本の政治  |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想          | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想          | 軍部独裁     |
| 現代政治思想          | 戦後の政治    |
| B 政治の仕組み        | D 国際政治   |
| ～議会             | ～国際連合    |
| 内閣              | N G O    |
| 地方自治            | 国際関係     |
| 官僚制             |          |
| 政党              |          |
| 選挙              |          |
| 世論              |          |

#### 成績評価の方法

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもってのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があって欠席する場合（実習・研修など）には、かならず届けを提出してください。

#### 成績については

出席：50％ 中間試験：20％ 学年末試験：30％

以上の割合で評価します。

なお、追・再試験も実施します。

#### 教科書

大塚桂編『政治学へのいざない』成文堂 価格未定

#### 参考書等

大塚桂『政治学原論序説』勁草書房 3,296円

大塚桂『政治哲学入門』法律文化社 2,900円



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日本宗教文化史	お 小 川 とし 順 敬 が わ とし ゆ き	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

日本の他界観、生死観の変遷を考える。

われわれの文化は（われわれの文化ばかりではありませんが）自分たちが生きているこの世界の他に、もう一つ別の世界や空間を創り出してきました。そして、それはわれわれに、いかに生きいかに死ぬかという問題を考えさせる文化装置として機能してきたと言えます。（現代社会においても、他界のイメージこそ異なるでしょうが、それは一定の役割を果たしていると言えるでしょう。）

ここでは、日本の伝統的な他界や仏教がもたらした他界のイメージが、生と死の文化装置として、どの様に具体化されてきたのか、すなわち他界という見えない世界がどのように表現され演出されてきたのかを考えてみることにしたいと思います。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

最初に他界観の前提としての日本人の靈魂観について述べ、「生と死」をわれわれがどのように考えてきたのかを整理しておきたいと思います。その上で、様々な「他界」について紹介・検討して行きたいと思います。

山中他界や海上他界、あるいは浄土や地獄がどのように実現されているのか。様々な聖地や、民俗行事（祭礼や儀礼）、寺院行事、また物語、芸能などを題材（ビデオ等使用する予定）として、この世では見えないはずの他界が、この世でどのように表現されてきたのか、そしてこの世と他界がどのように結ばれているかを見て行きたいと思います。

#### 成績評価の方法

成績は年度末のレポートその他で評価することにした。

#### 教 科 書

教科書は用いない。なお授業の内容にそって資料を配布する。

#### 参 考 書 等

参考書は用いない。そのつど紹介することにした。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民衆宗教成立史	津 城 寛 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にあって、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・  
授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

前期

- ①深層文化論の整理
- ②深層文化と宗教研究

後期

- ③民俗主義的な深層文化
- ④新宗教の発生と展開

履修上の留意点

とくにありませんが、私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行います。

教 科 書

教科書は用いません。

参 考 書 等

参考書としては、深層文化論に関しては、拙著『日本の深層文化序説——三つの深層と宗教』（玉川大学出版部、1995年）を用います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	あらい 洗 けん 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、我々現代日本人とのかかわりを念頭に置いて、世界の諸宗教について概説し、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することといかに深くかかわっているかを明らかにする。

この教科は教職科目であるので、できれば近代と宗教、憲法理念と宗教の問題にも言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教学の性格、原始宗教、民族宗教、仏教、キリスト教、イスラーム教、神道、新宗教運動、近代化、世俗化、信教の自由、政教分離などの諸問題について考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教科書

特に指定しないが、水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参考書等

随時、紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	つ 津 しろ 城 ひろ 寛 ふみ 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

世界宗教史と日本宗教史を軸にして、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

前期は世界宗教を軸に、後期は日本宗教史を軸に、講義を進めます。日本宗教史は概説ではなく、仏教関係の話題も重複のないように省き、興味深い話題に焦点をあてた各論にします。おおまかなスケジュールは次のとおりです。

前期

比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、ヒンドゥー教と仏教、ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教、世界の新宗教運動

後期

固有信仰、神と仏、宗教者の群像、近代化の中の宗教、宗教と国家、宗教と教育

履修上の留意点

とくにありませんが、私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行ないます。

教科書

教科書は用いません。

参考書等

参考書はその都度紹介します。

その他

数回ビデオを用います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	まつ だ ぶん ゆう 松 田 文 雄	教 職 教 科	4

講義のねらい

人間社会にはさまざまな宗教があるが、それらの宗教には“宗教的な”といわれる営為がある。前半にはそれらについて、宗教学的研究方法で検討する。後半には日本仏教に焦点をしばり講義する。

講義の内容・  
授業スケジュール

凡そ次のような順序で講義をすすめる。  
 1) 人間生活と文化(宗教)、宗教起源論、宗教現象の諸相、宗教の類型等  
 2) 宗教儀礼、宗教と呪術、修行、回心、神秘主義等  
 3) 日本仏教、当分の間、鎌倉期に焦点を合せて、いわゆる鎌倉新仏教といわれる浄土宗、浄土真宗、時宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗について考察する。

履修上の留意点

受講し、ノートを取ることを。

成績評価の方法

定期試験の成果と受講の度合い(出欠)によって評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
哲 学 概 説	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教 職 教 科	4

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。一哲学を学ぶ以前にこの様な問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい——そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・  
授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学の誕生を著した『新理学』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度(年数回抜き打ちの理解調査を行う)
3. 受講をこえる積極的な学習(任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する)

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新理学』(ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものをプリントして配布する。中文版については授業中に解説する)

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』(吾妻重二訳、『みすず』275号~284号) / 柿村峻・吾妻重二訳『中間哲学史』 富山房 / 島田虔次『新儒家哲学について』 同朋舎

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
哲 学 概 説	やま くち まさ ひろ 山 口 祐 弘	教 職 教 科	4

講義のねらい

「汝自信を知れ」とはソクラテス以来哲学の普遍的な課題となってきた勸めである。それを考えることは、ひとり「私」を対象とするだけでなく、人間、世界、神を考えることに通じる。その考察範囲は、人間の知と行為、科学、道徳、芸術、宗教に及ぶ。これらは、私が生まれ、生き、死ぬ歴史的世界に包摂される。哲学はこうした世界についての理解、世界観となる。本講は、このような視野において、哲学の原始的な問いから発し全体的世界観に達する先人の思索の跡を辿りながら、「哲学とは何か」を理解することを目的とする。講義はテキストに即して進めるので、必ず持参すること。単位認定は小論文によって行う。

教 科 書

西田幾多郎『自覚について』、『西田幾多郎哲学学論集Ⅲ』 岩波文庫

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
倫 理 学 概 説	く ぼ よう いち 久 保 陽 一	教 職 教 科	4

講義のねらい

古代から現代にいたる倫理学の主な学説を学び、現代社会における人間の生き方の手掛かりを得ることをめざす。現代はしばしば「ポスト・モダン」の時代だと云われる。それは、近代の科学技術文明や社会制度が様々な問題を露呈し、その解決が求められているからだろう。けだし近代では、それまで結びついてきた経済と政治、政治と宗教、個人と社会、人間と自然、学問（真）と道徳（善）と芸術（美）とが相互に分裂し、それぞれ独立の権限を主張するようになる一方、その前提から新たな総合が求められてもいる。けれども、いまだ—— かつこの宗教や国家に代る—— 有効な統合原理は見出されえないでおり、そのため種々の混乱が生じている。そこで本講義では、近代の倫理学説を、一方で古代・中世の倫理学説との連関で取り上げると共に、他方で現代の倫理学説との連関で、批判的に考察することにする。

講義の内容・授業スケジュール

近代の倫理学 —— 快楽主義、功利主義、社会契約と人権の思想、理性主義、カント等。  
現代の倫理学 —— ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、ハイデガー、ハーバーマス等。

履修上の留意点

講義に対する積極的な取組みが受講の要件であり、そのために一年間で少なくとも古典を一冊読了するようにすること。

成績評価の方法

成績は、中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教 科 書

テキストについては開講時に指示する。

参 考 書 等

読むべき古典を含め、参考書等は授業中に紹介する。

【職業】

科目名	担当者名	配当学年	単 位
産業概説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

授業は'85(昭和60)年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況  
(各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

履修上の留意点

できるならば、日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。

教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』日本経済新聞社 1,500円

参考書等

参考書等は授業の際に提示します。

その他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
職業指導	やま だ ゆう し 治 山 田 勇 治	教職教科	4

講義のねらい

職業指導(進路指導)は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。  
後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』福村出版 ¥2,000  
寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』中央法規出版 ¥2,500  
仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』福村出版 ¥2,300

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

講義のねらい

国内よりも対外企業との商品取引の実務について授業を進めていきます。

講義の内容・  
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要       | 10. 為替の予約   |
| 2. 取引関係の創設       | 11. 海上保険契約  |
| 3. 取引条件の取決め      | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関    |
| 5. 輸出信用状の照合      | 14. 船積み     |
| 6. 約定品の調達        | 15. 船積書類    |
| 7. 輸出保険          | 16. 輸出決済    |
| 8. 輸出承認と認証の取付け   | 17. 貿易クレーム  |
| 9. 運送契約の締結       |             |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

石田貞夫『貿易取引の実務』 教出版  
 渋谷源蔵『貿易実務』 同文館  
 藤田栄一『貿易取引の英語』 勁草書房

【商 業】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
職 業 指 導	やま だ ゆう じ 山 田 勇 治	教 職 教 科	4

(P.教53) 参照





## Ⅱ 学校図書館司書教諭講座



# 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅰ	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)2・3必	4

## 講義のねらい

人格形成期にある児童・生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるために学校図書館は大切な場である。学ぶこと識ることの楽しさを体験する学校図書館の管理運営と指導面を担当する司書教諭の職務内容、またその責務及資質の向上を自覚し、自らもよき読書人として成長させ、情報化社会に即した情報整理の基本的技能を育成する。

## 講義の内容・授業スケジュール

### 学校図書館通論

- ①図書館学序論 図書館学とは何か 図書館の歴史 図書館の種類と特色
- ②学校教育に於ける学校図書館の意義・役割
- ③学校図書館の経営 経営の原則・性格、司書教諭の職務内容と学校の運営組織 児童・生徒 図書委員の指導 施設と設備
- ④学校図書館の管理と運用 意義と目的 児童・生徒・教職員に対するサービス 地域社会に対するサービス
- ⑤資料の選択 学校図書館の資料の意義と種類 資料の選択と収集 蔵書構成と維持及び留意点
- ⑥図書以外資料の整理 図書以外資料の種類と特性 教育メディアとしての活用
- ⑦児童・生徒の読書活動 意義と目的 児童・生徒の読書能力と興味の発達段階 読書指導の内容 読書活動の種類と技法 指導計画と方法 読書活動の評価と改善
- ⑧利用指導の内容 各種資料の利用指導 教科学習と利用指導 特別教育活動と利用指導 利用指導の計画と立案・留意点 情報の種類と整理の技法 評価の改善

## 成績評価の方法

テストと小論文による

## 教科書

図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』学芸図書出版株式会社

## 参考書等

全国学校図書館協議会 北嶋武彦監修『学校図書館の利用指導』東京書籍

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅱ	みなもと しろう きやう 源 昌 久	図書(司)3・4必	4

## 講義のねらい

本講義は、主として前期には資料分類法、後期には資料目録法を修得することを目的とする。演習を随時、実施する。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 〈前期〉Ⅰ分類の概念的フレーム・ワーク、Ⅱ日本十進分類法(NDC)の解説、Ⅲデューイ十進分類法(DDC)の解説、Ⅳその他の分類法の解説、Ⅴ分類とコンピュータ。
- 〈後期〉Ⅰ目録の概念的フレーム・ワーク、Ⅱ日本目録規則(NCR)1987年版改訂版の解説、Ⅲ英米目録規則(AACR 2)の解説、Ⅳ目録とコンピュータ。

## 履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

## 成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

## 教科書

- 〈前期〉『日本十進分類法 改訂9版』日本図書館協会 セット定価6,000円  
 〈後期〉『日本目録規則 1987年版 改訂版』日本図書館協会 3,500円

## 参考書等

講義中に指示する。

## その他

必要に応じて、ビデオを利用する。



### Ⅲ 社会教育主事講座



# (1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育計画	酒 匂 一 雄	社教主事2必	4

## 講義のねらい

いま市町村など自治体では地域特性や住民の生活課題にきめ細かく対応した生涯学習施策とその計画化がもたらされ、またカルチャーセンターなど民間の生涯学習施設でも市民の学習文化需要に対応した事業計画がもたらされている。この講義では、自治体での生涯学習計画の策定を中心に、なるべく具体例をまじえ、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論と方法の理解を深められるようにしたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

- (1)生涯学習の方法と計画の今日的課題 ①生涯学習論の展開 ②生涯学習施設の動向など
- (2)住民の課題と生涯学習計画 ①子どもの発達課題と生涯学習 ②青年の特性と生涯学習 ③高齢化社会と生涯学習など
- (3)生涯学習の方法と事業の計画・運営 ①戦後の学習方法の展開 ②学習事業の内容編成など
- (4)生涯学習と条件整備 ①住民の学習構造と施設計画 ②文化活動と条件整備など
- (5)地域生涯学習計画の策定 ①生涯学習計画策定の視点と方法 ②計画と社会調査など
- (6)生涯学習計画と社会教育計画 ①生涯学習時代の社会教育計画 ②社会教育計画と行財政
- (7)学習権の思想と社会教育計画の課題 ①社会同和教育 ②福祉と学習 ③地域づくりと学習

## 成績評価の方法

前期・後期の試験の成績によって評価する。

## 教科書

酒匂一雄・村山輝吉他編著『生涯学習の方法と計画』国土社 ¥2,718+税

## 参考書等

参考文献は授業のなかで紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
生涯学習概論	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	社教主事2必	4

## 講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という視点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の視点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、主にわが国の生涯学習政策についての概要を把握し、その検討を通して、今日求められる学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念  
(ユネスコの生涯教育論)
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
  - ・臨教審答申—「生涯学習体系化」への動き
  - ・国レベルの政策—「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
  - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育
  - ・社会教育の概要(定義・社会教育施設・学習方法・形態など)
  - ・成人教育としての社会教育

## 成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

## 教科書

碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』学文社 2,000円

## 参考書等

適宜紹介する。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会教育実習	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	社教主事3必	4

講義の内容・  
授業スケジュール

事前指導 —— 社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。  
 訪問指導 —— 実習先訪問指導。  
 事後指導 —— 実習をとおして学んだこと・疑問に思ったことなどについて報告する。

教 科 書

小林文人編『公民館の再発見 —— その新しい実践』国土社

参 考 書 等

社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所

そ の 他

適宜、公民館などの施設見学を行なう。

## (2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育行政	ひかし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

### 講義のねらい

憲法・教育基本法体制に沿った社会教育行政の本質について具体例を示しながら説明する。戦前・戦後の社会教育行政の歴史・社会教育法の成立の頃の実情、その後の社会教育行政の発展の状況・生涯学習行政の現情などを通して社会教育行政とは何かについて、社会教育主事などになった時に役に立つような内容を明らかにしたい。

授業外に社会教育施設などに赴いてボランティア活動を積極的にやって欲しい。

### 教科書

島田修一編『生涯学習のあらたな地平』 国土社 2,800円  
月刊社会教育編集部編『生涯学習時代の社会教育をつくる』 国土社 2,000円

### 参考書等

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』 エイデル研究所 3,800円

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育施設	さ 酒 こう 匂 かず 一 お 雄	社教主事2・3・4選	4

### 講義のねらい

いま「生涯学習時代」を迎え、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設だけでなく、保健所、福祉施設など他部局の施設でも学習活動がおこなわれ、カルチャアセンターなど民間の教育文化施設もふえてきている。この講義では、社会教育施設を中心に、ひろく住民の学習・文化活動に関連する施設の現状、特性、役割を住民の学習・文化活動との関連で考察したい。

### 講義の内容・授業スケジュール

- (1)前期は以下の内容の講義をする。
- 1) 社会教育施設 ① 社会教育施設のあらまし ② 公民館 ③ 図書館 ④ 博物館  
⑤ 広域社会教育施設 ⑥ 青少年施設と婦人会館
  - 2) 社会教育と学校 ① 学校開放 ② 公開講座
  - 3) 他部局の施設 ① 児童館・学童保育 ② 保健所と健康学習  
③ 高齢者福祉と地域施設など
  - 4) 民間教育文化施設 ① カルチャアセンター ② テーマパーク  
③ 農協・生協など民間施設
  - 5) 生涯学習関連施設①生涯学習情報センターなど
- (2)夏休みに、受講学生で分担して、学習・文化施設を訪問・調査。  
(3)後期は学生による訪問・調査の報告を中心に、討議と講義

### 成績評価の方法

夏休みの訪問・調査の ① 後期授業での報告と ② 報告後の提出レポートによって評価。

### 教科書

講義では毎回、資料を配付する。

### 参考書等

参考文献は授業のなかで紹介する。

### その他

受講学生はなるべく「社会教育計画」も履修してほしい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
成人学習論	ひがし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

成人が学習をすることによって発達することを各地の社会教育の事例を通して明らかにする。はじめに社会教育の本質について語り、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設等で行う学習活動の事例について、さらに地域づくりについて、また国際問題などの実践について学習させたい。

授業外に社会教育施設などのボランティア活動を積極的に行うことをすすめる。

教科書

月刊社会教育 編集部編『市民が創る生涯学習計画』 2,000円  
 福尾武彦編著『現代を生きる学び』 民衆社 2,800円

参考書等

酒匂一男・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝忍共編著『生涯学習の方法と計画』 国土社 2,800円

科目名	担当者名	配当学年	単位
女性と学習	や ぐち えつ こ 矢 口 悦 子	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

そもそも女性問題（婦人問題）とは何か、ということ、女性学の成果等に学びながら明らかにする。そのうえで、社会教育の場で当問題がどのような位置付けを与えられてきたのか、現在の実践はどのように展開されているのかを述べる。このことを通じて女性問題解決にむけての社会教育実践の方法を明らかにすることが、講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

講義は大きく二部から構成される。一部では、女性問題を様々な角度から捉え、その本質に迫る作業をする。ジェンダー、ライフスタイル、ファミリー、性、職業、主婦などの鍵概念を提示し、理論を紹介すると共に、受講者との意見交換の場を常に用意したいと考えている。

二部では、社会教育の歴史のなかで女性問題がどのような位置にあったのかを述べる所から始め、世界的潮流の中において現在どのような実践が展開されているのかを明らかにしたい。さらに、今後にむけての課題を明確にし、その解決にむけた方法論を一緒に考えてみたい。

履修上の留意点

夏休みを利用してレポートを作成してもらう予定。後期にはそれを発表して皆からのコメントをもらう場を用意する。

成績評価の方法

レポート、発表、コメントのとりまとめを一連の課題とし、これら全体から判断して評価を出す予定。

教科書

教科書などは特に用いない。必要な資料は授業時に配布する。参考文献も授業の中で進行に合わせて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
企業内教育・職業訓練	しお かわ まさと 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会と経済の基盤を支える「企業」の生きてる姿を学び、卒業後の正しい進路選択をする。そのため毎回の授業は

1. 導入講義のあとは、対話と討論の授業とする。
2. 大学生生活の「目標」明確にし、それを達成状況を確認しあう授業とする。
3. 卒業後の進路決定に直接役立つ授業とする。
4. 企業と社会の現実をつかむ授業とする。
5. 毎回、自己と対話し自己創造を積み上げる授業とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

担当講師は、日本能率協会の経営コンサルタント。200社を超える各種企業の経営指導を担当してきている。講義内容は企業の指導で行う教育とコンサルティングの理論・技法を紹介しつつ、学生生活の「革新」を指導する。その骨子は

- 「考える授業」を行う
  - ・大学生生活の過ごし方を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
  - ・卒業後の進む道を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
- 「表現する授業」を行う
  - ・毎回、講師と学生、学生と学生による対話と討論を行なう。
  - ・自己表現の各種技法を習得し、就職試験などでの対応策を授業の中で体得する。
- 「実行する授業」を行う
  - ・授業で体得した内容を、大学生生活全般に活用する。
  - ・卒業後の進路開拓に活用する。

履修上の留意点

- ・本授業は三年生のための卒業後の進路開拓の支援を目指す授業です。授業の後半から就職準備が始まります。授業内容はそのまま就職への準備行動として展開します。
- ・必ず配布資料があります。討議のまとめもコピーします。各自ファイルを準備して下さい。

成績評価の方法

毎回の授業への参加内容を重視し併せて筆記試験も行います。

教 科 書

なし。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
社会体育Ⅰ (前期)	ふる た じゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

満ちて輝く心とからだ  
他者とひびき合う豊かな関係  
自然の原理に沿った動きで、ゆるやかに心とからだを開き、からだの中の自然に気づき、自らの意思で、今を生きる確かさと自信を体得していきます。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期では、自分自身のからだを拓いていくことを主眼とします。具体的には、動きの基本となる三要素(1)余分な緊張を取り去る。(2)その時々姿勢におけるからだの最下部に全体重を任せ切る。(3)動きに最適な自然な呼吸。を目安とし、からだの感覚を手がかりに自己能力を発掘し、可能性を追求します。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業(レポートも含む)

参考書等

野口三千三著『原初生命体としての人間』三笠書房  
野口三千三著『野口体操からだに貞く』柏樹社  
野口三千三著『野口体操重さに貞く』柏樹社  
池田潤子執筆 雑誌『ひと』からだのレッスン 太郎次郎社  
『自然なからだのあり方を考える【円筒エリア】の発見と意義』  
古田潤子執筆 『駒沢大学教育学研究論集第13号』1997年

そ の 他

授業は実技を主に行います。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
社会体育Ⅱ (後期)	ふる た じゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

後期では、他者との関係を豊かに拓いていくことを主眼とします。  
環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえ育て自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。  
また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
図書館学 I	山田節子 <small>やま だ せつ こ</small>	社教主事2・3・4選	4

(P.教59) 参照

科目名	配当学年	単 位
教育原理	社教主事2・3・4選	4

(P.教1) 参照

科目名	配当学年	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P.教3) 参照

科目名	配当学年	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P.教5) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単 位
視聴覚教育	飯森彬彦 <small>い もり あき ひこ</small>	社教主事2・3・4選	4

(P.教75) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単 位
教育社会学	熊谷一乘 <small>くま がい かず のり</small>	社教主事2・3・4選	4

(P.教27) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育史	北村三子 <small>きたむらみつこ</small>	社教主事2・3・4選	4

(P.教27) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育調査	鈴木規夫 <small>すずきのりお</small>	社教主事2・3・4選	4

(P.教28) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
児童文化	香川良成 <small>かかわよししげ</small>	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』 東京書籍、菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』 大月書店

その他

現在行われている演劇教育（“劇あそび” その他）の様相や実際の舞台をビデオで観たり、実際観劇するということも行いたいと思っています。

科目名	担当者名	配当学年	単位
現代社会の諸問題と教育	熊谷一乗 <small>くまがひのり</small>	社教主事2・3・4選	4

(P.教29) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
青少年問題研究	讃岐真佐子	社教主事2・3・4選	4

(P.教30) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
青少年指導演習	平野まなぶ	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていく。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりである。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の見点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. 講師自身の援助例(不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング)の提示と討議。(2回)
5. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験(ボンティア活動他)の報告と討議。(5回)
6. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏の文献のいくつかを輪読(分担発表)すると共に自由討議を行う。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
7. その他(全体の振り返り他)。(3回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。  
出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行なうので安易な受講は避けてほしい。)  
尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、少し記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート(年間授業を振り返る形でのもの)、夏休みレポート(体験報告または読書感想)、平常点(出席等)の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』創元社 各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える(上・下)』創元社 各1,300円  
同 『大人になることのむずかしさ』岩波書店 1,240円  
同 『ユング心理学と仏教』岩波書店 1,800円  
他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTRやテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。  
授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たち きみこ 太 田 喜美子	社教主事2・3・4選	2

（P.教76）参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	社教主事2・3・4選	2

（P.教76）参照

## IV 博 物 館 学 講 座



# (1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
視聴覚教育	いいもりあきひこ 飯森 彬彦	学芸員2・3必	4

## 講義のねらい

視聴覚教育の背後にある基本的な考え方を理解する。  
個々の視聴覚教材の基礎的な技法（教材の制作、利用の両面）を習得する。  
変動する社会に即応し、メディアを活用する態度と能力を養う。

## 講義の内容・授業スケジュール

視聴覚教育の歴史とその思想的背景  
コミュニケーションの理論と視聴覚教育  
視聴覚教材の制作と利用  
情報化社会における視聴覚教育  
生涯学習時代とメディア  
以上のような内容を各4～6回程度講義する予定

## 履修上の留意点

年に2回程度課題を出し、作品の提出を求める。作品製作に要する経費の負担をあらかじめ予定しておくこと。（OHPシート代、マーカー代、35ミリフィルム代、現像代など）

## 成績評価の方法

提出作品と試験の成績に出席状況を加味して評価する。

## 教科書

使用しない。

## 参考書等

浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』 日本放送教育協会  
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』 樹村房  
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』 東信堂  
赤堀正宣・佐賀啓・中野照美編著『メディアと教育』 小林書房

## その他

ビデオや写真などを多用して講義する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
考古発掘実習	さかい きよし 酒井 清治	学芸員3・4必	2

## 講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

## 講義の内容・授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

## 履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後には計画を作ること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

## 成績評価の方法

成績評価は平常点。

## 教科書

『考古学調査ハンドブック1 野外編』（1984年）雄山閣 2,800円

科目名	担当者名	配当学年	単位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たく しみ こ 太 田 喜 美 子	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館学芸員課程の必修科目である博物館法施行規則では、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（竹内講師）、各2単位」も履修していただかないと役に立たないので注意を要する。この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、竹内順一講師に講義していただく。竹内講師は、同じ世田谷区内の五島美術館の現役の学芸部長であられ、非常に厳しく指導いただいているので、欠席しないようがんばってほしい。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するの、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に来てても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限日の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

その他

学芸員資格を取得しようとしていながら、途中で、棄権する（あるいはせざるえないという）場合、社会教育主事に切り換えることは比較的易しいので、これまた相談されたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館資料の収集、整理保管、展示などについて、理論や実践方法に関する知識と技術の習得をめざす。またあわせてこれらの基礎として必要な博物館資料の調査研究活動の意義と方法について理深を深める。

講義の内容・授業スケジュール

収集活動は、博物館事業の出発点となる重要なものであるが、博物館の設立趣旨や経緯に基づき一定の制限があるものである。この制限下の収集が、結果として博物館の諸事業の個性化をもたらし、特色ある博物館像をつくりあげる。博物館のコレクションを論ずることによって、その博物館の特色を考える。また、具体的な収集手順について、学芸員の収集候補資料の調査からはじまり、収集委員会や買取評価委員会などの開催に至る制度上の手順と問題点を明らかにする。さらには、買取以外の寄贈・委託・交換・採取といった収集方法についても考える。

整理保管は、学芸員の職務として位置づけられているが、欧米ではレジストラと称する専門職が司る。この欧米との制度上の比較を行いつつ、資料の管理と登録の実際面を考察する。とくに収蔵庫内の静的な管理と展示や搬出搬入に関わる動的な管理との差異の理解を深め、同時にこの両者に共通する保存化学の基礎知識にふれる。

展示は特別展の開催に至る手順を、開催趣旨（テーマ）の決定から、出品リスト作成・出陳交渉・集荷・会場設営等をマニュアルとして把握する。研究は、文献主義ではなく、学芸員独自の「モノ主義」の立場を知る。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参考書等

参考書は授業中に指示する。

その他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博物館学Ⅲ（経営論・情報論） （後 期）	たけ うち しゅん いち 竹 内 順 一	学 芸 員 2 必	2

講義のねらい

博物館経営および博物館における教育普及活動について理解を図る。また博物館における情報の意義と、その活用方法について理解を図る。

講義の内容・  
授業スケジュール

博物館の運営を行政と財政の二つの側面から考察する。とくに国公立の博物館と私立博物館の比較系統を加える。また近年注目されている「博物館経営（ミュージアム・マネージメント）」についても理論と実際例を紹介し、他の芸術経営との相異と共通点を明らかにする。博物館の運営は、そこに勤務する職員的能力（知恵）と、施設や設備と不可分な関係にある。いわばソフトとハードの両面から博物館の運営を考え、あわせて将来のあるべき姿としての専門職員の分業制についても論ずる。

教育普及活動は、昨今必要性があらためて認識されているが、その活動範囲はきわめて広く、展示品説明（列品解説・ギャラリートーク）、ワークショップ、各種普及講座など入館者を前にして行なうものと、作品解説ラベル（題箋）、パネル板、図録作成など文章を中心とする活動の二種に大別される。この両者に共通する要諦は「わかりやすさ」であり、事例研究を通してこれを明らかにする。

博物館の対外活動は、「情報の発信」とみなすことができる。これを広義の情報提供とすれば、個々の博物館資料に関する知見は、狭義の情報である。この両者を考察しつつ、狭義の情報提供と活用方法を各種のメディア機器の特色とともに考える。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更に留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参 考 書 等

参考書は授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博物館実習Ⅰ (館務)	飯島 武次・太田喜美子 酒井 清治	学芸員3・4必	2

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、明年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

この洗礼に対応して下さるお陰だと思いが、本学卒業生の学芸員就職率は、都内大学で、断然高く、また、学芸員としても、非常に高く評価されている。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生と一っしょに行うため、他流試合的な趣きももっているため、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしやるので、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行く館が80%を占めるが、別の時期に行く館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締括りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ」・「博物館学ⅡまたはⅢ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だって、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ」・「博物館学ⅡまたはⅢ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博物館実習Ⅱ (収集)	酒井 清治・太田喜美子・國見 徹 久保田昌希・佐々木 真・佐藤 元英 所 理 喜 夫・廣 瀬 良 弘	学芸員3・4必	2

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきついようである。この実習は、必ず合宿して実施しているので、共同生活を知らうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いこんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
博物館実習Ⅲ (見 学)	さかい 酒井 清治・ まつもと 松本 信道 おおた まみこ 太田喜美子	学芸員2・3必	2

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ（館務）」と「Ⅱ（収集）」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あふれてしまう人がでないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA～Cの3組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

本学の学芸員課程が厳しい、とよく言われるが、学芸員という、貴重な文化財を扱う仕事の養成課程なのであるから、厳し過ぎるなどとは思わないようにしてほしい。それだからこそ本学出身の学芸員が高い評価を受けているのであるから。

科目名	配当学年	単 位
教育原理	学芸員2必	4

(P.教1) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単 位
生涯学習概論	とよ だ ちよこ 豊田千代子	学芸員2・3必	4

(P.教63) 参照



## (2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
インド仏教文化史	奈良康明	学芸員2・3・4選	4

### 講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教理が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。以上の問題意識のもとに平成8年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

### 講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。  
「仏教」をどうとらえるか  
「文化」とは何か；  
仏教（宗教）の二つのレベル；「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）  
仏教文化の「表層」と「基層」  
仏教文化研究の方法論；M.Spiro, M.Ames、他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。  
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）  
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ  
カースト・ヴァルナ制度と仏教  
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。  
古代インドにおける業・輪廻思想の成立  
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）  
一般的業論の「自覚的業論」への昇華  
懺悔の思想と実践  
業と果報の関係  
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。  
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）  
「作功德→生天」の図式の倫理的・宗教的意味  
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華  
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）  
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念  
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。  
ヒンドゥー教におけるブレータと祖霊祭  
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼  
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼  
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味  
テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼  
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

今年度は中国人であるなら誰でも知っている年中行事の一一を中心に、中国の仏教者、特に禅僧が、それらの風俗をどのように捉えていったかを考える。

言うまでもなく、「風俗」の大半は仏教が創出したものではない。むしろ「出家者」は、民間の行事とは無縁な存在であるべきであった。しかし叢林運営・教育という現実、必ずしも理念通りにあるわけではない。教育者たる禅僧・住持は、理想と現実のハザ間で、彼我をいかに弁別するかに苦心のあとを見せる。中国の歳時記を見つつ、行事の内容を具体的に考え、またそれに対する禅僧の発言を『如浄録』『虚堂録』を中心に紹介していく。

講義の内容・授業スケジュール

年初から年末まで、中国の主たる年中行事を追いながら、仏教者がどのように対応したかを考える。

参考書等

中村喬『中国の年中行事』平凡社選書  
同氏『統中国の年中行事』同上  
同氏『中国歳時史の研究』朋友書店

科目名	担当者名	配当学年	単位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

この授業は、「日本仏教文化史（Cultural History of Buddhism in Japan）」であるが、私は、「仏教思想」を知らずしては、「仏教文化」を正確に理解することはできないとの立場を取っている。原則的なことをいえば、「仏教思想」に関心をもっている方にむしろ参加して頂きたい。しかも、できれば、講義形式を取りたくないと考えているので、少人数の方がよい。

講義の内容・授業スケジュール

この授業の中心は、昭和12年に文部省より刊行された『国体の本義』を読むことに置く。「思想」的にいえば、本書ほど非仏教的なものはそれほど多くはないと思うが、本書を慎重に読むことによって、我々現在の日本人も、本書に説かれているような考えを、知らず識らずのうちにいかに我が国の「仏教文化」の中核のごとく考えているかを思い知るであろう。しかも、このような考え方が、例えば、吉本隆明・梅原猛・中沢新一『日本人は思想したか』（新潮社、1995年）のごとく、一人前に日本人の「思想」を語ろうとしている出版物にすら歴然とした痕跡を残している。『国体の本義』は、「我が国の文化は、鞏固以来の大精神の顕現である。これを豊富にし発展せしめるために外来文化を摂取醇化して来た。」(114頁)という「文化史」観に立つが、土俗信仰温存の立場からいけばかかる史観も成り立ちうるかもしれないが、仏教の「思想」から見ればそうはならないことを丁寧に指摘していきたいと思っている。この授業は、一昨年度よりの統講であるが、本年度は、『国体の本義』第二「国史に於ける国体の顕現」より講読する。なお、本年度は、下記の家永三郎博士の著作も教科書として採用するので用意されたい。

履修上の留意点

演習形式を取るの、自分で調べて発表する意欲のないものは決して参加してはならない。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教科書

家永三郎『日本文化史』第二版 岩波新書 660円  
『国体の本義』は図書館に多数所蔵されているので借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。

参考書等

参考書は適宜指示する。

その他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禪 美 術	えびね としお 海老根 聰 郎	学芸員2・3・4選	4

講義の内容・  
授業スケジュール

日本の中世の絵画の流れを、それを作りだした禅宗画僧に焦点をしぼり、述べる。関連して、中国の画僧についてもふれる。  
 主な画僧は以下のとおり。  
 <中国>智融、牧谿、雪窓  
 <日本>黙庵、鉄舟、周位、明兆、周文、雪舟など、  
 授業は毎回、スライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 美 術	なかじま りょういち 中 島 亮 一	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

アジアにおける仏教美術の発生、伝播、現状までを、インド・中国（朝鮮も含む）・日本の三ブロックに分け、それぞれの民族・信仰の相関関係を分析し、様式史（図像・技法など）、精神史（信仰思想など）の両面から考察する。

講義の内容・  
授業スケジュール

先ずインドにおける釈尊なきあとの仏塔崇拜から仏像の起源をさぐり、石窟芸術の発生からシルクロードを経て中国での受容、変遷を辿り、中国から日本への直接、間接（朝鮮）の伝来の跡をスライド、資料などで観察する。それぞれの建築・彫刻・絵画・工芸の様式、信仰内容を多角的に考察するとともに、仏教美術衰退の原因も考える。

履修上の留意点

この講義は専門的に進めれば敬遠され、さりどて安易に流せば軽蔑されがちなので、各自自分のレベルに合わせて、予習、復習に努めてほしい。

成績評価の方法

スライド上映の度に感想文を求め、理解度を確認すると共に、平常点として加算する。

教 科 書

佐和隆研編『仏像案内』吉川弘文館 1,900円

参 考 書 等

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 民 俗 学	たに ぐち みつぎ 谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

成立宗教としての仏教が日本社会に受容され、地域社会に定着するには、民間の習俗や信仰と接触し習合する過程があった。したがって仏教と民俗、とりわけ民間信仰とのかかわりを追究することは、日本仏教の諸特徴を明らかにすることになる。仏教民俗学といっても、仏教の視点から民俗を捉えるのか、あるいは民俗の視点から仏教を捉えるのかによって微妙に違ってくるのもたしかである。本講義は、主として民俗学の立場からの考察が中心となる。

講義の内容・授業スケジュール

講義では、各地の具体的な調査事例を紹介しながら、地域社会における寺院の機能に焦点をあて、仏教年中行事、法会（祈禱と供養）、仏教的講集団、仏教の俗信、葬送儀礼、先祖祭祀、墓制などについて考察を行うことにしたい。

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計で行うものとする。

教 科 書

本義では、教科書は使用しない。参考書は授業の中で必要に応じて紹介するが、この分野の全体を見渡せるものとして『仏教民俗学体系』全8巻（名著出版刊）があるので、図書館で閲覧しておくのが望ましい。

そ の 他

授業は、講義形式で行う。講義に必要な資料等は、できるだけコピーで配布していきたい。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 民 俗 学	たに ぐち みつぎ 谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』吉川弘文館

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
美術史概説	なか しま りょう いち 中 島 亮 一	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

本来は日本の美術史を編年体で進めたいところであるが、時間の制約もあるので、古代から近代（明治）までの中から、それぞれの時代の代表作、標準作をえらび、その特徴や意図、時代背景など多角的に考察する。この講義が博物館学講座の一環を占めているので、自らの体験や実務も含め、スライドを多用しながら進めたい。

講義の内容・授業スケジュール

日本美術史の古代から近代まで、建築・彫刻・絵画・工芸の中から代表作を選び、重点的にとり上げ、その芸術思潮をとらえる。

成績評価の方法

各時代のテーマの講義の始めか終わりにはスライドを上映するが、各自の印象を確実にする意味でも、感想文を書いてもらい、それを平常点として評価に加算する。

教科書

久野健他編『美術史<日本>』東京堂出版 2,000円

参考書等

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代美術	や の よう こ 矢 野 陽 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

現代美術は難しい、つまらないという声をよく聞くが、確かにルネサンスや印象派の美術に比べ、現代美術の作品は理解しにくいものが多い。しかし、美術作品は、現代のものに限らず、ただ好きなものを眺めていればわかるというものではない。理解するためには、制作された当時の社会背景や、作者の意図などを正確に知る必要がある。現代美術は、現代という時代と、そこに生きている我々のあり方を反映していると言ってよい。したがって、現代美術の考え方や表現技術を理解することは、我々の生活と決して無関係なものではなく、現代社会の問題点を考える手がかりになりうるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

現代美術とは、一般に20世紀の美術を言う。この授業では、めまぐるしい変化をとげながら、新鮮で多様な表現を生み出してきた現代美術の流れをつかみ、それぞれの運動、主張、作品の特徴を理解することを目的とする。20世紀の美術は、それ以前の美術の歴史の継承と断絶であるから、19世紀美術から講義を始めることになる。前期では19世紀中頃（写実主義、印象主義など）から20世紀初頭までを、後期では抽象絵画の誕生以降、1960年代の多様な美術までを見ていく予定である。

履修上の留意点

美術史を学ぶには、実物を見ることが大変重要である。展覧会や美術館に積極的に足を運んでほしい。

成績評価の方法

成績は試験および出席状況、授業態度によって評価する。

参考書等

参考図書として、ニコラ・スタンゴス編 宝木範義訳『20世紀美術』パルコ出版  
美術出版社編集部編『現代美術入門』美術出版社  
を挙げておく。このほか適宜、授業中に文献を紹介する。

その他

授業では毎回スライドを使用する。また必要な資料はコピーを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 形 学	こ 池 一 之 こ い け か ず ゆ き 池 一 之	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く排出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである：  
 1. 地形学の成り立ち 2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

小池一之・坂上寛一ほか著『新版地学教育講座⑨「地表環境の地学——地形と土壌」』東海大学出版会 ¥2,575

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』東京大学出版会 ¥4,532  
 小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』東京大学出版会 ¥3,708

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
第 四 紀 学	や な ぎ だ ま こ と 柳 田 誠	学 芸 員 3・4 選	4

講義のねらい

地球の歴史は46億年という長きに及んでいる。数字で書くと4600000000年である。その長い歴史のうち、最後の180万年間が「第四紀」と呼ばれる地質時代である。第四紀という地質時代は地球の歴史全体のなかでわずかに0.04%の長さしかないが、もっとも重要な時代である。なぜなら第四紀は人類の発展進化の時代である。また、周期的に氷河時代がおとずれるようになり、汎世界的な海面変動が起った。最終氷期には約100mも海面が低下し、縄文時代には逆に数m高い位置に海面があり、関東平野中央部まで海域がひろがっていた。このような最近の地球の歴史をふりかえり、その規則性や変化速度などを知ることによって、第四紀学に基づく将来予測が可能となってくる。この講義では第四紀学の概要を紹介しつつ、最新の話題についても論じる。

講義の内容・授業スケジュール

内容は以下のとおり、1. 第四紀とは、2. 気候変動（氷期と間氷期）、3. 水河性海面変動、4. 第四紀地殻変動、5. 侵食速度、6. 地形発達、7. 第四紀学に基づく地球環境の将来予測

履修上の留意点

地形学、地球物理学を事前に履修していることが望ましい。

成績評価の方法

レポート等による。十分に専門的知識を備えた者と判定された者に対して単位を与える。

その他

授業ではOHP、スライドを多用してわかりやすい内容を目指す。また、プリントも適宜配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
考古学概説Ⅰ 〔日本〕	さか い きよ し 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎無くしては成り立たない。

講義の内容・  
授業スケジュール

日本考古学の研究史、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。

履修上の留意点

欠席、遅刻をしないこと。

成績評価の方法

定期試験と出席で採点。

教 科 書

授業の中で取り上げる。

参 考 書 等

鈴木公雄『考古学入門』東大出版会  
安森政雄『考古学キーワード』有斐閣  
江上波夫『考古学ゼミナール』山川出版社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
考古学概説Ⅱ 〔外国〕	い い じ ま たけ ぶ 飯 島 武 次	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。

講義の内容・  
授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参 考 書 等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（1985年）山川出版社  
飯島武次『中国新石器文化研究』（1991年）山川出版社  
飯島武次『中国周文化考古学研究』（1997年）同成社

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 文 化 史 Ⅱ	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・  
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに⑦以降の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下廻上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教科書

とくに指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参考書等

授業中に随時指示していく。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
西 洋 文 化 史 Ⅱ	さ さ き まこと 佐々木 真	学芸員2・3・4選	4

#### 講義のねらい

フランス絶対王政期の王権とそれを取り巻くシステムについての講義を行う。近年の絶対王政研究では、国王の権力は単にその法的権限から導き出されたのではなく、宮廷や絵画、様々な儀式などを通じて、文化的に形成されたものであることが指摘されつつある。本講義では、当時の国王がどのようにイメージされていたのか、また国王はどのような装置を通じて、いかなる自己イメージを確立しようとしたのかを具体的に述べてみたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 同時代人たちの王権論（主権論、王権神授説など）
2. 王権を取り巻く儀式（成聖式、入城式、葬式）
3. 国王と宮廷
4. 戦争と国王

#### 履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

#### 成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

#### 教科書

教科書は特に指定しない。

#### 参考書等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。

ノルベルト・エリアス『宮廷社会』 法政大学出版局  
 エルンスト・カントーロヴィチ『王の二つの身体』 平凡社  
 ジャン＝マリ・アポストリデス『機械としての王』 みすず書房  
 同『犠牲に供された君主』 平凡社  
 ロイ・ストロング『ルネサンスの祝祭』 平凡社  
 フィリップ・ポーサン『ヴェルサイユの詩学』 平凡社

#### その他

授業は講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
考 古 学 特 講 I	たか 高 浜 秀	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

ハンガリーから中国の北にかけて広がるユーラシア北方草原（ステップ）地帯では、古来牧畜を主な生業とする人々が暮らしていた。ここでは農耕に依存する定住民の文化とは異なった文化が発達したが、紀元前1千年紀の初め頃（前10世紀～7世紀頃）に開始された騎馬による遊牧は、この地域の文化を大きく変えた。生活形態や物質文化のきわめて類似した文化がここに数多く形成されたのである。これは西アジアや中国などの定住民に大きな影響を与えるとともに、東西交渉の道としても機能することになった。これらの文化はまとめて初期遊牧民文化、あるいは代表的な民族の名を取って、スキタイ系文化とも呼ばれている。

その後、紀元前3世紀頃になると西方ではスキタイに替わってサルマタイと呼ばれる民族が大きな位置を占め、東方では匈奴が一大帝国を作り上げる。当時中国の前漢時代の鏡が、黒海沿岸にまで発見されるが、それはこの時期の盛んな東西交流を如実に示している。

今回の講義では青銅器時代の末期における初期遊牧民文化形成の問題から、サルマタイー匈奴時代にいたるまでのこれらの文化を概観する。

履修上の留意点

この地域の考古学の最新の成果を伝える日本語の参考書はきわめて少ない。講義に出席することが必要である。

成績評価の方法

成績はレポートにより評価する予定。講義に関連した題目を出題する。

教科書

教科書はないが、参考書や参考文献は、講義の初めなどに適宜指示する。

その他

講義を中心とし、プリント・スライドおよびビデオを時に応じて使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
考 古 学 特 講 III	や 矢 の 野 かず 和 之 ゆき	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
  - ・日本建築史（古代）概要
  - ・遺構とその上部構造の復元
  - ・保存計画概論
  - ・保存科学、保存工学概論
  - ・まちづくりと文化財
  - ・計画策定の実務
  - ・国内の事例
  - ・海外の事例・文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理料系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教科書

なし。

参考書等

適宜指示。

その他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
西域美術史	まつ だいら みわこ 松 平 美和子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

中国が漢代以来「西域」と呼んでいた地域はパミール高原の東側の東トルキスタンであるが、後には西トルキスタン、そしてアフガニスタンやイラン以西の諸国も西域と呼ばれるようになる。講義では東トルキスタンから、イランまでを広義の西域と考え、いわゆるシルクロードとして大いに繁栄したこの地域の考古美術品の中に東西文化混淆の様子を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① イラン装飾文様とその東伝  
イラン美術に見られる「葡萄唐草文」、「花喰鳥文」、「王冠飾り」、「有翼人物像」などの装飾モチーフの変化について
- ② クシャーナ朝美術とその意義  
東西文化の接点であるクシャーナ朝の遺跡と遺品について
- ③ タク라마カン砂漠周辺のオアシス都市の美術  
狭義の西域美術であるクチャ、トゥルフアン、ホータン、敦煌などの美術について

成績評価の方法

学年末と夏期休暇後の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な美術作品を対象とする学問なので、毎時間スライドを多く用いる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗教人類学	まさき こう かん 佐々木 宏 幹	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

宗教は人類文化の最古層に属すると考えられている。宗教人類学は人間の営みとしての宗教文化を文化人類学、社会人類学、民俗学の方法と理論に拠って研究する学問である。人間にとって、人類にとって宗教とはなにかという問題を、人類学や民俗学の研究成果を十分に利用しながら追究し、人間が生きるということの意味の考察につなげていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を企図している。1.文化と人間、2.社会と世界観、3.宗教の原形形態、4.人間と動物、5.民族宗教、6.世界宗教、7.アニミズム・多神教・一神教の関係、8.仏教・キリスト教・イスラム教、9.民族問題と宗教、10. 環境問題と宗教、11. 習合宗教、12. アジア宗教の特色、13. 日本宗教の特色、14. 新宗教とは、15. 「ほとけさま」と日本人。  
講義には必要に応じて資料を配布し、またスライドやビデオを使用し、理解の助けにしたい。

履修上の留意点

ときどき出席をとり、評価の参考にする。  
夏休み中に「故郷の宗教行事」（仮題）のようなりポートを書いてもらうことを考えている。

成績評価の方法

講義内容にそったレポート作製。400字詰原稿用紙5枚～8枚程度（参考文献名を明記すること）。

教科書

佐々木宏幹著『聖と呪力の人類学』講談社 840円

参考書等

佐々木宏幹著『宗教人類学』講談社 980円

V 社会福祉主事 基礎講座  
社会福祉士



# (1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会福祉原論	前期：長尾譲治 後期：伊藤秀一	社福主事2必	4

## 講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったのである。そしてその制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がこのように変化してきた跡をたどり、なぜ今日の社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。さらに、2年次以降の専門科目を受講する際の準備にも役立つような内容にしたいと考えている。

## 講義の内容・授業スケジュール

### 1 現代社会における社会福祉の意義

- 1) 社会福祉の意味
- 2) 社会福祉と関連する諸概念
- 3) 社会福祉の対象と主体
- 4) 社会福祉の補充性

### 2 社会福祉の歴史的発展

- 1) 欧米における社会福祉の発展
- 2) わが国における社会福祉の発展

### 3 社会福祉の組織と運営

- 1) 社会福祉法制
- 2) 社会福祉法制の体系
- 3) 社会福祉事業の経営主体
- 4) 福祉の措置
- 5) 社会福祉の経費

### 4 社会福祉の分野

- 1) 公的扶助（生活保護）
- 2) 児童福祉
- 3) 老人福祉
- 4) 障害者福祉

### 5 社会福祉の方法

- 1) ケースワーク
- 2) グループワーク
- 3) コミュニティワーク

### 6 社会福祉における人の問題

- 1) 人の問題の重要性
- 2) 社会福祉従事者の動向
- 3) 職種の問題
- 4) 社会福祉職員の専門職論
- 5) ボランティアの問題

### 7 社会保障と社会福祉

- 1) 社会政策と社会事業
- 2) 社会保障と社会福祉

※上記1～4の1)までを長尾（前期）が、4の2)以下を伊藤（後期）が担当予定。

## 成績評価の方法

担当教員が交代予定のため、評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

## 教科書

仲村優一著『社会福祉概論』 誠信書房

## 参考書等

講義の内容を上記のテキストでカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会福祉原論	こ だ ま や ひ ろ こ 児玉谷 広 子	社福主事2必	4

講義のねらい

社会福祉は社会の政治や経済状況、人口構造、家族構造、生活環境の変化を背景にして変化する。現在、社会福祉は我々の生活の多様化したニーズに対応し、個人個人の家族生活や社会生活を支える社会制度として存在し、子どもから高齢者、障害や病気をもちながら生活する人びと等全ての人が主体性をもちながら生活するための現金給付、現物給付、施設サービス、在宅サービス、対人援助サービス等が提供され我々の日常生活に身近なものとしてとらえられる必要がある。本講義では、社会の変化とともにどのような生活問題が生じて、それに対応する社会福祉政策、社会福祉制度のしくみ、具体的な社会福祉サービス、専門職のありかた等がどのように変化し、どのような課題を担っているかを学習する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ・現代社会と社会福祉の意義
  - 社会福祉の理論・概念・範囲
  - 社会福祉の思想と原理
- ・社会福祉の歴史
- ・社会福祉の対象とニーズ
- ・社会福祉の主体
- ・社会福祉の法制度・行政組織・民間組織・財政のしくみ
- ・海外の社会福祉と我が国の国際協力
- ・社会福祉援助の理論・方法・技術
- ・社会福祉援助活動の専門性・倫理性
  - 随時、事例研究、グループディスカッション、ロールプレイ、ビデオ学習、質疑をとり入れ主体的な講義内容理解を促す。

成績評価の方法

出席日数、小レポート、学期末テスト

教 科 書

仲村優一著『社会福祉概論』誠信書房

参 考 書 等

講義時に指示する。

# (1) 選択科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
法 学 ( 福 祉 )	けい とく ひろ とう 鶏 徳 啓 登	社福主事2・3・4選	4

## 講義のねらい

現代の我国では、憲法制定50年経過し、国外的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきているが、国民の高齢化に伴う福祉問題はそのうちでも非常に重要なものの一つである。我国によりなされている福祉政策は、憲法に根拠を有し、個々の行政法規に基づくものがその中心をなす。

本講義は、これら諸問題を解決し得るようになるために、憲法、行政法、福祉法規の輪郭を理解することをねらいとする。

## 講義の内容・授業スケジュール

- |                |               |                |
|----------------|---------------|----------------|
| i 法の意義・効力      | ii 法の分類・解釈    | iii 現憲法の原則     |
| iv 基本的人権の分類・内容 | v 行政法の意義・効力   | vi 各種行政作用と福祉行政 |
| vii 生活保護法の解釈   | viii 児童福祉法の解釈 | ix 老人福祉法の解釈    |

## 成績評価の方法

成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。

## 教科書

小林弘人編著『社会福祉のための法入門』川島書店 2,000円  
『福祉小六法』出版社・定価各種

## 参考書等

教場にて説明致します。

## その他

本講義は、憲法の理解を前提とし、行政法理論の知識を踏まえて行政法各論として福祉関連法規の解釈を中心に行なうものであるから、「法学憲法」「行政法」を履修することが望ましい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 千代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会事業は、近代社会がスタートすると同時に生成した。もちろん、それ以前の社会においても人々の生活は不安にさらされていた。

生活の不安は、自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には常に多くの社会問題が生じ、人々は生活困難におちいった。その影響が大きくなるにつれて、慈善（恵）や救済から社会事業としての方向が確立したといえる。そして、社会福祉という方法に到達し福祉国家の実現となった。最近は、福祉社会といわれる考え方に至っている。

この長いプロセスの理解と、社会福祉は一定の歴史的産物であるという認識こそ社会福祉の学習に不可欠である。

対象、問題解決の方法、方法の意図、施策の背景をなす思想を講義する。

講義の内容・授業スケジュール

資本主義の発達と社会福祉の生成は、英国が典型である。日本については当然ではあるが時間のある限り米国や北欧諸国などにもふれたい。

〔英 国〕

- ①前史
- ②中世封建社会と慈善
- ③絶対王政下の救貧制度
- ④旧救貧法と近代的慈善事業の生成
- ⑤産業革命と新救貧法のスタート
- ⑥社会事業近代化への動向
- ⑦社会保障制度の成立と諸技術の発展
- ⑧今日の状況と諸問題

〔日 本〕

- ①前史
- ②日本における救貧法の系譜と公的救済
- ③封建社会と慈善・慈恵
- ④資本主義の生成と救済事業
- ⑤社会事業の生成と組織化
- ⑥昭和期の社会事業と厚生事業
- ⑦戦後の社会福祉（事業）
- ⑧現在の状況——福祉社会について

履修上の留意点

授業は講義形式で行なう。しかし常に質問を受け、あるいは話のやりとりをしながら進めたい。社会福祉の理解には、知識の集積や論理の把握にとどまらず身近な生活の中での実感が必要不可欠だからである。講義もどの時点であれ、現在の問題や具体例と結びつけてすすめていく。

成績評価の方法

単位認定は、年一回のレポートによる。

教科書

教科書は決めないが、参考書は開講初日に提示の予定。

そ の 他

知識や考察を内在化させ、学生個々の自己認識を深めていくことをめざしたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
リハビリテーション論	はら だ しん いち 原 田 信 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

リハビリテーションにおいて、学問的に著しく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれる。その理由として考えられるのが、この分野は、内蔵する問題が広汎、多岐に亘っているばかりか、いずれも難解な社会福祉問題を抱えていることが著しい遅滞をもたらす原因となっているといわれている。そこで、とくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、障害をめぐる社会問題と諸環境問題、隣接科学と実践問題そしてグローバルな視角から社会リハビリテーションの国際的展望などを主眼において講述する。

講義の内容・  
授業スケジュール

本講は、つぎのような骨子に基づきすすめる。

- |                           |      |      |
|---------------------------|------|------|
| 1. 社会リハビリテーションの基本問題       | } 前期 | } 後期 |
| 2. 障害をめぐる社会問題と諸環境問題       |      |      |
| 3. 社会リハビリテーションの実践とその方法    | }    |      |
| 4. 社会リハビリテーションを支える隣接科学と実践 |      |      |
| 5. 社会リハビリテーションの従事者教育      |      |      |
| 6. 社会リハビリテーションの国際的展開      |      |      |

成績評価の方法

レポート乃至は、筆記試験を実施する。なお、評価は、出席点も加味する。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

講義中、随時指示する。

そ の 他

講義形式が中心。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
社会 保 障 論	前期：船水 浩行 後期：伊藤 秀一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。

社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保証を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障が、どのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、わが国における社会保障制度の現状と課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・授業スケジュール

- |                     |                 |              |
|---------------------|-----------------|--------------|
| 1 現代社会における生活問題      | 2 社会保障の史的展開     | 3 社会保障の理念    |
| 4 社会保障の概念、範囲、規模     | 5 社会保障の財政       | 6 社会保障の機能    |
| 7 社会保障の問題点と今後の課題    | 8 わが国の社会保障制度の体系 |              |
| 9 わが国の社会保障各制度の沿革と概要 |                 |              |
| 1) 年金保険             | 2) 医療保険         | 3) 労災保険      |
| 4) 雇用保険             | 5) 公的扶助         |              |
| 6) 児童手当             | 7) その他          |              |
| 10 民間保険の役割          | 11 社会保障の実施体制    | 12 社会保障研究の動向 |
- ※ 上記8までを、船水（前期）が、以降を伊藤（後期）が担当予定である。詳細は、第1回授業時に連絡します。

成績評価の方法

担当教員が交代予定のため、評価は、前期末と年度末の2度試験を実施し、その総合評価とする。

教 科 書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座5 社会保障論』中央法規

参 考 書 等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』法研  
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』中央法規

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
家 庭 福 祉 論	いわ 岩 かみ 上 ま 真 み 珠	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

いま、子どもの権利が注目されているが、子どものウェルビーイングはいかにして達成されるのか。講義では、子どものウェルビーイングと家庭機能の問題を、男女平等社会の役割分担のあり方や家族の多様化をふまえて考えてみたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義は、次のような内容で進めていきたい。

- 1) 「ウェルビーイング」の考え方
- 2) 家庭の機能
- 3) 日本における子どもの位置づけ
- 4) 子どもの権利
- 5) 男女平等社会と子育てサポート
- 6) 家族の多様化と子どもの福祉

履修上の留意点

問題意識をもって聴講してもらいたい。また随時意見や感想をレポートしてもらおう予定である。

成績評価の方法

小レポート、期末試験、および平常点（出席状況を含む）で評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

高橋・網野・柏女編著『ハイライト子ども家庭白書』川島書店 ￥2,884

そ の 他

講義を主体とする。必要なプリント類は随時配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会福祉計画論	かわ 川 たい 廷 もと 宗 ゆき 之	社福主事2・3・4選	4

#### 講義のねらい

問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面も強調されるように変化してきたことよって起きている近年の社会福祉サービスの領域の拡大は、そのサービス提供を組織的計画に行なわなければならない段階に到達しつつある。このような需要の増大に対応した行政計画の考え方は、建設領域や産業振興領域において戦後の長い蓄積がある。が、福祉領域においては、計画化の歴史は短い。その理由は、福祉には建設や産業振興とは違う要素が多く、計画的展開に馴染みにくかったことや、問題対応的な福祉サービスから抜けきれなかったためである。とすれば、福祉計画を考える時、これらの産業計画や建設計画と、福祉計画の性格がどのようにことなるのが考察されなければならない。

さらに、計画は実際の市民生活に多大な影響を与える実践である。その意味では、計画をどう作るのか、その手法も大きな問題となる。

#### 講義の内容・授業スケジュール

上記のような問題意識にもとづいて、福祉を中心のその計画（国家計画、地域計画、地域福祉計画、施設経営計画、市民生活の計画、等々）について学ぶが、その前提としては、福祉運営管理等についてもふれておく必要があるため、ソーシャル・アドミニストレーションの理論についての学習や日本における施設の運営管理上の課題などについても触れる予定である。

理論的内容を前期、実践的な計画技術についての考察や演習を後期に履修する。講義内容やスケジュールの詳細については、開講第1～2回の授業で説明する。なお、受講者数にもよるが、実際の計画立案技術の演習等も行なう予定であるため、それらの演習には、質問や意見の提案など積極的な関わりを期待している。

#### 履修上の留意点

この講義では、開講第1～2回で全体のスケジュール等を説明するので、必ず第1回から出席していただきたい。途中からの受講では事実上単位習得は難しいと理解してほしい。

社会計画はすぐれて実践的に学ばないと理解しがたい点も多い。そのため、授業ごとに資料を探したり読んで来る簡単な課題がだされることも多い。従って、欠席すると授業で何をしているのか理解できなくなる可能性が高いので、なるべく欠席しないように、又、実習等でやむを得ず欠席する場合は、受講する友人に内容を聞いておいてください。

なお、文学部社会学科福祉コースの学生以外の諸君が選択する場合は、この科目が社会福祉原論や社会福祉援助技術総論などで学ぶ福祉に関する基礎的な知識を前提として開講されている点を理解して、関係領域についての文献を読むなどの自己学習を並行して行っていただきたい。特に、社会福祉援助技術総論にでてくるソーシャルワークの基本的な考え方やコミュニティ・オーガニゼーション理論などについては、必ず習得しておいていただきたい。

#### 成績評価の方法

日常的な課題の提出状況、授業への質問や、意見を積極的に出しているかどうか、などに見る授業への参加度、期末に行なわれるレポートの提出、出席状況（最低出席日数の確保）等を配慮して、評価する。

#### 教科書

第1回目の授業時に指定する。

#### 参考書等

- ①高田真治『社会福祉計画論』誠信書房・1979年
- ②R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』全国社会福祉協議会・1980年
- ③全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』全国社会福祉協議会・1984年

#### その他

計画の立案演習を行う過程で、若干の資料代やコピー代が必要になると予想される。出来るだけ負担を軽くするようにするが、一部の学習経費の自己負担は止むを得ないので、若干の教材費については予定して選択してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国際社会福祉論	やまもとま真実 山本真実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

各国における福祉制度の背景となっている歴史・政治・生活・文化等から、各国の福祉サービス、政策体系を学び、各々がどのような方向性を指向し発展していく（る）のかを学ぶ。また諸外国と我が国制度との相違から、今後日本が求められている役割や改革していかなければならない点について考える。特に、子どもと家庭に対する考え方や捉え方、社会サービス体系の相違に着目し、具体的事例とともに各国制度の特徴をつかむ。

講義の内容・授業スケジュール

国際社会福祉を考える場合の基本的事項を折りませながら、スウェーデン、デンマーク等の北欧型、市場重視の英国、米国、また途上国等の国々を取り挙げる。

履修上の留意点

自分の考えをまとめ、意見を述べることを積極的に評価する。

成績評価の方法

出席、感想カード……………20%  
レポート（年1回）……………30%  
試験……………50%

教科書

指定は特になし。プリントによる資料を随時作成。

参考書等

第一回目に指示、提示。

その他

講義とビデオ等ビジュアル教材による併用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
保健福祉論	ながおしょうし 長尾譲治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 保健福祉とは  
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系  
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉  
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉  
身体障害／知的障害／精神障害／難病／結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉  
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向  
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題  
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

教科書

日本保健福祉学会編 『保健福祉学概論』川島書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
公 的 扶 助 論	前 期 : 船 水 浩 行 後 期 : 伊 藤 秀 一	社 福 主 事 2・3・4 選	4

#### 講義のねらい

公的扶助は、貧困の救済を目的とする。貧困状態（自らの力で自分自身や家族の生活を支えることができない生活状態）にある人々に対する援助である「扶助」が、国等の「公的」団体により、社会的扶養制度として、所得再分配を通じて行われるものである。

わが国の社会は、今や大変「豊かな社会」になったと言われて、貧困問題は少なくなったと言われている。しかしながら、現実には、傷病や失業等により生活費に不自由している人々は存在する。従って、公的扶助の役割は依然として重要であり、貧困やその原因を追求し、制度のあるべき姿を模索していく必要がある。

本講義では、公的扶助のあり方を左右する貧困の認識のプロセスをおさえながら、公的扶助の理念と制度がどのように展開してきたかを踏まえた上で、現代社会における公的扶助の役割と意義はどのような点にあるのか、わが国において代表的な公的扶助制度とされる生活保護制度の現状と課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

#### 講義の内容・授業スケジュール

- 1 公的扶助の理念とその史的発展
  - 1) 公的扶助の概念と範囲
  - 2) 欧米における理念と制度の史的展開
  - 3) わが国における理念と制度の史的展開
- 2 現代社会における公的扶助の意義
  - 1) 現代社会における貧困とナショナルミニマムの達成
  - 2) 現代社会における公的扶助の役割と意義
- 3 生活保護制度のしくみ
  - 1) 目的と基本原理
  - 2) 運用上の原則
  - 3) 保護の種類、内容
  - 4) 保護の方法
  - 5) 保護の実施機関、実施体制
  - 6) 保護施設
  - 7) 被保険者の権利、義務
- 4 生活保護の動向
  - 1) 被保護人員、世帯数等
  - 2) 保護費、保護基準
- 5 わが国の生活保護制度を巡る課題と展望

※上記1～3の2)までを船水（前期）が、以降を伊藤（後期）が担当予定である。詳細は、第1回授業時に連絡します。

#### 成績評価の方法

担当教員が交代予定のため、評価は、前期末と年度末の2度試験を実施し、その総合評価とする。

#### 教科書

西尾祐吾、清水浩一編『社会福祉士・介護福祉士講座 公的扶助論』 相川書房

#### 参考書等

厚生省社会・援護局保護課、厚生省社会・援護局監査指導課監修 全国社会福祉協議会編集『生活保護手帳』 全国社会福祉協議会

#### その他

- 1) 「社会福祉原論」「社会保障論」の内容を前提として授業を行う。
- 2) 随時、レポート等の課題を課す予定がある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
障 害 者 福 祉 論	はら だ しん いち 原 田 信 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

障害者福祉は、障害者のもつ障害を可能な限り軽減し、一般の人々と同様の生活条件と生活のやすらぎを享受できるようにすることであり、旧来からの陋習として存続してきた障害者観の克服を通して、憲法に明文化されている条文にも合致した、新しい価値観、障害者を創造し、これを国民の意識の中に定着させることを目指すことにおいて、障害者福祉は、社会福祉の体系の中で、特偵あるものとして位置づけられることができるのである。

こうした中で、現代社会は、障害者への理解を深めながら、地域を基盤にした援助活動の推進を通して、障害者と「共に生きる」(normalization)という共感関係を育てる方向へと動きつつある。そこで、本講では、障害者の多様で高度化を要するニーズの実態を披瀝し、それらを受容でき得る援助活動のあり方、更に、課題などについても論及する。

講義の内容・  
授業スケジュール

障害者福祉の講義は、つぎのような四つの体系化に基づいて巨視的、微視的な視角から接近し、概説する予定である。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1. 障害者福祉のとらえ方   | } 前期 |
| 2. 障害者福祉の対象     |      |
| 3. 障害者福祉の主体     | } 後期 |
| 4. 障害者福祉サービスと課題 |      |

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

レポート乃至は筆記試験を実施する。なお、評価は出席点も加味する。

教 科 書

星野他編『障害者福祉論入門』(改訂版)有斐閣双書 1,900円

参 考 書 等

講義中、随時指示する

そ の 他

講義形式が中心である。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
老 人 福 祉 論	とう じょう かつ まさ 東 條 光 雅	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

わが国の人口高齢化が社会的な関心を集めて久しい。高齢化については多くの文献が出版され、またマスコミにおいても日々盛んに取り上げられており、基礎的な知識に関してはかなり広まっていると思われる。しかし、これまでのわが国における高齢者対策の歴史、高齢化に伴って深刻化している高齢者の現実の生活問題やそれに対する福祉サービスの質的・量的現状、今後の老人対策の動向に関しては、特に若年世代の理解は十分とは言いがたい。わが国の高齢化社会の主役は現在の青・成年層であり、特に今後社会を支えてゆくべき青年層が高齢化の動向に関して正確な知識を持つことは重要と考える。

近年、老人福祉施策は流動的に変化しており、その重要性は増す一方である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉対策を考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の現況及び変化予測や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

成績評価の方法

出席点、夏休み中のレポート、年度末の定期試験を総合して評価する。

教 科 書

冷水豊編『老人福祉—政策・処遇の視点と方法——(第3版)』海声社 ¥2,000  
冷水豊編『老人福祉論』メディカルフレンド社 ¥1,957

参 考 書 等

三浦文夫編『図説高齢者白書1996』全社協 ¥2,900

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
児 童 福 祉 論	たか はし しげ ひろ 高 橋 重 宏	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

児童福祉は、社会福祉の一分野であり、日本国憲法、児童福祉法を基調とし、他の多くの領域と連携しながら推進される。児童福祉とは、大人の責任として「子どものウェルビーイング(子どもが子どもらしさを保ち、自らの可能性を開花させつつ生き生きと生活している状態—人権の尊重、自己実現の支援)」を促進する社会的な不断の努力を意味している。具体的には、法律に基づく公的なプログラム、非営利団体による自発的なプログラム、企業活動によって提供されるプログラムによって構成されている。

本講義では、子どもの権利条件、国連国際家族年の理念を基調に我が国の児童家庭福祉制度の概要を明らかにする。また、諸外国の制度を紹介しつつ、今後増加が危惧されている子どもへの不適切な関わり(マルトリートメント)、①身体的虐待、②性的虐待、③子どもへの心理的に不適切な関わり(心理的虐待、心理的ネグレクト)、④ネグレクト(不適切な保護・養育、無関心・怠慢)について解説するとともに、子どもの権利擁護のための子ども家庭サービスのあり方についても論究したい。

成績評価の方法

出席状況、定期試験、レポートを総合して評価する。

教 科 書

高橋重宏『子ども家庭福祉論—子どもと親のウェルビーイングの促進—』放送大学教育振興会 1998

参 考 書 等

厚生省児童家庭局企画課監修 高橋重宏他編『ビジュアル子どもと家庭』全国社会福祉協議会 1997

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
女 性 福 祉 論	はやし 林 ちよ 代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

女性は、社会構造の所産である性差別を根底に経済的、精神的、社会的なしわよせを受けてきた。婦人問題としての発生がそれぞれである。男女が平等に、対等な性として生きるのは困難をきわめたし、いまなお多くの問題を有している。

1970年代に入り、婦人保護事業の局面には、女性一般の姿がみられるようになり、彼女達がかかえている問題も多様化し、複雑になっていった。一方、婦人保護事業の売春防止法にもとづく本来的なり組みは、薄れていった。しかし、現実に売買春は拡大深化し、国際的な課題ともなっている。

売買春問題を基底に据えて、婦人保護事業の現実から女性の複雑阻害の実態をとらえ、女性の人権復権の検討を課題としたい。それは当然、男性の人権侵害を問い考えることになる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ① 女性問題と社会福祉
  - a 近代社会と婦人問題
  - b 戦後社会と女性
  - c 女性福祉の意義と理念
- ② 女性福祉の現状と課題
  - a 売買春と婦人保護事業
  - b 母子世帯の生活問題
  - c 寡婦の暮らし
  - d 女と老い
  - e 両親の就労と保育問題
  - f 福祉労働と女性
  - g 女性福祉に関連する諸問題
- ③ 女性福祉の枠組の検討

教 科 書

教科書は、特に無い。

参 考 書 等

参考書は随時紹介する。

そ の 他

講義は、その都度コピー資料を作成し配布。ビデオもできるだけ多く使用する予定である。単位の認定は、年一回のレポートによる。自己認識を深めることのできるような展開をしていきたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
医 療 福 祉 論	はるみしずこ 春 見 静 子	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健・医療の領域における専門職としての医療福祉職の実践について理解する。英国の医療福祉実践と日本のそれと比較しながら、患者と家族を取り巻く状況の分析、社会福祉への要求とそれにこたえる社会サービスの現状、医療現場での社会福祉援助技術のあり方を講義と演習を通して学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

内容は教科書のテーマに沿って毎週一つないし二つの問題を取り上げ、常にわが国の状況と比較しながらテーマを掘り下げる。少なくとも一回病院の見学を行う。

履修上の留意点

時々小グループで討議することがあるので、できるだけ積極的に参加して欲しい。また、希望する人には医療機関での実習を紹介する。

成績評価の方法

平常点と期末試験の点数で評価する。

教 科 書

ミーケ・バドウィ他『医療ソーシャルワークの実践』中央法規出版 2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 域 福 祉 論	わ だ と し あき 和 田 敏 明	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

21世紀に向けて、国民誰もが安心できる福祉社会を築くことを基本理念に第定された「21世紀福祉ビジョン」において、社会保障の基本的在り方を①国民生活の安定基盤たる社会保障の構築 ②年金、医療、福祉等のバランスのとれた給付の構造の実現 ③自助、共助、公助の重層的な地域福祉システムの構築の3点にあるとしている。このように本格的「少子・高齢社会」である21世紀に対応するための社会保障制度の再構築の推進がめざされている。平成5年度から、社会福祉事業法、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎えた。これにより、地方分権化、福祉供給システムの多様化、一方で、計画化やケア・マネージメント、ボランティア活動、住民参加型在宅福祉サービスの活発化などを伴い、地域福祉を基調とする福祉が急速な展開を見せている。公的介護保険の導入は、選択と契約による福祉の利用の時代をもたらすことになり、これらの傾向をさらに推進することになる。地域福祉理論もこうした実態をふまえ、絶えず新しい内容を追求し、体系化、理論化が図られている。

講義は、①福祉全体の動向の中での地域福祉の位置、政策動向 ②地域福祉概念成立過程と地域福祉概念 ③地域福祉の構成要素 ④推進方法 ⑤推進上の課題 ⑥推進組織 ⑦地域福祉の財政 ⑧地域福祉の担い手等について最新の実践や研究をふまえ講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

①現在の社会福祉の動向と地域福祉 ②地域福祉成立の背景 ③現代コミュニティと福祉コミュニティ ④地域福祉論の形成過程 ⑤地域福祉の概念 ⑥地域福祉の構成 対人福祉サービス 予防・福祉増進サービス 福祉環境づくり ⑦地域福祉推進の方法 ⑧地域福祉計画 ⑨地域福祉の運営・機構 ⑩地域福祉の実践・推進組織 ⑪地域福祉の担い手 ⑫ボランティア ⑬地域福祉の財源 ⑭推進の課題

成績評価の方法

レポート

教科書

社会福祉士養成講座7『地域福祉論』中央法規出版  
新・社会福祉学習双書『地域福祉論』全国社会福祉協議会

参考書等

永田幹夫著『地域福祉論』改訂 全国社会福祉協議会  
大国美智子・和田敏明編 明日の高齢者ケアNo.3『在宅支援の技法』中央法規出版  
岡村重夫『地域福祉論』光生館

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会学(福祉)	はし 橋 つめ 爪 さとし 敏	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、社会福祉士ならびに社会福祉主事を目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいで述べたように、この「社会学(福祉)」の授業は社会福祉士、社会福祉主事の資格取得に関わるものである。しかし、こうした資格に関わる受験対策そのものをねらいとするものではない。また、「福祉社会学」を論ずるものでもない。あくまでも、「社会学」の基礎知識の習得がねらいである。したがって、社会学の歴史、社会集団の種類、現代社会の諸問題などを取り上げることとする。

履修上の留意点

この授業は、すでに社会学についての若干の予備知識のあるものと、まったくの初心者も受講すると言う、変則的なところがあるが、初心者に判り易く語ることがを主にしていきたい。

成績評価の方法

成績評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』中央法規出版

参考書等

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』学文社  
 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』学文社  
 高尾・橋爪編『社会学の基礎』犀書房  
 R. ニスベット『現代社会学入門1～4』講談社学術文庫

科目名	担当者名	配当学年	単位
心理学(福祉)	たか 高 はし 橋 よし 良 ひろ 博	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉の現場で、必要とされる「心理学」の基礎的な知識を、習得することを目的とする、講義である。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、まず、心理学的なものの見方を身につけ、次に、社会福祉に関連するトピックスをとり上げてゆく。具体的には、以下の項目について、1年間を通し重点的にふれてゆく。

①心理学の歴史と現状に対する理解 ②人間の心理学的理解に関する基礎概念  
 ③人間の成長・発達の心理と諸問題 ④心理学的な人間理解に基づく援助技術

また、心理学研究の雰囲気になれるため、適宜、供覧実験や人格テストの体験なども織り込みながら講義を進めてゆく予定である。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への出席状況や、参加度)などを総合して評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会 編集『改訂 社会福祉士養成講座 11 心理学』中央法規  
 定価¥2,500